

平成 26 年度厚生労働省老人保健事業推進費等補助金
老人保健健康増進等事業分

地域で生活する認知症の人の生活を支える
在宅サービスのあり方に関する調査研究事業

報告書

平成 27 年 3 月

社会福祉法人浴風会

認知症介護研究・研修東京センター

内容

I. 調査研究の概要.....	3
1. 調査研究の背景と目的.....	3
2. 調査研究の方法.....	4
3. 研究会の設置.....	4
4. 検討委員会、手引書作成委員会の開催.....	6
5. 調査票の作成.....	7
6. 聞き取り・観察調査の実施.....	7
II. 聞き取り観察調査の結果.....	9
1. 聞き取り観察調査対象事業所の概要.....	9
2. 事業所の理念・目標や通所型サービスの役割について.....	20
3. 利用者支援の実践.....	21
III. 手引書の作成と報告会の実施.....	31
1. 手引書の作成.....	31
① アセスメントと計画に基づく日々の支援の流れ.....	32
② 介護支援専門員を通じた他のサービスとの連携.....	34
③ 介護者支援.....	34
④ 職員配置と情報共有.....	35
2. 報告会の実施.....	36
IV. 地域で暮らす認知症の人を支える通所型サービスの役割と課題、提言.....	37
1. 通所型サービスの強みを活かした認知症の人への支援.....	37
2. 聞き取り観察調査を通じて見えた課題.....	38
3. 提言.....	39
V. 資料.....	41
1. 聞き取り観察調査票.....	42
2. 事業所紹介.....	51

I. 調査研究の概要

1. 調査研究の背景と目的

国は団塊の世代が75歳以上になる2025年までに地域包括ケアシステムの構築をめざし、様々な施策を打ち出している。認知症については、平成24年9月に「認知症施策推進5か年計画（オレンジプラン）」を公表し、認知症ケアパスの作成・普及、早期診断・早期対応、地域での生活を支える医療や介護サービスの構築といった7つの柱を打ち出し、「認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で暮らし続けることが出来る社会」の実現を目指している。

加えて、平成26年11月に東京で行われた認知症サミットにおいて、安倍首相が政府一丸となって認知症の人の生活全体を支えるよう取り組むことを宣言したことを受け、平成27年1月には「認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）」が発表された。

認知症の人の在宅生活を支える通所型サービスに関する研究は様々あり、当センターにおいては平成24年度から継続的に研究を実施している。平成24年度は通所介護、認知症対応型通所介護、通所リハビリテーション、重度認知症デイケアの4つの通所型サービスを対象とした質問紙調査、聞き取り調査を実施し、それぞれの事業所の特徴を把握した¹。また、平成25年度には認知症対応型通所介護事業所に焦点を当て、アセスメントや通所介護計画の立案、通所介護計画に基づいた日々の支援の流れに沿って、事業所がどのようなところに重きを置いてケアを実施しているのか、利用者の状態像や家族の思い等についての質問紙調査と聞き取り調査を実施した²。

これまでの2年間の研究より、特に認知症対応型通所介護には以下のような役割・機能が求められることが確認された。

<認知症対応型通所介護事業所に求められる役割・機能³>

・認知症対応型通所介護は「可能な限りその人らしい在宅生活が継続できるよう、利用者ごとに認知症の症状を生じさせている疾患・障害、家庭での介護力、生活状況を考慮しつつ、生活障害の予防、軽減等を目指した支援を行うこと」を目標に、日によってまた時間帯によってADLや行動心理症状が異なり、感情の起伏が激しかったり、集団の場が苦手といった特徴を持つ認知症の人に対し、個々の認知症の人のニーズに合わせた個別ケアを提供する。

・認知症対応型通所介護をはじめとした通所型サービスは、その他の在宅サービスに比べて利用者とは直接かかわる時間が長い。特に認知症対応型通所介護は、認知症に特化した研修を修了している職員が配置されており、様々な活動や支援を通じて、日々そして時間によって変化する認知症の人の症状・状態を把握することができるという特長がある。そのため、認知症対応型通所介護の利用を通じて得た情報や知識を家族やケアマネジャー、医療機関等、認知症の人に関わる様々なステークホルダーと共有・連携しながら認知症の人の在宅生活の継続と家族への支援を行う。

¹ 社会福祉法人浴風会 認知症介護研究・研修東京センター「認知症の人に対する通所型サービスにあり方に関する研究報告書」（平成24年度老人保健事業推進費等補助金 老人健康増進等事業）、平成25年3月

² 社会福祉法人浴風会 認知症介護研究・研修東京センター「平成24年度介護報酬改定の効果検証及び調査研究に係る調査（平成25年度調査）(9) 認知症の人に対する通所型サービスのあり方に関する調査研究事業 報告書」（平成25年度介護報酬改定検証・研究委員会事業）、平成26年3月

³ 上記報告書 p88 より抜粋

すでに多くの認知症対応型通所介護事業所において、その特長である①認知症の専門的知識を有する職員が配置されている、②小規模な人と環境、③職員配置の手厚さ、を活かして個別ケアの実施に取り組んでいる。その実践過程や実践のための条件を明らかにし、他の通所型サービスや在宅サービスに広めていくことで、今後ますます増加する認知症の人を在宅で支えていくことが可能になることから、今年度はこれまでの調査研究を踏まえた上で、個別ケアの実践に力を入れている認知症対応型通所介護・通所介護における、個別ケアを実践するための過程（アセスメント、通所介護計画の立案と日々の支援）や職員体制等について確認し、その傾向を明らかにすると同時に、その結果を手引書としてまとめ、全国の通所介護、認知症対応型通所介護に広めることで、通所型サービスにおける認知症の人への支援のポイントが広まることを目的とした。

2. 調査研究の方法

認知症対応型通所介護ならびに通所介護において、認知症の個別ケアの実践に精力的に取り組んでいる事業所⁴に対し、聞き取り・観察調査を実施し、得られた結果を基に、通所型サービスにおける認知症の人への支援のあり方についての検討を行った。

3. 研究会の設置

当該分野に精通した有識者から成る検討委員会、ならびに手引書作成委員会を設置し、聞き取り・観察調査票の作成への助言、聞き取り・観察調査への同行、調査結果の解釈、調査結果を踏まえた通所型サービスにおける認知症の人への支援のあり方の検討、ならびに通所型サービスに向けた手引書の作成を行った。

⁴ 訪問先事業所は、昨年度、今年度に当センターにて実施した聞き取り調査に協力のあった認知症対応型通所介護事業所のうち、アセスメントや通所介護計画の作成に関する具体的な実践事例の報告のあった事業所（5か所）の他、手引書作成委員の事業所（4か所）と、認知症の個別ケアに力を入れていると紹介のあった通所介護事業所（6か所）、検討委員ならびに手引書作成委員より紹介のあった事業所（10か所）とした。

<検討委員会>

地域で生活する認知症の人の生活を支える在宅サービスのあり方に関する調査研究
検討委員会委員

- | | |
|--------|----------------------------------|
| 栗田 圭一 | 東京都健康長寿医療センター研究所 研究部長 |
| 落合 亮太 | 横浜市立大学大学院医学研究科看護学専攻 准教授 |
| 助川未枝保 | 一般社団法人日本介護支援専門員協会 常務理事 |
| 田部井康夫 | 公益社団法人認知症の人と家族の会 理事 |
| 中川 龍治 | 公益社団法人日本精神科病院協会 高齢者医療・介護保険委員会委員 |
| ○ 本間 昭 | 社会福祉法人浴風会 認知症介護研究・研修東京センター センター長 |
| 松浦美知代 | 医療法人財団青山会介護老人保健施設なのはな苑看護部長 |

*敬称略、50音順 (○は委員長)

<手引書作成委員会>

地域で生活する認知症の人の生活を支える在宅サービスのあり方に関する調査研究
手引書作成委員会委員

- | | |
|--------|--|
| 島田 孝一 | 株式会社 Professional Works デイサービスつむぎ 代表取締役 |
| 武田 純子 | 有限会社ライフアート デイサービスモア・サロン福寿 代表取締役 |
| 田村 宏 | 社会福祉法人町田市福祉サービス協会つくしのデイサービスセンター
管理者・生活相談員 |
| 坪井 信子 | 認定特定非営利活動法人語らいの家 代表理事 |
| ○ 本間 昭 | 社会福祉法人浴風会 認知症介護研究・研修東京センター センター長 |
| 宮島 渡 | 社会福祉法人恵仁福祉協会 高齢者総合福祉施設アザレアンさなだ
総合施設長 |

*敬称略、50音順 (○は委員長)

【オブザーバー】

厚生労働省老健局高齢者支援課	認知症・虐待防止対策推進室	室長補佐	櫻井 宏充
厚生労働省老健局高齢者支援課	認知症・虐待防止対策推進室	係長	岡本 慎
厚生労働省老健局高齢者支援課	認知症・虐待防止対策推進室	担当官	北澤 卓也
厚生労働省老健局振興課			

【事務局】

社会福祉法人浴風会	認知症介護研究・研修東京センター	副センター長	佐藤 信人
社会福祉法人浴風会	認知症介護研究・研修東京センター	主任研究主幹	進藤 由美
社会福祉法人浴風会	認知症介護研究・研修東京センター	研究事務	翠川 沙織

4. 検討委員会、手引書作成委員会の開催

当調査研究では、合計3回の検討委員会と、合計4回の手引書作成委員会を開催した。うち、2回は合同開催である（図表 1-1）。

【図表 1-1 検討委員会、手引書作成委員会の開催】

	日時、場所	議題
第1回検討委員会	平成26年10月9日(木) 19:00~21:00 ステーション コンファレンス東京	○ 今年度研究の目的とその背景(資料1) ・手引書に何を盛り込むべきかについて ・観察・聞き取り調査のポイント
第1回手引書作成委員会	平成26年10月10日(金) 19:00~21:00 ステーション コンファレンス東京	○ 今年度研究の目的とその背景(資料1) ・手引書に何を盛り込むべきかについて ・観察・聞き取り調査のポイント
第2回検討委員会/ 第2回手引書作成委員会 (合同開催)	平成26年12月22日(月) 18:30~20:30 ステーション コンファレンス東京	○ 在宅サービスが担う機能について ○ 聞き取り・観察調査について ○ 手引書について
第3回手引書作成委員会	平成27年2月13日(金) 18:30~20:30 ステーション コンファレンス東京	○ 聞き取り・観察調査の中間報告 ○ 手引書構成案について ○ 手引書執筆担当分担
第3回検討委員会/ 第4回手引書作成委員会 (合同開催)	平成27年3月16日(月) 18:30~20:30 ステーション コンファレンス東京	○ 聞き取り・観察調査の報告 ○ 手引書について ○ 報告書について ○ 今後に向けての提言

5. 調査票の作成

検討委員会ならびに手引書作成委員会の意見と一昨年度、昨年度の研究事業の結果を踏まえ、聞き取り・観察調査の調査票を作成した（図表 1-2）。

【図表 1-2 調査用紙の構成】

	項目
1. 回答者について	回答者氏名、法人名、事業所名、事業形態、役職
2. 事業所のある地域の特徴	人口、65歳以上人口、高齢化率、要介護認定者数、要介護認定者認定率、地域特性、日常生活圏域数、第五期介護保険料（月額）基準保険料、地域包括支援センター数、認知症対応型通所介護事業所整備数
3. 事業所について	所在地、開設主体、加算の算定状況、介護保険外サービス、昼食の提供方法、営業日、利用定員と営業日数、稼働率、経営状況、職員体制、職員の研修受講状況
4. 利用者について	性別・年齢、要介護度、認知症高齢者の日常生活自立度、障害高齢者の日常生活自立度、原因疾患、利用者の同居の状況、居住系サービスの待機者
5. 理念・目標と通所型サービスの役割	事業所の理念・目標、認知症の人とその家族が地域で暮らしていく上での課題、通所型サービスが担うべき役割
6. 利用者支援の	アセスメント、通所介護計画の作成、日々の支援、家族等介護者への支援、利用者が使っている他のサービスとの連携、他のサービスとの連携の工夫

*その他、事業所で使っているアセスメントシート、通所介護計画シートと評価表、日々の記録で使っているシート、家族への連絡シート、事業所の平面図（見取り図）、事業所のパンフレットの提出を求めた（注：書類関係はすべて無記入のものの提出を求め、利用者の個人情報の提供は求めている）。

6. 聞き取り・観察調査の実施

聞き取り・観察調査は、平成 26 年 12 月から平成 27 年 3 月にかけて、全国計 25 か所の事業所を対象に実施した（図表 1-3）。

【図表 1-3 調査協力事業所一覧】 *調査日順

	事業所名	所在地 調査日
1	株式会社 Professional Works デイサービスつむぎ	東京都杉並区 平成 26 年 12 月 16 日
2	認定特定非営利活動法人語らいの家 サロンデイ語らいの家	東京都世田谷区 平成 26 年 12 月 16 日
3	株式会社すずらん デイサービスすずらん梅丘	東京都世田谷区 平成 27 年 1 月 14 日
4	社会福祉法人町田市福祉サービス協会 おりづる苑もりの	東京都町田市 平成 27 年 1 月 26 日
5	医療法人社団千春会 せんしゅんかいデイサービスセンター風車	京都府長岡京市 平成 27 年 1 月 27 日
6	社会福祉法人恵仁福祉協会 萩の家	長野県上田市 平成 27 年 1 月 28 日
7	有限会社ライフアート モアサロン福寿	北海道札幌市 平成 27 年 1 月 30 日
8	有限会社シャイニング トトロの森のデイサービス	北海道札幌市 平成 27 年 1 月 30 日
9	社会福祉法人桜井の里福祉会 生きがい広場地蔵堂	新潟県西蒲原郡 平成 27 年 2 月 4 日
10	特定非営利活動法人お互いさまネットワーク デイサービス喜楽	群馬県館林市 平成 27 年 2 月 6 日
11	特定非営利活動法人認知症ケア研究会 デイサービスセンターお多福	茨城県水戸市 平成 27 年 2 月 9 日
12	社会福祉法人会津若松市社会福祉協議会 みなづるデイサービスセンター	福島県会津若松市 平成 27 年 2 月 10 日
13	一般財団法人竹田健康財団 認知症専門デイサービス OASIS	福島県会津若松市 平成 27 年 2 月 11 日
14	株式会社パーソン・サポート絆 デイサービス絆	福岡県筑後市 平成 27 年 2 月 17 日
15	有限会社 RAIMU デイサービスセンター来夢	長崎県佐世保市 平成 27 年 2 月 18 日
16	一般社団法人ゆうあい社会福祉事業団 デイサービスゆうあい古枝	佐賀県鹿島市 平成 27 年 2 月 18 日
17	公益財団法人正光会 デイサービスセンター「結い」じょうへん	愛媛県南宇和郡 平成 27 年 2 月 24 日
18	社会福祉法人ジェイエー長野海 宅老所そめや	長野県上田市 平成 27 年 2 月 25 日
19	株式会社ブランドゥ スーパーデイようざん	群馬県高崎市 平成 27 年 2 月 26 日
20	医療法人社団つくし会 やがわデイサービスセンター	東京都国立市 平成 27 年 2 月 27 日
21	株式会社さくらコミュニティーケアサービス ケアサロンさくら	神奈川県鎌倉市 平成 27 年 3 月 2 日
22	株式会社なごみ デイサービスなごみの家	千葉県四街道市 平成 27 年 3 月 3 日
23	社会福祉法人至誠学舎立川 至誠キートンケアセンター デイホーム	東京都立川市 平成 27 年 3 月 4 日
24	株式会社クロス・サービス デイサービス来住 (きし)	愛媛県松山市 平成 27 年 3 月 6 日
25	社会福祉法人久仁会 いきいきデイサービス	群馬県沼田市 平成 27 年 3 月 11 日

II. 聞き取り観察調査の結果

1. 聞き取り観察調査対象事業所の概要

今回の聞き取り観察調査の対象となった事業所は、以下の通りである。なお、対象事業所はそれぞれの事業所のこれまでの実績を踏まえて選定したことに加え、数も少ない（全部で 25 か所）ため、割合の算出や統計分析は行っていない。また、数値はすべて平成 26 年 10 月 1 日現在（実績は平成 26 年 9 月）のものである。

<調査対象となった事業所のある地域の概要>

○ 対象事業所のある都道府県

今回の調査の対象事業所の所在地は、北は北海道から南は九州まで、1 都 1 道 1 府 11 県、合計 21 市町村であった（図表 2-1）。

【図表 2-1 対象事業所のある都道府県】

都道府県	対象事業所数	都道府県	対象事業所数	都道府県	対象事業所数
北海道	2 か所	東京	6 か所	愛媛	2 か所
福島	2 か所	神奈川	1 か所	福岡	1 ヶ所
茨城	1 か所	長野	2 か所	長崎	1 か所
群馬	3 か所	新潟	1 ヶ所	佐賀	1 か所
千葉	1 か所	京都	1 か所	合計	25 ヶ所

○ 事業所のある地域の人口規模と高齢化率

事業所のある地域の人口規模と高齢化率を見ると、最も人口の多い地域は北海道札幌市の約 194 万人で、最も少ない地域は愛媛県愛南町の約 2.3 万人であった。

また、高齢化率については、最も低いところが東京都世田谷区の 19.5%で、最も高いところが愛媛県愛南町の 37.2%であった。

○ 事業所のある地域の地域包括支援センター数と認知症対応型通所介護事業所の整備状況

事業所の所在地のある市町村における地域包括支援センター数は、最も多いところが北海道札幌市と東京都世田谷区の 27 か所で、地で東京都町田市の 12 ヶ所、愛媛県松山市の 10 か所であった。

また、認知症対応型通所介護事業所の整備状況をみると、最も多いところは北海道札幌市の 70 ヶ所で、最も少ないところは千葉県四街道市の 1 か所であった。この数字は高齢者人口によっても影響を受けると考えられることから、「65 歳以上人口」を「認知症対応型通所介護事業所の整備数」で割り、1 事業所あたりの 65 歳以上人口を算出したところ、1 事業所あたりの 65 歳人口が最も多いところは千葉県四街道市で 1 事業所あたり約 2.4 万人、1 事業所あたりの 65 歳以上人口が最も少ないところは佐賀県鹿島市の約 1,200 人であった。

<事業所の概要>

○ 事業形態

事業形態は、認知症対応型通所介護事業所が 19 ヶ所、通所介護が 6 か所の、計 25 か所であった（図表 2-2）。

【図表 2-2 事業形態（事業所全体）】

	型	事業所数
認知症対応型通所介護	単独型*	15
	併設型**	2
	共用型	2
通所介護	小規模型	4
	通常規模型	1
	大規模型 I	1
合計		25

*単独型のうち、2 か所は 2 ユニット（1 日当たりの利用定員 12 名×2 ユニット）であった。

**併設型は共に 2 ユニット（1 日当たりの利用定員 12 名×2 ユニット）であった。

○ 法人形態

法人形態は社会福祉法人と株式会社が 7 か所で、医療法人（特定医療法人含む）、特定非営利活動法人（NPO：認定特定非営利活動法人含む）、有限会社がそれぞれ 3 ヶ所であった（図表 2-3）。

【図表 2-3 法人形態（事業所全体）】

	事業所数
社会福祉法人	7
医療法人（特定医療法人含む）	3
特定非営利活動法人（認定特定非営利活動法人含む）	3
株式会社	7
有限会社	3
その他	2
合計	25

○ 加算の算定状況

加算の算定状況は、「入浴介助加算」が24事業所であった。また、若年性認知症受入加算も11の事業所で算定していた（図表2-4）。

【図表2-4 加算の算定状況：複数回答】

	事業所数*
個別機能訓練加算	6
若年性認知症受入加算	11
栄養改善加算	4
口腔機能向上加算	4
延長加算	7
入浴介助加算	24
同一建物居住者にかかる減算	4

*平成26年9月の実績が0の場合も含む

○ 営業日

営業日は月～土と祝祭日（日曜休み）が10ヶ所で、月～日と祝祭日（休みなし）が8ヶ所であった（図表2-5）。

【図表2-5 営業日（事業所全体）】

	事業所数
月～日、祝祭日（週7日祝祭日含む）	10
月～土、祝祭日（週6日祝祭日含む）	8
月～金、日、祝祭日（週6日祝祭日含む）	1
月～水、金、土、祝祭日（週5日祝祭日含む）	1
月～金、祝祭日（週5日祝祭日含む）	2
月～土（週6日祝祭日休み）	2
月～金（週5日祝祭日休み）	1
合計	25

○ 稼働率（平成 26 年 9 月の 1 か月）

稼働率は、90%台の事業所（6 か所）から 30%台の事業所（1 か所）まで幅広く報告された（図表 2-6）。

【図表 2-6 稼働率（事業所全体）】

*（ ）内は認知症対応型通所介護事業所

	事業所数*
90%台	6 (4)
80%台	5 (5)
70%台	6 (5)
60%台	5 (3)
50%台	2 (1)
40%台	0 (0)
30%台	1 (1)
合計	25 (19)

*参考：全国の認知症対応型通所介護事業所の平均 58.0%

○ 昼食の調理

昼食の調理は、利用者と職員とで定期的（週 2 回以上）作っているとの回答のあった事業所が 4 か所あった。また、外部に完全委託し、食事を作っていない（盛り付けのみ事業所で行っている）事業所は 2 か所であった（図表 2-7）。

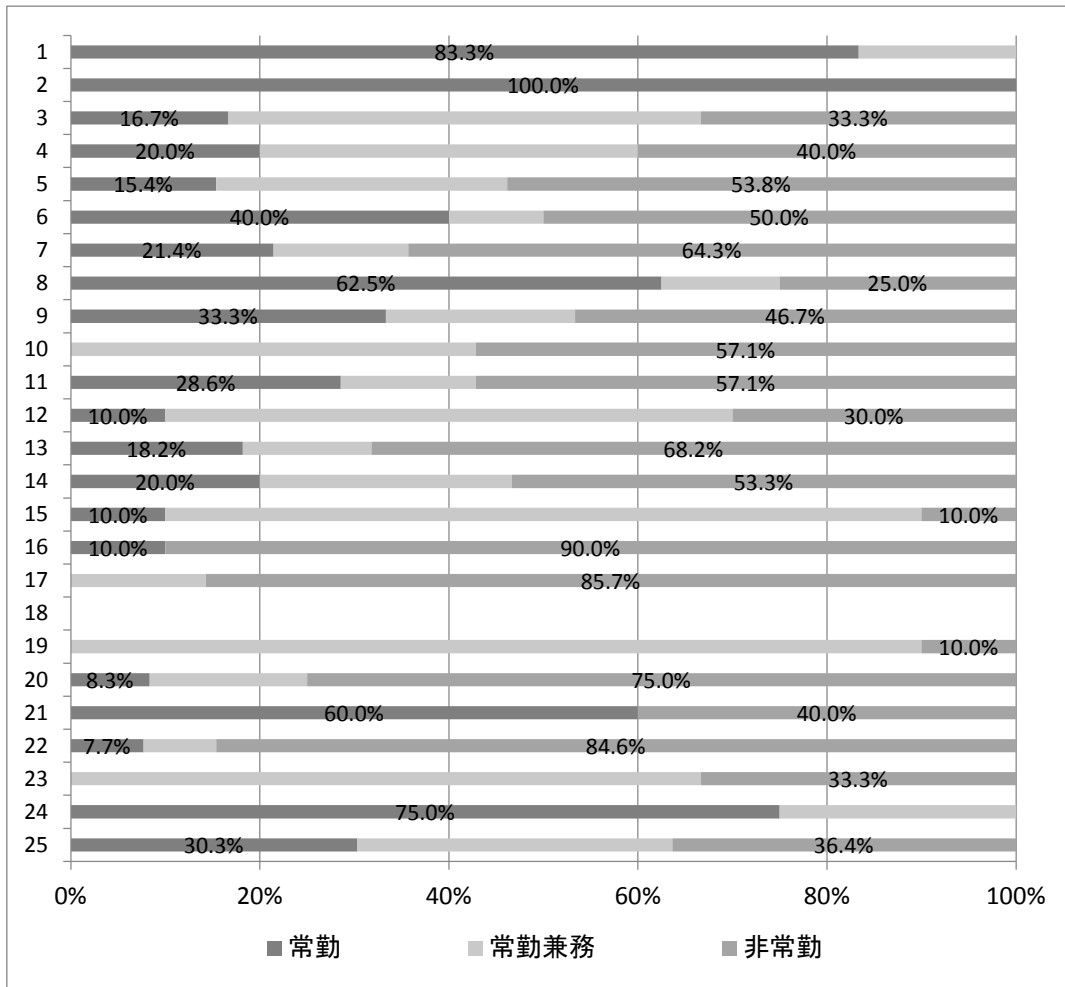
【図表 2-7 昼食の調理】*行事やアクティビティの一環等で利用者と一緒に作る場合を除く

	事業所数*
利用者と職員とで調理	5
職員が事業所内で調理	10
法人内の別部署で調理（法人職員による調理と外部職員の出向による調理の両者の含む）	7
外部からの取り寄せ（事業所で盛り付け）	2
合計*	24

*2 ユニットのとある事業所から、「1つのユニットは利用者と職員で調理し、もう1つのユニットは外部からの取り寄せしている」という報告があったため、合計からその事業所を抜いたことから、合計は 24 事業所となっている。

○ 職員体制

職員体制について、「常勤専従」、「常勤兼務」、「非常勤」で人数を確認し、それぞれの割合を算出したところ、常勤専従の割合が50%を超えている事業所が5か所、非常勤の割合が50%を超えている事業所が10か所であった（図表2-8）。



* 認知症対応型通所介護事業所の共用型は、登録者数が少ないことから、その値が割合に与える影響が大きいことに留意が必要である。

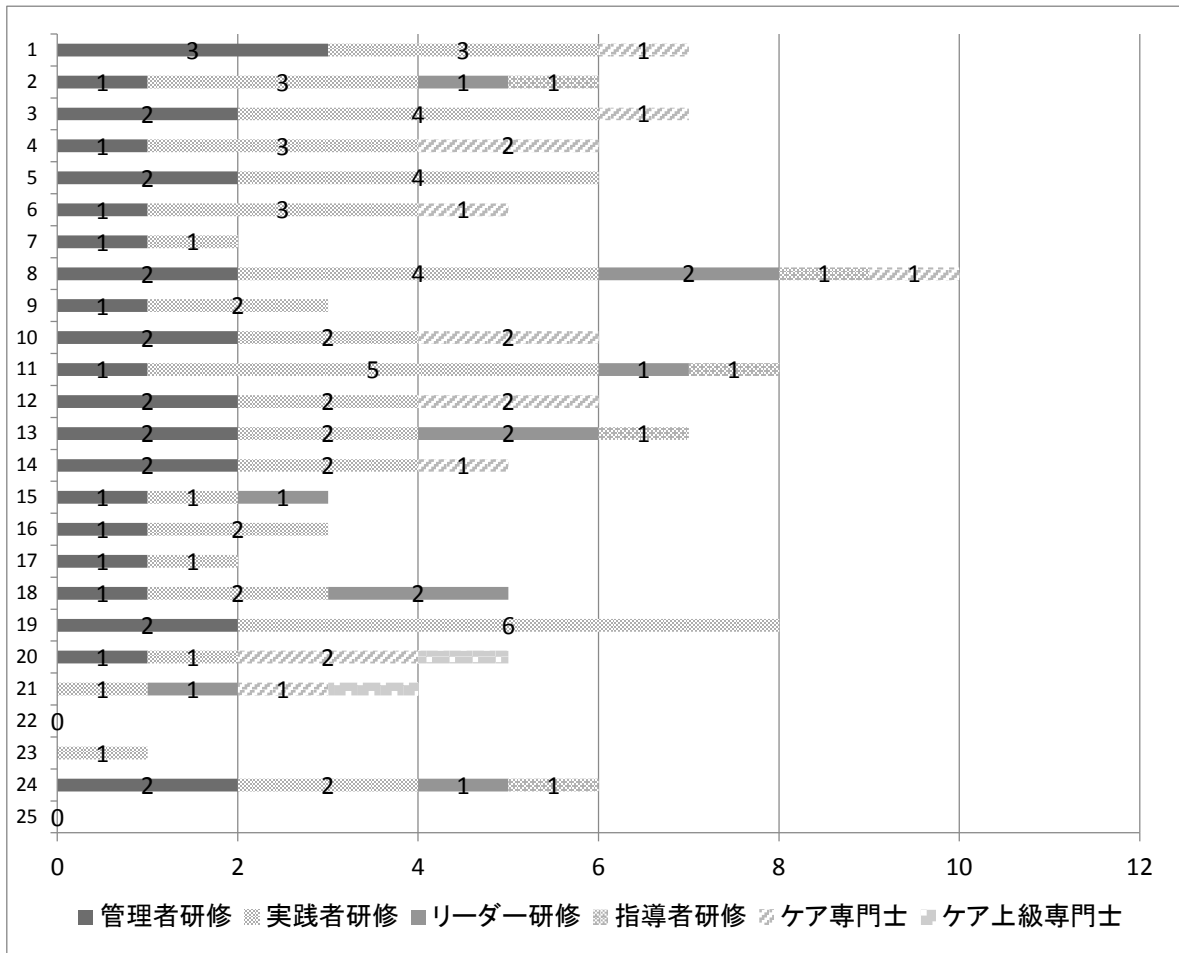
【図表2-8 職員体制】

注：割合は左側が常勤、右側が非常勤で、常勤兼務の割合は記載していない。
 なお、18番の事業所は無回答（欠損）であった。

○ 認知症に特化した研修を受けた職員

認知症対応型通所介護事業所は、その管理者は必ず認知症対応型サービス事業管理者研修（以下、「管理者研修」）の受講を義務付けられていることから、すべての事業所において管理者研修、またその研修の受講資格となる認知症介護実践者研修を修了している職員を配置しているが、特に認知症介護実践者研修は複数名が終了している事業所が多かった。また、管理者研修が必須でない通所介護事業所においても、認知症に特化した何かしらの研修を受講した職員を配置している事業所が複数あった（図表 2-9）。

この他、認知症看護認定看護師を 2 名配置している事業所もあった。



管理者研修：認知症対応型サービス事業管理者研修 実践者研修：認知症介護実践者研修
 リーダー研修：認知症介護リーダー研修 指導者研修：認知症介護指導者研修
 ケア専門士：認知症ケア専門士研修（資格取得者） ケア上級専門士：認知症ケア上級専門士研修（資格取得者）

【図表 2-9 職員が受講した認知症に特化した研修（事業所全体）】

注：横軸は「人」。表は積み上げとなっており、1 名が 2 つ以上の資格を持っていることが多いため、解釈に留意が必要である。

○ 利用者の認知症の原因疾患

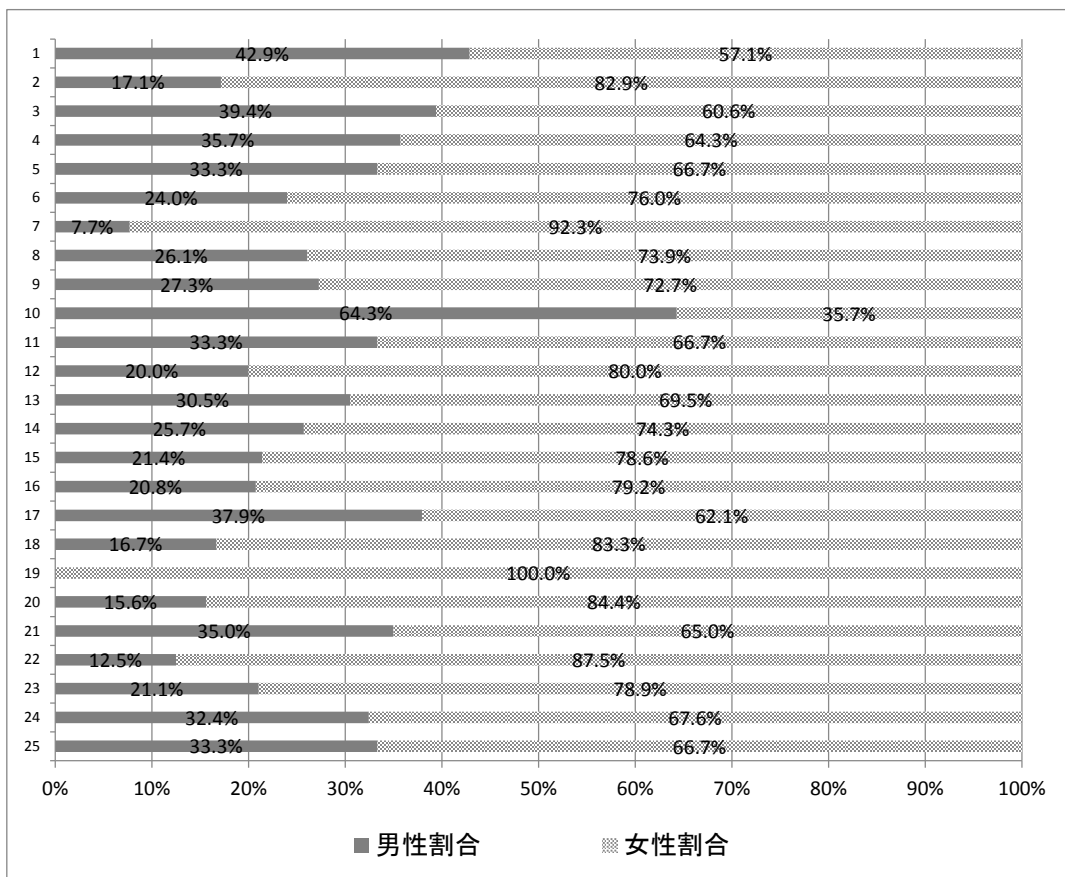
利用者の認知症の原因疾患をみると、アルツハイマー型の報告が最も多かった（図表 2-10）。また、「その他・不明」も多かったが、その理由として、診断書の記載が「老年性認知症」や「認知症」のため、疾患名はわからないとの報告がいくつかの事業所から聞かれた。

【図表 2-10 利用者の認知症の原因疾患（利用者全体の内訳の割合）】

アルツハイマー	血管性	レビー小体	前頭側頭	混合	その他・不明	全体
312 人	62 人	35 人	24 人	31 人	162 人	626 人

○ 利用者の男女比

利用者の男女比を見ると、女性の割合が高い事業所がほとんどであるが、1 か所のみ、男性の方が女性の割合を上回っていたところがあった（図表 2-11）。

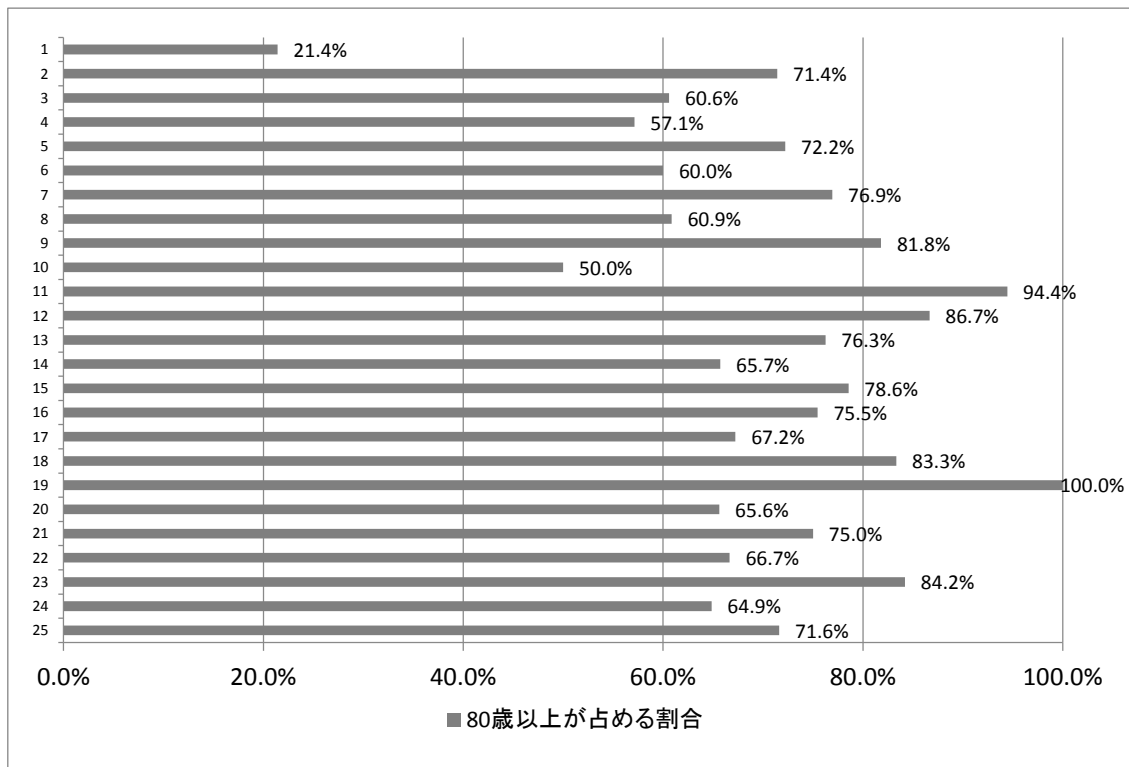


* 認知症対応型通所介護事業所の共用型は、登録者数が少ないことから、その値が割合に与える影響が大きいことに留意が必要である。

【図表 2-11 利用者の男女比（事業所ごと）】

○ 利用者のうち、80歳以上が占める割合

80歳以上の利用者が占める割合を見たところ、半数以上を占めている事業所が大半であったが、1か所は21.4%であった（図表2-12）。

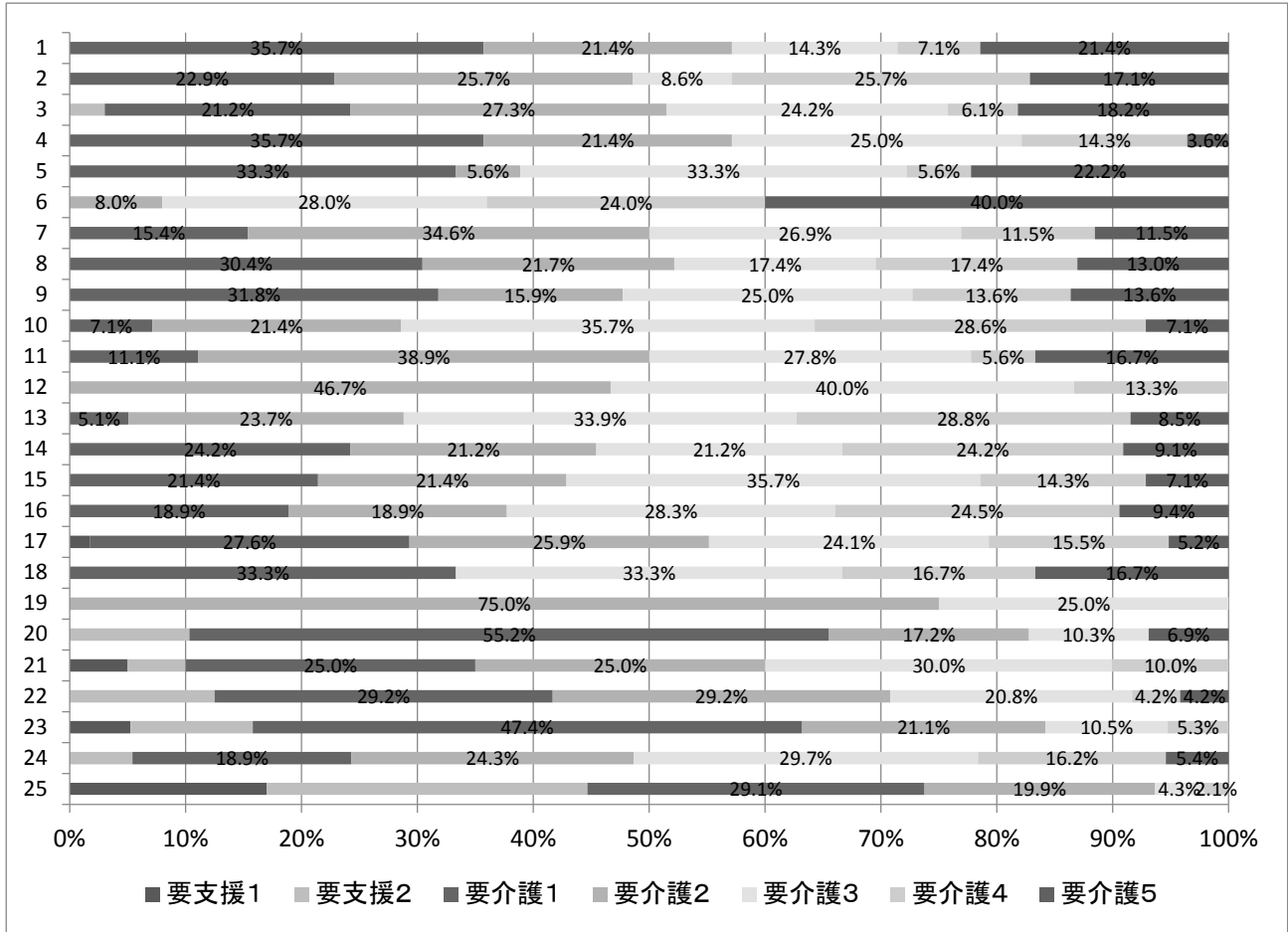


* 認知症対応型通所介護事業所の共用型は、登録者数が少ないことから、その値が割合に与える影響が大きいことに留意が必要である。

【図表2-12 利用者のうち80歳以上が占める割合（事業所ごと）】

○ 利用者の要介護度の割合

利用者の要介護度の割合を見ると、要介護 1～2 の割合が高い事業所と、要介護 4～5 の割合の高い事業所があった。また、多いところでは利用者の 4 割が要介護 5 の認定を受けていた（図表 2-13）。



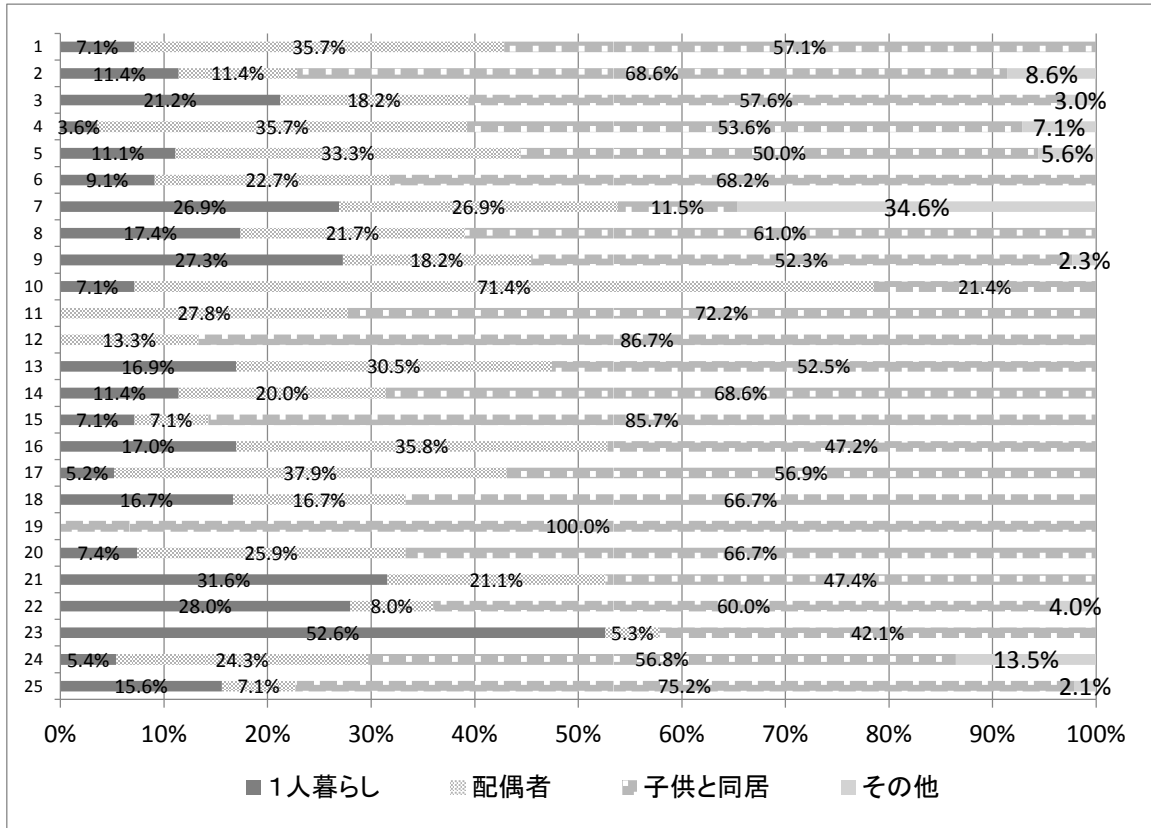
* 認知症対応型通所介護事業所の共用型は、登録者数が少ないことから、その値が割合に与える影響が大きいことに留意が必要である。

【図表 2-13 利用者の要介護度の割合（事業所ごと）】

注：割合は要介護 1～要介護 5 までのみ記載した

○ 利用者の同居の状況と日中独居の割合

利用者の同居の状況を見ると、子供と同居している利用者の割合がどこの事業所でも高かった（図表 2-14）。また、「その他」で報告が多かったのは、サービス付き高齢者住宅の入居者や孫や兄弟との同居であった。



* 認知症対応型通所介護事業所の共用型は、登録者数が少ないことから、その値が割合に与える影響が大きいことに留意が必要である。

【図表 2-14 利用者の同居の状況（事業所ごと）】

また、誰かしらの同居者（配偶者、子供など）がいる場合で、日中独居の割合は、0%の事業所が 4 件、1.0～10.0%の事業所が 3 件、10.1～20.0%の事業所が 6 件、20.1～30.0%の事業素が 6 件、30% 台の事業所が 3 件、50%台の事業所が 1 件、80%台の事業所が 1 件という結果であった。

○ 居住系サービス希望者の割合⁵

認知症対応型通所介護の共用型を除く、23事業所において、居住系サービスへの入居を希望している人の割合を聞いたところ、0.0%と回答した事業所が5か所あった。また、高いところでは66.7%と、約3分の2の利用者が希望している事業所もあった（図表 2-15）。

【図表 2-15 居住系サービス希望者の割合】

	事業所数
0.0%	5
0.1%～19.9%	6
20.0%～39.9%	9
40.0%～59.9%	0
60.0%以上	1
不明	2
合計*	23

注：認知症対応型通所介護の共用型（2か所）は、全利用者数が少ないことから割合に及ぼす影響が大きいと、この集計には反映させていない。

⁵ なお、この結果はあくまでも事業所が把握している人数であり、施設系サービスへの入居申し込みをしているにも関わらず、事業所に家族や介護支援専門員から情報提供がされていない場合には、事業所も把握できていない点に注意が必要である。

2. 事業所の理念・目標や通所型サービスの役割について

それぞれの事業所が、どのような理念・目標を掲げ、どのような課題意識を持ち、自分たち通所型サービスの役割をどのように考えているのかについて、調査票への記入をお願いすると同時に、聞き取り観察調査にて詳細を聞き取った。それぞれの事業所の回答については、巻末資料（事業所紹介）を参照されたい。

○ 事業所の理念・目標

事業所の理念・目標には様々な言葉が使われているが、「本人主体」や「安心」、「笑顔」、「家族」といったような言葉が多く見受けられた。

○ 認知症医の人とその家族が地域で暮らしていく上での課題

最も多く報告されたのは、「地域住民の理解」である。また、家族の理解や、家族が周囲に助けを求められない（求めたがらない）といった報告も多く聞かれた。

○ 通所型サービスが担う役割

最も多かったのは「本人支援」であるが、特に「家庭での生活を意識する（利用されていない日のことを考えた支援）」、「本人の生活リズムやペースを尊重する」、「現存能力を維持・活用する」といった報告が多く聞かれた。

「家族支援」についても多くも事業所から報告があり、「本人に対する個別ケアの方法」や「認知症に関する情報提供」といった専門職としてのアドバイスに関する報告の他、「家族の状況を把握し、ケアマネジャーにつなぐ」、「介護負担の軽減」といった報告も多く聞かれた。

また、「地域とのつながりをつくる」といった報告もいくつか聞かれた。

3. 利用者支援の実践

それぞれの事業所が、利用者の個別ケア実践のために、どのようなアセスメントを行い、どのように通所介護計画を立て、どのように日々の支援を行っているのか、また、家族等介護者への支援の具体や他の利用者が使っている他のサービスとの連携状況、連携のための工夫等について、調査票に記入をお願いすると同時に、聞き取りを行った。それぞれの事業所の回答については、巻末資料（事業所紹介）を参照されたい。

○ アセスメント

用いているアセスメントシートについては、「独自のものを使っている（11 か所）」と回答した事業所が最も多く、次いで「既存⁶のアセスメントシートを使っている（8 か所）」、「既存のものを使いつつ、一部独自の項目を入れている（4 か所）」という順であった。

また、アセスメント項目として挙げられているのは、以下のようなものであった。

- ① 基本情報（名前、生年月日、家族構成、キーパーソン、緊急連絡先、等）
- ② 生活情報（生活歴、趣味、利用者の望む生活、日々の過ごし方等）
- ③ 健康情報（受診病院、疾患、既往歴、服薬内容、等）
- ④ ADL、IADL（歩行、排泄、食事、入浴、整容・着替え、電話をかける、等）
- ⑤ 居住環境（居室、玄関、トイレ等の様子、等）

特に②の「生活情報」については、利用開始前だけでなく、利用開始後にかけて丹念に聞き取っている事業所が多く、上記の他にも以下のような項目が報告された。

<本人からの聞き取り>

- ・外に出ることは好きか：好きであれば機能訓練を兼ねた外出を取り入れる
- ・毎日の習慣：一日の生活リズムを守る／作る
- ・得意なことや苦手なこと：日中の過ごし方に活かす

また、介護者から聞き取る情報としては、以下のようなものが報告された。

<介護者からの聞き取り>

- ・本人が認知症を受け入れているか：利用者への接し方を考える上での参考
- ・申し込みまでの経緯：特に他通所型サービス事業所からの紹介の場合
- ・利用の目的：介護者が望む暮らし
- ・送迎時の希望（例：介護者が帰ってくる時間がまちまちなので、それに合わせて送ってほしい）

認知症の受け入れについて、介護者から聞き取りを行っている事業所はごくわずかではあったが、若

⁶ ここでいう「既存」とは、コンピューターの介護サービス事業所向けソフトウェアに入っている書式や法人内共通で使われている書式（事業所が開設した時に、すでにあった書式）等を指す。

年性認知症の利用者の場合、利用者本人が認知症を受け入れているか否かで、支援の内容を若干かえているとの報告があった⁷。

また、デイサービスで過ごす時間を「在宅での生活の延長」と捉え、在宅での生活パターンをアセスメントしている事業所もあった。

在宅での生活パターンをアセスメントしている書式の例

課題分析（アセスメント）に関する項目		NO. 2					
1	作成年月日 年 月 日	実施場所（ ）	アセスメント理由（ ）				
2	作成年月日 年 月 日	実施場所（ ）	アセスメント理由（ ）				
3	作成年月日 年 月 日	実施場所（ ）	アセスメント理由（ ）				
※要介護認定期間内での変更の場合は、区別がつくように加筆すること							
利用者の望む生活	なるべく本人の言葉で						
家族の望む生活	複数の家族がいる場合は、それぞれの希望を						
介護力（有・無）	主な介護者	氏名 _____ 続柄 _____	同居・別居 _____				
	その他の介護者	氏名 _____ 続柄 _____	同居・別居 _____				
	介護に対する考え	就労状況、被介護者との関係性、家族間の関係性、介護者の健康状態、介護の負担、困難(抱えていること)等	一月に使える介護費用 円				
1日の生活	起床・食事・日中の過ごし方・入浴・就寝など						
	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; width: 25%;">6:00</td> <td style="text-align: center; width: 25%;">12:00</td> <td style="text-align: center; width: 25%;">18:00</td> <td style="text-align: center; width: 25%;">0:00</td> </tr> </table>			6:00	12:00	18:00	0:00
6:00	12:00	18:00	0:00				
日中の過ごし方	1 よく動いている 3 横になっていることが多い	2 座っていることが多い 4 一日中ベッドで過ごす	外出の頻度	1 1日1回以上 3 月1回以上			
			2 週1回以上 4 月1回未満				

資料：サロンデイ語らいの家（東京都世田谷区、認知症対応型通所介護：単独型）

また、アセスメントしている人については、全ての事業所で管理者・相談員が挙げられ、一部の事業所で、「ケースによって看護職が行く」、「介護職が行くこともある」といった回答があった。

アセスメントで重点的に聞いている項目として最も多かったのは、本人の生活史や趣味、特技といった、通所開始後の支援に結びつけるための情報。その反面、初回の面根ほり葉ほり聞こうとせず、むしろ本人との関係作りに努め、利用が開始となってから、通所の時間を使って丁寧に聞き取りを行っている、という報告もあった。

また、利用開始後は利用者を取り巻く様々な状況が見えてくることから、更新時等に行うアセスメントでは利用者側だけでなく、かかわる職員のあり方といった事業所側のアセスメントや、利用者同士の人間関係、利用者が好む環境など、事業所内での関わりや環境を含めたアセスメントを実施しているという報告もあった。具体的項目は以下のとおりである。

⁷ 例として、告知を受け入れている場合には、機能低下がみられている事柄を具体的に伝え、リハビリなどを積極的に声かけするが、告知をされていない場合には、日々の支援の中でさりげないリハビリを行っているとの報告があった。

- ・ 職員の身なりは整っているか、適切な敬語を使えているか
- ・ にぎやかすぎないか（職員の声の大きさ・職員の足音・台所の物音など）
- ・ ゆったりとした時間が取れているか
- ・ 不快な臭いはないか
- ・ 整理整頓されているか、物はわかりやすく置かれているか
- ・ 本人の意向は大切にされているか
- ・ 利用者同士の関係性はどうか

○ 通所介護計画の立案

通所介護計画書については、「独自⁸のものを使っている（10 か所）」という回答が最も多く、次いで「既存のものを使っている（8 か所）」、「既存のものを使いつつ、一部独自の項目を入れている（6 か所）」という順であった。また、その内容としては、居宅（介護予防）サービス計画にある3点を含めつつ、①デイサービス利用中のスケジュールに合わせて援助目標を立てる形の書式、②解決すべき課題に焦点を当てて目標を立てる形の書式、の2つにわかれた。

①の書式の場合、例えば送迎時の具体的サービス詳細内容として、「ご自分で靴が履けるよう、見守りや声かけをさせていただく」、昼食時であれば「皆さんとおしゃべりをしながら食事を楽しんでいただく」、日中のアクティビティについては「落ちつかれているときにお互いにお話をしながらマッサージをさせていただく。落ちつかない時には散歩やドライブ等で気分転換を図らせていただく。」といったように、デイでの一日の流れに沿ってどのような支援を行うかを記載しているとの報告があった。

⁸ ここでいう「既存」とは、コンピューターの介護サービス事業所向けソフトウェアに入っている書式や法人内共通で使われている書式（事業所が開設した時に、すでにあった書式）、東京都など自治体が参考として示した様式等を指す。

①デイサービス利用中のスケジュールに合わせて援助目標を立てる形の書式の例

認知症対応型通所介護計画書						
種		認知介護者提供機関 にご依頼				
解決すべき課題 (ニーズ)						
種	長期目標				期間	～
種	短期目標				期間	～
種	サービス内容	サービス詳細内容			担当職員	氏名
備考						
作成日	平成 年 月 日	〒27555 千葉県鎌ケ谷市の所在地を指定し、記載し、捺印を求めました。				
※利用	デイサービスセンター直 会	当センター	平成 年 月 日	印		
作成		本人		印		
作成		代理人		印		
作成						
事業所とお客様の関係・捺印を履取しください。						
認定日	平成 年 月 日	区				

デイサービス喜楽（群馬県館林市、認知症対応型通所介護：単独型）

②解決すべき課題に焦点を当てて目標を立てる形の書式の例

通所介護計画書						作成年月日	
利用日	説明書			利用者又はご家族の同意署名欄	印		
事業所名	デイサービスゆうあい古枝						
事業所連絡先							
〒							
居室サービス事業所・所在地	〒049-1321						
利用費名	種						
認定日	認定の有効期間 平成27年2月1日 ～ 平成28年1月31日						
要介護状態区分	要介護1 ・ 要介護2 ・ 要介護3 ・ 要介護4 ・ 要介護5						
生活全般の解決すべき課題(ニーズ)	目 標				援助内容		
	長期目標	(期間)	短期目標	(期間)	サービス内容	担当職員	期 間
		平成27.04.01 ～ 平成27.06.30		平成27.01.01 ～ 平成27.03.31			平成27.01.01 ～ 平成27.03.31
		平成27.01.01 ～ 平成27.06.30		平成27.01.01 ～ 平成27.03.31			平成27.01.01 ～ 平成27.03.31

資料：ゆうあい古枝（佐賀県鹿島市、認知症対応型通所介護：単独型）

*ページは2枚あり、もう1枚はニーズ、目標、援助内容（上記の下半分）と同じ内容である。

②の書式の場合、例えば「活動と休息のバランスをとりながら、メリハリのある生活をしたい」という目標に対し、具体的な対応として「顔色や呼吸の状態をみて休息を促す」など、普段から気を付けることを記載しているとの報告があった。

また、通所介護計画の見直し時に用いるモニタリング表の例としては、以下のようなものが報告された。

通所介護計画の見直し時に使うモニタリング総括表の例

モニタリング総括表					
利用者の氏名	利用者の性別	種	ケアプラン作成日	平成27年2月17日	評価日
評価期日	サービス担当者				平成27年2月17日
始期目標	モニタリングの 時期	サービス実施状況	目標の達成度 (サービス実施の結果)	本人・家族の 意向と意見	今後の対応
			○達成できた:	本人: 家族:	→継続:
			△ほぼ達成できた:	本人: 家族:	▲変更:
			×達成できなかった:	本人: 家族:	■終了:

資料：ゆうあい古枝（佐賀県鹿島市、認知症対応型通所介護：単独型）

その他、通所介護計画の見直し時に家族からアンケートを取っている事業所もあった。

通所介護計画の見直し時に家族からアンケートを取る際の例

<p style="text-align: right;">2015年1月13日</p> <p>いつもご利用いただきありがとうございます。 半年に一度の通所介護計画書の更新の時期になりました。 お手数ですが、現在のご自宅のご様子をお知らせください。</p> <p>・現在、デイサービスに行かない日はどのようにお過ごしですか？</p> <p>・ご自宅での排泄はどのように行っていますか？ (現在もパットなどお使いですか？)</p> <p>・ご自宅での入浴はどのように行っていますか？ (衣類のお着替え、歯磨きや整容など)</p> <p>・家事などはされていますか？</p> <p>・外出などはされていますか？</p>	<p>・現在、お困りのことはありますか？</p> <p>・この半年間で変わったことはありますか？</p> <p>・デイサービスへのご意見、ご要望をお聞かせ下さい。</p>
---	---

資料：やがわデイサービス（東京都国立市、認知症対応型通所介護：単独型）

通所介護計画を立てているのは、「管理者」、「相談員」が最も多い回答であったが、事業所によっては利用者の担当職員が決まっており、その人からの情報を基に職員全員で計画案を出し合い、管理者・相談員がその時の意見等を参考に計画を作成する、という流れをとっている事業所もあった。

計画作成時に気をつけている点として、「本人や家族の要望の反映」、「在宅での生活につながる計画づくり」といった計画内容についての報告の他、「具体的な内容の記述を心がけている」、「誰が見てもわかるよう、平易な言葉を使う」といった技術的な面の報告もあった。

また、通所介護計画の見直しについて、有効期間の満了や急激な ADL の変化時以外に定期的に行っているかを確認したところ、25 事業所中 17 か所が行っており、最も多かったのは「3 か月に 1 回」という事業所で 10 か所、次いで 6 ヶ月に 1 回（3 ヶ所）、3～6 か月に 1 回（2 ヶ所）、1 ヶ月に 1 回（2 ヶ所）であった。

○ 通所介護計画に基づく日々の支援の実践

日々の支援において留意している点としては、「通所介護計画に書かれていることが必ず実施されるよう、業務日誌に工夫をしている」、「利用者がやりたいこと、興味のあることを通じ、満足感を持って帰宅してもらえるようにしている」といった報告が聞かれた。

また、提供している支援で特に意識していることを確認すると、大きく分けて1. 自宅での生活を意識した支援、2. 本人のペースややりたいこと等を大切にする支援、3. 他者との関係を調整する支援の3つが報告された。

1. 自宅での生活を意識した支援

認知症の人は大きく分けて1. 記憶障害に代表される認知機能障害、2. 行動と心理学的障害（行動心理症状：BPSD）、3. 生活行為・動作における障害（生活障害）を持っていると言われる⁹。そのため、通所介護・認知症対応型通所介護において提供される支援は、自宅での生活パターンを意識すべきという意見が数多く報告された。

具体例としては、最近になって失禁がみられるようになった利用者に対し、水分の摂取状況を確認しつつ、例えば①尿意はありそうか、②トイレの場所は認識できているか、③トイレに行きたいときに見られる兆候はあるか（例：落ち着かなくなる、急に立ち上がるなど）を確認し、それにあわせてトイレに誘導するといった支援のように、それまでできていたことが出来なくなってきたことに対し、支援を行うといったことや、過去に利用者が得意としていたこと（大工仕事、料理作り、書道、歌など）を通じて本人の楽しみや自信につなげていくという支援が報告された。

また、認知症の人はその疾患ゆえ、体調が悪い時や水分が不足しているとき、便が出ていないときにうまく伝えられず、行動心理症状としてでてしまったり、高血圧や糖尿病といった疾病を持っている人も多いことから、体調管理や疾病についての意識が重要であるとの指摘もあった。

2. 本人のペースややりたいこと等を大切にする支援

認知症の人には、それまで長い年月をかけて培ってきた生活パターンやペースがあり、それに合わせた支援を行うことが大切であるという報告が数多くあった。特にそのことが強調されたのは、送迎、入浴、食事、アクティビティの4つの支援についてである。

送迎や入浴においては、「早く起きる人には早めに迎えに行く、遅く起きる人には遅く迎えに行く」、「お風呂はゆっくり時間をかけて入る」、といった、利用者のこれまでの生活リズムを大切にして送迎時間や入浴の時間を調整したり、迎えに行っても準備ができていなければ、時間をおいて再度迎えに行く、入浴にお誘いして、一度断られても時間をおいて、また声をかけてみるなど、利用者のペースに合わせた支援を行っているとの報告があった。また、食事については、1人でゆっくり食べるのが好きな人は、小さなテーブルで一人で食べる、一度に全部を食べられない方には、時間をおいてあとから続きを食べていただくなど、その人が「落ち着いて食べられる環境」を整えたり、必要な栄養量を本人に無理なく食べていただけるように工夫をしている事業所があった。

アクティビティ（活動、プログラム）については、その方式として、①集団アクティビティ優先型、

⁹ 朝田隆（研究代表者）「都市部における認知症有病率と認知症の生活機能障害への対応」平成23～24年度総合研究報告書、厚生労働科学研究費補助金認知症対策総合研究事業、2013年3月、p2より一部引用。

②小規模アクティビティ優先型、③当日提案型、の3つに分けられた。そのやり方は以下の通りである。

1. 集団アクティビティ

事前に活動が組まれており（例：ボーリング）、利用者は基本的にその活動への参加を促される。活動の内容は週間や月間で決められているが、その活動が好みでなかったり、集中できない方に対して別のアクティビティが用意される。

2. 小規模アクティビティ

事前に2～3程度の活動が用意されており（例：ボーリング、ちぎり絵作りなど2つ）、利用者はそのどれかへの参加を促される。活動の内容はその日の利用者の顔ぶれを見て、前日や当日に決められることが多いが、集中できない方については別の活動が用意される。

3. 当日に提案

活動のメニューは全く決まっておらず、当日に利用者の意向を聞き、それを実施する（例：Aさんからドライブの提案があったら、「ドライブに行きたい人」と誘いをかけて、そこに複数の利用者が参加する）。大体において、2～3のアクティビティに落ち着く。

事業所の利用定員に関わらず、アクティビティのやり方は様々であり、その日の顔ぶれや利用者の容態によって臨機応変に対応するという点は、どの事業所も共通であった。

3. 他者との関係を調整する支援

調査対象事業者の多くにおいて、「職員が他の利用者との関係調整を担っている」との報告があった。例えば、送迎やアクティビティ、食事における席の配置において「気の合う人同士が近くに座れるよう、配慮をしている」との回答があった。また、「利用者同士の会話をさりげなく聞き取り、両者の言い分が食い違ってきたり、どちらかが話についていけなくなりそうなときにすかさず間に入り、両者の関係を調整している」と言った報告も聞かれた。

その他、利用者間の様子を観察する際に心がけていることとして、「不安や焦燥感がないか」「羞恥心を感じていないか」「孤立感・疎外感を感じていないか」といった点が報告された。

なお、これらの他に、「認知症の人と地域を結ぶ支援」を挙げている事業所も複数見られた。具体的には、「利用者と共に近所の商店街に買い物に行く」、「利用者と共に公園でサッカーや野球をする」、といった、事業所から利用者を外に連れ出す支援を行っている事業所と、「ボランティアを積極的に受け、アクティビティの実施に協力を頂いている」、「隣接する園児と毎日交流している」、「事業所わきに交流スペースを設け、放課後に小学生たちが宿題をやりに来ている」といった、地域の人に事業所に来てもらう形で交流を行っている事業所があった。

○ 家族支援

家族支援は、全ての事業所において力を入れているとの回答があった。そのやり方は様々で、特に多くの報告が上がったのは送迎時で、「家族支援の中心」ととらえている事業所が多く、その理由としては、①家族の様子や家族と利用者の関係を観察し、適宜相談員が連絡をしたり、介護支援専門員につな

ることができる、②必要に応じて複数回お迎えに行ったりすることで、介護者を焦らせたり、「利用を断られたらどうしよう」といった不安にさせない、③個々の利用者に対する具体的なケアの手法を伝えることができる、といった報告があった。

また、介護者は身体的・精神的負担を感じていることが多く、また将来への不安があることも多い。そのため、介護者からの相談には迅速かつ丁寧に応じることで、少しでも介護者の負担を軽減し、解決に結び付けようという姿勢が見られた。なかには、介護者からの相談を待つだけでなく、管理者や相談員が定期的に家庭訪問を実施したり、通所介護計画の見直し時に行うアンケートを通じて介護者の不安や負担感を確認している事業所もあった。

家庭訪問実施記録の例

家庭訪問実施記録	
平成 26年 月 日	
利用者名 _____ 様	担当者 _____
聞き取り者名 _____ 様	
疾患名 _____	家族構成 _____
在宅での現在の様子	
現在の問題点	
本人様・ご家族の意向、思い	
デイサービスでの関わり・過ごし方	

資料：せんしゅんかい風車（京都府長岡京市、認知症対応型通所介護：単独型）

また、連絡帳も家族支援の大切な一環としてとらえている事業所も多かった。具体的な工夫として、連絡帳に利用者が過ごした様子の写真やメニューの写真等をつけることで、家族が様子を目で確認でき、より安心するといったものや、毎回の食事内容やアクティビティ中の様子について、写真を撮って連絡帳に貼っている事業所もあった。

その他、デイサービス利用中の一日の流れに沿って様子を伝えている事業所もあり、利用者がいつ昼食を食べ、どんなアクティビティを何分ぐらい取組み、いつ昼寝をしたいのかなどがわかるように工夫をしている事業所もあった。

一日の流れにそって記載する連絡帳の例

生活の様子				
氏名 _____ 様		H27年 月 日 ()		
時間	活動	内容・担当	本人の希望、話しての内容	その他
09:00	到着時刻 ()			
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17	出発時刻 ()			
本日の食事内容		おやつの内容	健康状態	確認事項
AM		体調	異常	
PM		血圧	異常	
		脈拍	異常	
		体温	異常	
モニタリング				
連絡事項				
_____ ()				
デイサービス モア・サロン福寿				

資料：デイサービス モア・サロン福寿（北海道札幌市、認知症対応型通所介護：単独型）

その他、管理者の携帯番号を家族に伝え、「24 時間いつでも連絡をしてくれて構わない」と伝えている事業所も数か所見られた¹⁰。

○ 利用者が使っている他のサービスとの連携状況

通所介護・認知症対応型通所介護の利用者は、訪問介護、訪問入浴、福祉用具、住宅改修やショートステイ、訪問看護等の他の介護保険サービスを併用しているケースが多い。また、訪問医療やかかりつけ医、配食サービスの職員、民生委員、ボランティアなど、地域にいる様々な人が個々の認知症の人の生活を支援しており、これら「利用者を取り巻く他のサービス機関との連携」は、介護支援専門員が担っている。そのため、利用者の日中の様子については、必ず月に1回、介護支援専門員に利用報告と共に連絡する他、日ごろから何か気になることや気づいたことがあれば介護支援専門員に連絡を入れるという回答が多かった。

¹⁰ 家族から実際に電話があった時は、必ず介護支援専門員に連絡を入れ、情報提供と介護者の様子の確認をお願いしているとのことである。

Ⅲ. 手引書の作成と報告会の実施

1. 手引書の作成

本調査研究によって収集された全国 25 の事業所の結果を基に、全国にある通所介護ならびに認知症対応型通所介護に向けた「認知症の人を支援する通所型サービスの手引き」を作成し、個別ケアの力を入れている事業所がどのような視点で支援に取り組んでいるかを整理して提示するとともに、事業所ごとの紹介ページを用意し、それぞれの事業所の特長をまとめた。詳細は別冊の手引書を参照願いたい。

今回の調査に協力いただいた 25 の事業所の回答を基に、認知症の利用者への支援で力を入れているポイントをまとめたところ、全部で4つが挙げられた。

調査対象事業所において、認知症の利用者への支援で力を入れているポイント

- ① アセスメントと計画に基づく日々の支援
 - 1) アセスメントの実施
 - 2) 通所介護計画の立案
 - 3) 日々の支援

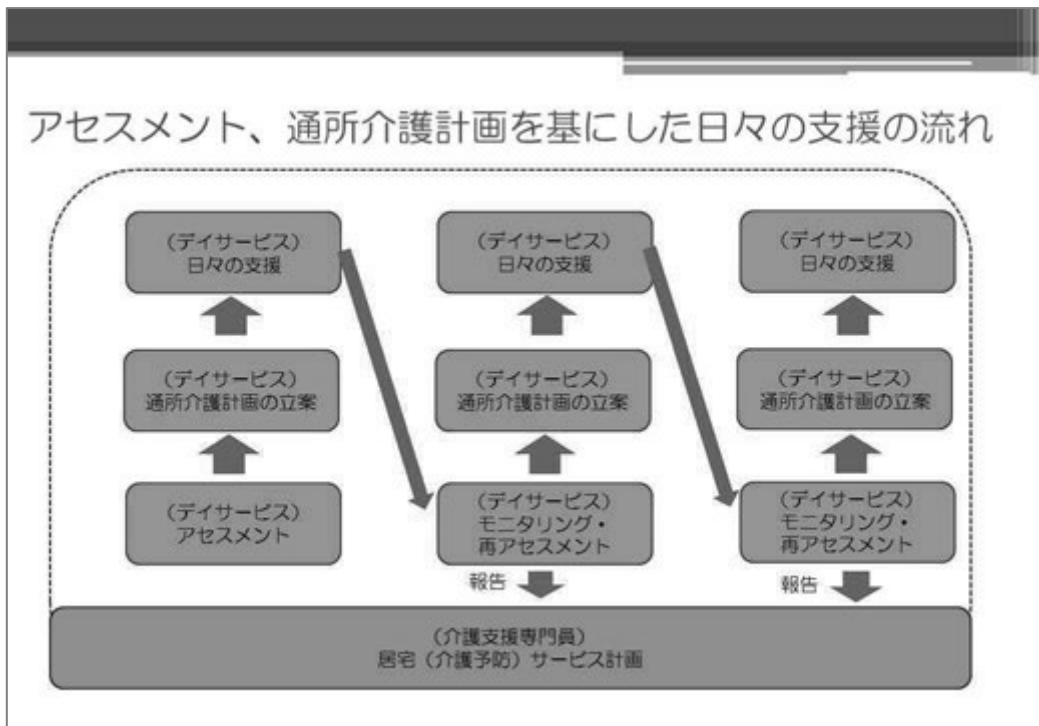
- ②介護支援専門員を通じた他のサービス機関との連携

- ③介護者支援

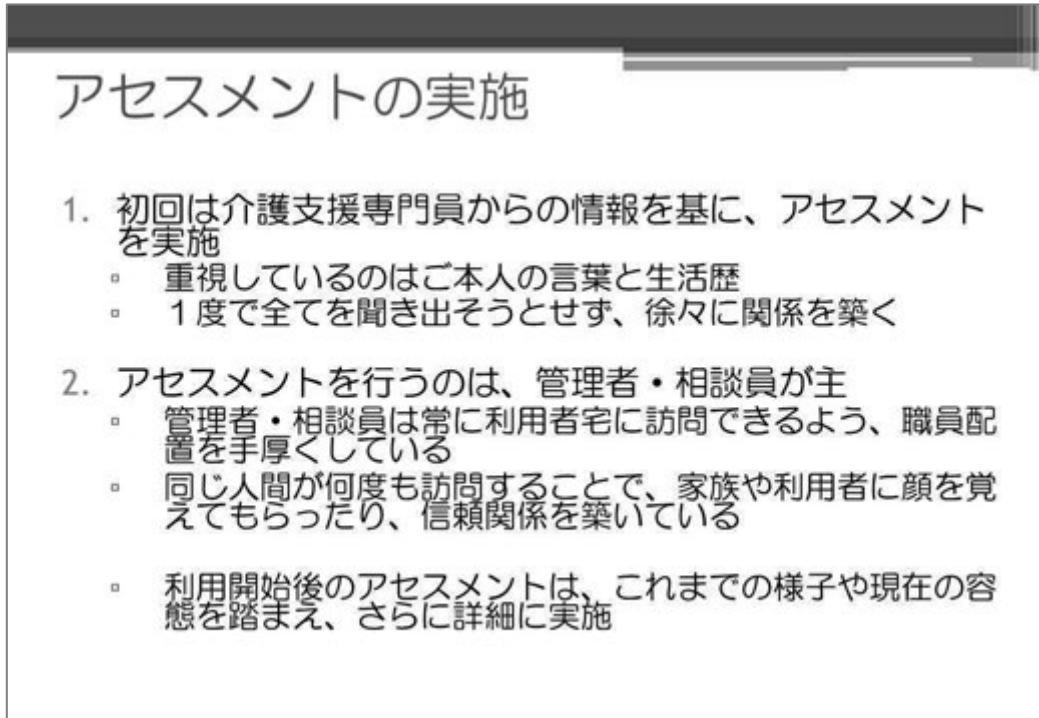
- ④職員配置と情報の共有

それぞれの項目におけるポイントは以下のとおりである。

① アセスメントと計画に基づく日々の支援の流れ



1) アセスメントの実施



2) 通所介護計画の立案

通所介護計画の立案

1. 書式は、大きく分けると①利用中のスケジュールに合わせて援助目標を立てる形式と②解決すべき課題に焦点を当てて目標を立てる形式の2つ
2. 計画の具体として細かな内容を挙げている
 - (例) 時間帯ごとに、どのように利用者に関わるかを具体的な言葉で示す
3. 見直しを定期的に行っている
 - 3か月に1回という事業所が最も多い
⇒利用者の容態の変化をとらえる

3) 日々の支援

日々の支援

1. 自宅での生活や体調、疾病を意識した支援
2. 認知機能を意識した支援
3. 本人のペースややりたいこと等を大切にする支援
4. 他者との関係の調整をする支援

② 介護支援専門員を通じた他のサービスとの連携

介護支援専門員を通じた他サービスとの連携

1. 介護支援専門員に利用中の様子についての情報提供をこまめに行う
 - ケアプランへの反映に役立てるよう、月に一度の報告書を丁寧に作成している
 - 写真等を使って、日中の様子を伝える
2. 薬が変わった際に、日中の様子を観察・記録し、家族や介護支援専門員を通じて、かかりつけ医に情報を提供する
3. 日中の過ごし方や起こる可能性のある行動心理症状とそれへの対応などを、介護支援専門員を通じて他のサービス事業所（ショートステイの利用先やホームヘルパー等）と共有する

③ 介護者支援

介護者支援

1. 送迎は介護者支援の中心
2. 介護者からの相談には迅速かつ丁寧に応じる
3. 利用時の様子を丁寧に伝える
4. 介護者支援は通所型サービスが単独で行うものではなく、その介護者の状況や希望に応じて、認知症カフェや家族の会の紹介など、介護者が選べる状況にあることが重要

④ 職員配置と情報共有

職員配置と情報共有

1. 利用者への個別支援を充実させるため、また容態の変化に適切に対応するために手厚くしている
2. 管理者や相談員が自由に動ける（例：介護者の相談を聴く、家庭訪問をする、介護支援専門員に連絡をする、など）
3. 常勤、非常勤の割合は、事業所によって様々だが、職員研修に力を入れている
4. 情報共有等に力を入れている事業所が多い

なお、別冊で作成した事例集ではこれらのポイントについて具体的に説明をし、かつ調査協力事業所の紹介ページをつけることで、個々の事業所の取り組みを一つひとつ確認できるようになっている。

2. 報告会の実施

本調査研究で得た知見を報告すべく、調査に協力いただいた事業所と、検討委員会、手引書作成委員会の委員、ならびに調査協力員¹¹を対象に、報告会を開催した。

- 日時：平成 27 年 3 月 26 日（金） 午前 9：30～12：45
- 場所：ステーションコンファレンス東京 会議室 605B+C
- 内容：事業所紹介、調査結果の報告、フリーディスカッション「認知症の人の地域での生活を支えるために、通所型サービスが担うべき役割」
- 参加者内訳

	人数
調査協力事業所(計 15 事業所)	20 名
検討委員会委員	3 名
手引書作成委員会委員	4 名
調査協力員	1 名
合計	28 名

*その他、オブザーバーとして厚生労働省担当官（1 名）、ならびに事務局である認知症介護研究・研修東京センター（4 名）が参加した。

¹¹ 聞き取り観察調査を実施する際の調査員として、検討委員、手引書作成委員の他、2 名の専門職に協力を頂き、合計 5 か所の事業所に同行頂いた。

IV. 地域で暮らす認知症の人を支える通所型サービスの役割と課題、提言

本調査研究を通じて得た結果を基に、地域で生活する認知症の人を支える認知症対応型通所介護事業所、ならびに通所介護事業所における役割についてまとめると、以下のようになる。

1. 通所型サービスの強みを活かした認知症の人への支援

地域で生活する認知症の人を支える介護保険サービスには様々なものがあるが、通所型サービスの強みは①利用者と職員が共に過ごす時間が長いこと、②定期的かつ継続的に介護者と関わっていること、の2点¹² ¹³があげられる。

この通所型サービスの強みを活かし、今後ますます増えていく認知症の人を地域で支えていくにあたって、通所型サービスが担う役割としては、①利用者の容態やペースを踏まえた臨機応変のケアの提供と、②介護支援専門員と連携した継続的な介護者支援の提供、という2つに整理される。

**通所型サービスの強みを活かした
認知症の人への支援（通所型サービスの役割）**

- ・ **利用者の容態やペースを踏まえた臨機応変のケアの提供**
 - ・ 利用者の現在の生活やこれまでの生活について知り、一日の生活リズムや本人のペースを踏まえた臨機応変の支援を行う
 - ・ サービス利用中のみならず、帰宅後や利用のない日においても安定した生活が営めるよう支援する
 - ・ 利用者に継続的に関わることで、様子や変化をとらえ、介護者や介護支援専門員を通じて他のサービス事業者や医療機関と共有することで、より良いケアの提供に貢献する
 - ・ 今後どのような支援が必要になりそうかを見極め、予防的に関わる
 - ・ 「認知症は進行していく疾患」であることを踏まえ、将来的なニーズも視野に入れた継続的な支援を意識する
- ・ **介護支援専門員と連携した継続的な介護者支援の提供**
 - ・ 送迎時や連絡帳等を通じて家族の様子を確認・観察したり、介護者からの相談に対し、適宜介護支援専門員と連携して支援にあたる
 - ・ 利用者に対するケアの方法等について、介護者に情報提供し、共に実践する

「利用者の容態やペースを踏まえた臨機応変のケアの提供」については、具体的には、①利用者の現在の生活やこれまでの生活を意識し、一日の生活リズムを整えつつ、本人のペースを踏まえた臨機応変の支援を実施すること、②サービス利用中のみならず、帰宅後や利用のない日においても安定した生活が営めるような支援を実施すること、③利用者の変化をとらえ、それを日々の支援に反映させたり、介護者や介護支援専門員に情報提供をし、他のサービス事業所や医療機関と情報共有することで、それぞれがより良いケアを提供できるよう貢献すること、④今後どのような支援が必要になりそうかを見極め、生活リハビリを取り入れるなど予防的にかかわっていくこと、そして、⑤認知症は進行していく疾患で

¹² 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング「通所介護のあり方に関する調査研究事業」平成 25 年度老人保健健康増進等事業、2014 年 3 月

¹³ 認知症介護研究・研修東京センター「認知症の人に対する通所型サービスのあり方に関する研究」平成 25 年度介護報酬改定検証・研究委員会事業、2014 年 3 月

あることを踏まえ、疾患の特徴や進行に合わせたケアの提供や重度の寝たきり状態や医療的ニーズ、ターミナルケアまでを意識した継続的な支援を実施していくこと、などがあげられる。

また、「介護支援専門員と連携した継続的な介護者支援の提供」として、送迎時に介護者の様子や家の様子を観察したり、連絡帳でのやり取り等を通じ、介護者にいつもと異なる様子が見られた場合に、介護支援専門員に連携することで、適宜適切な介護者支援が提供されるための窓口となることや、認知症の人は、その人、その人によって出現する行動心理症状（いわゆる BPSD）が異なり、また進行の状況によって必要な介護も変わっていくが、個々の利用者への対応やケアの手法について介護者に情報提供することで、家庭での介護負担を軽減したり、より利用者に適したケアを提供するための環境を整えていくことが考えられる。

2. 聞き取り観察調査を通じて見えた課題

今回訪問をした事業所は、認知症の人に対する個別ケアに力を入れている事業所であり、そのためどの事業所においても、利用者は笑顔で楽しそうに過ごされていることが多かった。また、いわゆる行動心理症状への対応で苦慮している様子は見受けられなかった。

しかし、経営面や運営面については課題も報告された。具体的には①小規模な事業形態による経営の不安定さと②職員の確保、研修の機会の提供である。

①の経営の不安定さについては、昨年度に当センターで実施した調査研究でも明らかになっているが、今回の聞き取り観察調査でも改めて浮き彫りとなった。特に、今回の調査では平成 26 年 10 月 1 日現在での提供を求めたが、稼働率が 40%を切っている事業所もあった。詳しく聞いてみると、年間の稼働率の平均は 60%程度であるが、ちょうど調査の時は 2 人の利用者が相次いで利用中止となったため、極端に稼働率が下がった月だったとのことである。つまり、定員が 12 名と少ないために必然的に登録者数も少なく、それ故利用者が入院したり、居住系サービスに移ったりすると、とたんに稼働率に影響が出てしまうのである。年間を通してみれば稼働率はそこまで低くないにしろ、事業を運営する側としては、常に利用者を確保しなければ、経営的に行き詰ってしまうことから、安定した経営をすることはなかなか難しい。

しかし、認知症ケアにおいて「小規模」というのは大変重要なキーワードであり、経営の安定のためだけに利用定員を増やすことは望ましくない。それ故、「小規模な事業所において、いかに経営のバランスをとりつつ、安定した個別ケアを提供していくか」は大きな課題である。

もう一点は職員の確保、研修の機会の提供である。職員の確保については、景気の影響も受けやすく、今は特に景気が上向きになっていることから、介護・福祉業界に人材が流れてきにくいという報告が多くあった。また、年間を通じて職員を募集しているが、なかなか集まらないという報告もあった。そのため、できれば職員配置にもう少し余裕を持ち、良い個別ケアを提供したいと考えていても、結果的に基準ぎりぎりの職員しか集まらなかったり、採用してもなかなか長く続かないという課題がある。

加えて、通所型サービスは入所系・居住系サービスに比べて非常勤の割合が高い¹⁴ため、なかなか研修の機会を設けることが難しいという報告も聞かれた。今回の調査では認知症に特化した研修を受講し

¹⁴ 公益財団法人介護労働安定センターによる「平成 25 年度の介護労働実態調査[介護労働者の就業実態と修行意識調査]」では、通所型（介護保険サービス系型別新区分）の正規職員の割合は 64.2%であったのに対し、入所型のそれは 80.6%、居住系のそれは 76.0%であった（http://www.kaigo-center.or.jp/report/pdf/h25_chousa_roudousha_toukeihyou.pdf : 情報検索日 平成 27 年 3 月 25 日）。

た職員数を聞いたが、多くの事業所において限られた職員(管理者や相談員)が複数の研修を受講しており、実際には認知症に特化した研修を受講している職員は限られているという課題が明らかとなった。

3. 提言

今回の調査研究を通じ、地域で暮らす認知症医の人の在宅生活継続のためには、通所型サービスにおいて、①アセスメントと計画に基づく日々の支援、②介護支援専門員を通じた他のサービスとの連携、③介護者支援、そして④職員配置と情報の共有といった、これまでも繰り返言われてきた基本の重要性が改めて確認された。こういった基本は、日々の実践ではつい「できている」と思いがちではあるが、実際に実践できているか否かの確認・振り返りを行うなど、さらなる徹底が求められる。

また、今回の調査研究を通じ、認知症の人を地域で支え合うための土台を担っている事業所が多いことが明らかとなった。例えば、デイサービスの横の建物で認知症カフェを行い、いつでも気軽に立ち寄れる場所を提供している事業所や、ボランティアを積極的に受け入れ、アクティビティの進行の手伝いをしていただいている事業所¹⁵、利用者と共に近くの公園でサッカーをしている事業所、昼食づくりのために近くの商店街に一緒に行き、買い物をしている事業所などがあつた¹⁶。その他、保育園が事業所に隣接しており、園児と毎日交流している事業所や、事業所の横のスペースを地域の交流の場として開放し、放課後に小学生が立ち寄り、宿題をやったり友達とゲームを楽しんだりしている事業所もあつた。こういった取組みはまだ一部ではあつたが、平成 28 年度には、認知症対応型通所介護事業所ならびに通所介護の小規模型¹⁷において、地域との連携や運営の透明性の確保のために「運営推進会議」が必須となるなど、地域との関わりや結びつきは、今後ますます高まってくるであろう。

しかしその反面、通所型サービスは基本的に事業所内でサービスが提供されることが前提となっており¹⁸、介護支援専門員が作成する居宅サービス計画書ならびに通所介護や認知症対応型通所介護事業所が作成する通所介護計画において、外出支援が位置づけられていなければ、利用者と共に事業所外に出ることはできない。そのため、地域との関わりや結びつきを持つために、事業所は介護支援専門員と連携し、その必要性を計画にきちんと書き込んでいく必要がある。

通所型サービス事業所がその強み（利用者と職員が共に過ごす時間の長さ、定期的かつ継続的な介護者との関わり）を活かし、認知症の人に対して「利用者の容態やペースを踏まえた臨機応変のケアの提供」と「介護支援専門員と連携した継続的な介護者支援の提供」を行うことで、認知症の人の在宅生活の継続に貢献できる。今後はその役割をさらに拡充していくべく、各々の事業所において本調査研究において明らかになったポイントを踏まえつつ、個別ケアの実践に力を入れていくことはもちろん、地域とのつながりを強めることで、さらなる効果が生まれると思われる。

また、今回の調査研究では 2 つの課題も明らかとなった。1 つは小規模な事業所における経営の安定、

¹⁵ 訪問した日は将棋のボランティアの人が来ており、利用者にも目を配りつつ、自分も楽しみながら参加していた。また、ボランティア活動を通じ、認知症の人への接し方を学んだという意見も報告された。

¹⁶ ただし、通所介護計画に盛り込まれている必要がある。

¹⁷ 1 日当たりの定員が 18 名以下の通所介護は地域密着型サービスに移行することから、それに伴い運営推進会議の開催が必須となる。

¹⁸ 通所介護ならびに認知症対応型通所介護は事業所内でサービスを提供することが原則であるが、①あらかじめ通所介護計画に位置付けられていること、②効果的な機能訓練等のサービスが提供できること、という 2 つの条件を満たせば、事業所の屋外でサービスを提供することができるとされている。

(参照 厚生労働省 11.9.17 老企第 25 号第 3 の 6 の 3 (2)「指定通所介護の基本取扱方針及び具体的取扱方針」④)

もうひとつは職員の確保と研修機会の提供である。どちらも事業所単位では努力を重ねているが、法人規模が小さいところなどは、なかなか解決に至ることが難しい。地域密着型サービスを管轄している市町村や、認知症施策の推進を国家総合戦略として掲げた国において、検討すべき課題である。

今後、こういった課題を乗り越え、通所型サービスにおいて認知症の人への適切な支援が提供されるようになることで、認知症の人の在宅生活の継続と介護者の負担軽減に加え、地域との交流を通じながら、認知症への理解を高めるきっかけとなることを期待したい。

V. 資料

1. 聞き取り観察調査票

平成 26 年度厚生労働省老人保健健康増進等事業

「地域で生活する認知症の人の生活を支える在宅サービスのあり方に関する調査研究」

聞き取り・観察調査 質問用紙

本研究は、地域で生活する認知症の人の生活を支える在宅サービスのあり方を検討するために、認知症ケアにおいて優れた取り組みを行っている事業所を対象に、事業所の基本情報の他、①認知症の専門的ケアを実施するために行っているアセスメント手法と項目、②アセスメントを基にした通所介護計画の立案方法、③通所介護計画の職員間共有、実施・評価の方法、④認知症の人への具体的支援方法とその効果の測定方法、⑤介護支援専門員や医療機関との連携方法、⑥家族や主な介護者への支援等に関し、聞き取り及び観察調査を行っています。

調査結果は認知症介護研究・研修東京センターにてとりまとめ・整理をし、「平成 26 年度厚生労働省老人保健健康増進等事業 地域で生活する認知症の人の生活を支える在宅サービスのあり方に関する調査研究」検討委員会ならびに手引書作成委員会にて、通所介護、認知症対応型通所介護事業所に向けた「認知症の人の地域生活を支える通所型サービスの手引き（仮称）」を作成し、ホームページ等を使って全国の通所介護事業所に向けて発信する予定です。また、個々の事業所名がわからない形で、学会等での研究発表を行う予定です。その際には事前に発表内容をお知らせし、了解をいただいた後に行います。

お忙しい中、誠に恐縮ではございますが、認知症の人の地域での生活を支える通所型サービスのあり方を探る上で、認知症ケアにおいて優れた取り組みを行っている事業所の取組みを参考にさせていただきたく、本調査への積極的なご協力を、何卒宜しくお願い申し上げます。

- ※ この質問項目は聞き取り・観察調査当日に皆様にお伺いする内容です。事前にご記入の上、聞き取り調査の当日にご提出ください。
- ※ ご不明な点やご質問等がございましたら、下記にお問い合わせください。

○ 調査実施機関・お問合せ先

社会福祉法人浴風会 認知症介護研究・研修東京センター（担当：進藤）

〒168-0071 東京都杉並区高井戸西 1 - 1 2 - 1

Tel. : 0 3 - 3 3 3 4 - 2 1 7 3（代表）

Fax : 0 3 - 3 3 3 4 - 2 1 5 6

Email : research.tokyo@dcnet.gr.jp

URL : www.dcnet.gr.jp

<お願い>

参考のために下記のコピー（無記入のもの）を一部ご提供をいただければ幸いです。

1. アセスメントシート
2. 通所介護計画シート・評価表
3. 日々の記録シート
4. 家族への連絡シート
5. 事業所の平面図（見取り図）
6. 事業所のパンフレット

*不明の場合には、「不明」等とご記入ください

1. ご回答者様(事業所ご担当者)について

①お名前	マニュアルへのお名前の掲載 可 不可
②法人名	
③事業所名	
④事業形態	1. 認知症対応型通所介護（単独型・併設型・共用型） 2. 通所介護（小規模型・通常規模型・大規模型（Ⅰ）・大規模型（Ⅱ））
④役職	

2. 事業所のある地域の特性 *わかる範囲でご記入ください。不明点は空欄で結構です。

①人口	人	②日常生活圏域数	箇所
③地域特性	（例「雪が多く、冬の間の在宅支援が困難である。集落が離れており、ホームヘルパー等を効率的に派遣できない。主な JR の駅から車で 1 時間ほど離れており、車がないと日常生活が成り立たない」など、地理的特徴、気候、交通の便など、簡単にまとめてください）		
④65 歳以上人口	人	⑤高齢化率	%
⑥第五期介護保険料（月額）基準保険料	円		
⑦地域包括支援センター数	ヶ所		
⑧認知症対応型通所介護事業所整備数	認知症対応型通所介護： ヶ所 （うち、貴法人の事業所： ヶ所）		

3. 貴事業所について

*特に記載のないものは、平成26年10月1日現在の数値でお答えください。

*不明の場合には「不明」、0の場合には「0」とご記載ください。

①所在地	() 都・道・府・県 () 市・区・町・村
②開設主体	【当てはまるもの1つに○】 1. 公立(県、市町村) 2. 社会福祉法人 3. 社会福祉協議会 4. 医療法人 5. 社団・財団法人 6. 営利法人(株式会社、有限会社) 7. NPO法人 8. その他 ()
③加算の算定状況	平成26年9月の実績をお知らせください。 ①個別機能訓練加算 1. 算定あり→()件 2. 算定なし ②若年性認知症受入加算 1. 算定あり→()件 2. 算定なし ③栄養改善加算 1. 算定あり→()件 2. 算定なし ④口腔機能向上加算 1. 算定あり→()件 2. 算定なし ⑤延長加算 1. 算定あり→()件 2. 算定なし ⑥入浴介助加算 1. 算定あり→()件 2. 算定なし ⑦同一建物居住者にかかる減算 1. 算定あり→()件 2. 算定なし
④介護保険外サービス	下記のうち、 介護保険以外のサービス として提供しているもの全てに○をつけ、平成26年9月1日～30日までの利用者数(延べ)をお知らせください。 1. 宿泊(お泊りデイ)----- (H26年9月の延べ利用者数: 人) 2. 利用時間延長サービス----- (H26年9月の延べ利用者数: 人) 3. 朝食、夕食の提供サービス----- (H26年9月の延べ利用者数: 人) 4. その他 ()
⑤昼食の提供方法	昼食の調理はどなたがされていますか?以下のうち、当てはまるものに○をつけてください(日によって異なる場合には、最も多い提供形態に○をつけてください)。 1. 常勤もしくは非常勤の介護職員が調理している。 2. 調理専門の非常勤職員を採用・調理している。 3. 法人内の別の部署で調理したものを提供している。 4. 法人外の業者と契約し、取り寄せしている(お弁当等)。 5. 職員と利用者が一緒に調理している。 6. その他 ()
⑥営業日	1. 貴事業所の営業日をお知らせください【当てはまるもの <u>全て</u> に○】 1.月 2.火 3.水 4.木 5.金 6.土 7.日 8.祝・祭日 2. 営業時間: _____ ~ _____
⑦利用定員と営業日数	1. 利用定員(1日当たり): _____ 人 2. 平成26年9月の営業日数(開催日数): _____ 日
⑧稼働率 平成26年9月1日～ 30日までの1ヶ月	_____ % (小数点第一位まで) 計算式: 稼働率=9月の実利用者数(延べ)÷(9月の営業日×1日当たりの定員) 例: 91.2% =208人÷228(営業日19日×1日当たりの定員12名)

<p>⑨経営状況</p>	<p>平成25年度における貴事業所の収支はいかがでしたか？法人内部の調整分等を除き、貴事業所単独の収支でお答えください。【当てはまるもの1つに○】</p> <p>1. 余裕のある黒字であった 2. かるうじて黒字であった 3. わずかに赤字であった 4. 大幅に赤字であった 5. わからない</p>					
<p>⑩職員体制</p>	<p>職員体制についてお知らせください。雇用形態に関わらず、事業所が定める1週間の勤務時間（所定労働時間）の全てを勤務している場合は「常勤」、勤務していない場合は「非常勤」としてください。</p>					
		常勤専従	常勤兼務	換算数	非常勤	換算数
1	医師					
2	看護師					
3	准看護師					
4	機能訓練指導員					
	うち、理学療法士					
	うち、作業療法士					
	うち、言語聴覚士					
	うち、看護師					
	うち、准看護師					
	うち、柔道整骨師					
	うち、あん摩 マッサージ・指圧師					
5	調理員					
6	管理栄養士					
7	栄養士					
8	歯科衛生士					
9	生活相談員					
	うち、社会福祉士					
10	介護職員					
	うち、介護福祉士					
11	その他の職員					
<p>*「常勤専従」については、換算数の記入は不要です。 *「介護予防」と一体的に行っている場合には、兼務ではありません。 *雇用形態に関わらず、事業所が定める1週間の勤務時間（所定労働時間）の全てを勤務している場合は「常勤」、勤務していない場合は「非常勤」としてください。 *換算数の計算式： 小数点以下第2位を四捨五入して小数点以下第1位まで計上してください。 【換算数】＝〔従業員の1週間の勤務延時間〕÷〔事業所が定めている1週間の勤務時間〕</p>						

①職員の研修受講状況	下記の研修を終了した職員数をお知らせください。	
	研修名	修了者数
	認知症対応型サービス事業管理者研修	人
	認知症介護実践者研修	人
	認知症介護リーダー研修	人
	認知症介護指導者研修	人
	認知症ケア専門士（資格取得者）	人
	認知症ケア上級専門士（資格取得者）	人
その他	人	

4. 登録者についてお伺いします。

*特に記載のないものは平成26年10月1日現在でお答えください。

①性別・年齢	<p>利用者の性別と年齢をお知らせください。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男性</th> <th>女性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>64歳以下</td> <td>人</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>65～69歳</td> <td>人</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>70～74歳</td> <td>人</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>75～79歳</td> <td>人</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>80～84歳</td> <td>人</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>85歳以上</td> <td>人</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>人</td> <td>人</td> </tr> </tbody> </table>		男性	女性	64歳以下	人	人	65～69歳	人	人	70～74歳	人	人	75～79歳	人	人	80～84歳	人	人	85歳以上	人	人	計	人	人						
	男性	女性																													
64歳以下	人	人																													
65～69歳	人	人																													
70～74歳	人	人																													
75～79歳	人	人																													
80～84歳	人	人																													
85歳以上	人	人																													
計	人	人																													
②要介護度	<p>*区分変更・更新中であった場合は、変更・更新前のものをご記入ください。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>利用実人員数</th> <th>利用延人員数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>要支援1</td> <td>人</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>要支援2</td> <td>人</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>要介護1</td> <td>人</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>要介護2</td> <td>人</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>要介護3</td> <td>人</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>要介護4</td> <td>人</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>要介護5</td> <td>人</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>人</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>人</td> <td>人</td> </tr> </tbody> </table>		利用実人員数	利用延人員数	要支援1	人	人	要支援2	人	人	要介護1	人	人	要介護2	人	人	要介護3	人	人	要介護4	人	人	要介護5	人	人	その他	人	人	計	人	人
	利用実人員数	利用延人員数																													
要支援1	人	人																													
要支援2	人	人																													
要介護1	人	人																													
要介護2	人	人																													
要介護3	人	人																													
要介護4	人	人																													
要介護5	人	人																													
その他	人	人																													
計	人	人																													
③認知症高齢者の日常生活自立度	<p>(サービス担当者会議で配られる資料を参考にしてください)</p> <p>1.Ⅰ: _____人 2.Ⅱa: _____人 3.Ⅱb: _____人 4.Ⅲa: _____人 5.Ⅲb: _____人 6.Ⅳ: _____人 7.Ⅴ: _____人 8.不明: _____人</p>																														
④障害高齢者の日常生活自立度	<p>(サービス担当者会議で配られる資料を参考にしてください)</p> <p>1.自立: _____人 2.J1: _____人 3.J2: _____人 4. A1: _____人 5.A2: _____人 6.B1: _____人 7.B2: _____人 8.C1: _____人 9.C2: _____人 10.不明: _____人</p>																														

⑤原因疾患	<p>認知症の原因疾患についてお知らせください。複数の診断名のある方は、「混合」でカウントしてください。</p> <p>1. <u>アルツハイマー型</u>： _____ 人 2. <u>血管性</u>： _____ 人 3. <u>レビー小体型</u>： _____ 人 4. <u>前頭側頭型</u>： _____ 人 5. <u>混合</u>： _____ 人 6. <u>その他・不明</u>： _____ 人</p>
⑥利用者の同居者の状況	<p>A. 利用者の同居状況についてお知らせください。</p> <p>1. <u>1人暮らし</u>： _____ 人 2. <u>配偶者と2人暮らし</u>： _____ 人 3. <u>子供等と同居</u>： _____ 人 4. <u>その他</u>： _____ 人</p> <p>B. 2～4の利用者のうち、日中独居の方は何人いますか？： _____ 人</p>
⑦居住系サービスの待機者	<p>利用者のうち、介護老人福祉施設やグループホーム等への入所・入居待ちの方は何名いらっしゃいますか？ _____ 人</p>

5. 事業所の理念・目標や通所型サービスの役割についてお伺いします。

①事業所の理念・目標	
②認知症の人とその家族が地域で暮らしていく上での課題	<p>認知症の人とその家族が地域で暮らしていく上で課題として感じていることはどのようなことでしょうか？</p>
③通所型サービスが担う役割	<p>認知症の人の在宅生活を支えていくために、通所型サービスはどのような視点・意識を持って支援を行うべきと考えますか？</p>

6. 利用者支援についてお伺いします。

<p>①利用開始前の利用者支援</p>	<p>A. 利用開始前のアセスメントについて</p> <p>ア. アセスメントシートについて、当てはまるもの 1 つに○をつけてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 既存のアセスメントシートを用いている。 2. 既存のアセスメントシートに加えて、独自の指標を組み入れている。 3. 独自のアセスメントシートを作成している。 4. その他() <p>イ. アセスメントを行う方はどなたですか？</p> <p>下記の 1、2 の当てはまる方に○をつけてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. いつも決まった人が行う (管理者・相談員・介護職員・看護職員・その他) 2. その時によって異なる <p>ウ. 個別ケアを実施するために、特に重点的にアセスメントしている部分があればお知らせください。</p> <p>B. 個々のアセスメントを職員間で共有するために、工夫していることはありますか？</p>
<p>②アセスメントを基にした通所介護計画の作成</p>	<p>A. 通所介護計画の作成について</p> <p>ア. 通所介護計画シートについて、当てはまるもの 1 つに○をつけてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 既存の通所介護計画シートを用いている。 2. 既存の通所介護計画シートに加えて、独自の指標を組み入れている。 3. 独自の通所介護計画シートを作成している。 4. その他() <p>イ. 通所介護計画の作成に関わる方をお知らせください(計画作成担当者以外)。</p> <p>1.管理者 2.相談員 3.看護職員 4.介護職員 5.その他()</p> <p>ウ. 通所介護計画は、有効期間の満了時や ADL の急激な変化があった時以外にも定期的に見直しを行っていますか？</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はい(_____ 月に 1 回程度) 2. いいえ <p>B. アセスメントを基に個別の通所介護計画を立てる際、重視している点があればお知らせください。</p> <p>C. 個々の通所介護計画を職員間で共有するために、工夫していることはありますか？</p>

	<p>D. 日々の支援につなげるために、<u>通所介護計画作成時</u>に気を付けている点があればお知らせください（支援の内容、文言等）。</p>
<p>③通所介護計画に基づく日々の支援の実施</p>	<p>A. <u>通所介護計画の実践のために</u>、日々の支援における貴事業の特徴的な取り組み、手法をお知らせください。</p> <p>B. 個々の利用者の送迎時に工夫していること、心がけていることはありますか？</p> <p>C. 個々の認知症の人が、帰宅後や利用日以外でも安心して暮らせるよう、工夫していることや心がけていることはありますか？</p>
<p>④家族等、介護者への支援について</p>	<p>A. 家族会についてお伺いします。設置していない場合には、Bにお進みください。</p> <p>ア. 家族会はどこに設置されていますか？</p> <p>1. 貴事業所 2. 事業所にはないが法人内に設置</p> <p>イ. 家族会の開催主体はどなたですか？</p> <p>1. 家族 2. 事業所 3. 法人 4. その他</p> <p>ウ. 家族会の開催回数はどれくらいですか？ 月 _____ 回程度</p> <p>エ. 毎回何家族ぐらいの参加がありますか？ _____ 家族程度</p> <p>オ. 家族・事業所職員以外で家族会に参加されている方がいればお知らせください。</p> <p>1. 利用者 2. ケアマネ、地域包括職員等 3. 医療関係者</p> <p>4. 市町村職員 5. 地域住民 6. その他（ _____ ）</p>

	<p>B. 家族会以外に、家族支援として行っていることについて、お知らせください。</p> <p>C. 家族との連携のために工夫していることや心がけていることをお知らせください。</p>																								
<p>⑤利用者が使っている他のサービスとの連携の状況</p>	<p>A. 居宅介護支援事業所は併設されていますか？</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事業所にある 2. 法人内の別組織にある 3. 法人内に居宅介護支援事業所はない <p>B. 利用者に関わる他のサービスと、情報提供等の連携（家族等による仲介を含む）をしていますか？【最も当てはまる番号 1 つに○】</p> <table border="1" data-bbox="443 1088 1426 1319"> <thead> <tr> <th></th> <th>ほとんどのケースで連携している</th> <th>ケースによって連携している</th> <th>ほとんど連携していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. かかりつけ医</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>2. 介護保険サービス</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>3. 介護保険外サービス</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>4. ケアマネジャー</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>5. その他()</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>		ほとんどのケースで連携している	ケースによって連携している	ほとんど連携していない	1. かかりつけ医	3	2	1	2. 介護保険サービス	3	2	1	3. 介護保険外サービス	3	2	1	4. ケアマネジャー	3	2	1	5. その他()	3	2	1
	ほとんどのケースで連携している	ケースによって連携している	ほとんど連携していない																						
1. かかりつけ医	3	2	1																						
2. 介護保険サービス	3	2	1																						
3. 介護保険外サービス	3	2	1																						
4. ケアマネジャー	3	2	1																						
5. その他()	3	2	1																						
<p>⑥他のサービスとの連携や情報共有のために工夫していることがあれば、自由にお書きください。</p>	<p>A. かかりつけ医</p> <p>B. 短期入所生活介護や訪問介護等の介護保険サービス</p> <p>C. 配食サービス等、介護保険外サービス</p> <p>D. ケアマネジャー</p>																								

ご多忙の中、ご協力を誠にありがとうございました

2. 事業所紹介

	事業所名
1	有限会社ライフアート モアサロン福寿
2	有限会社シャイニング トトロの森のデイサービス
3	一般財団法人竹田健康財団 認知症専門デイサービス OASIS
4	社会福祉法人会津若松市社会福祉協議会 みなづるデイサービスセンター
5	社会福祉法人桜井の里福祉会 生きがい広場地蔵堂
6	社会福祉法人恵仁福祉協会 萩の家
7	社会福祉法人ジェイエー長野海 宅老所そめや
8	特定非営利活動法人認知症ケア研究会 デイサービスセンターお多福
9	特定非営利活動法人お互いさまネットワーク デイサービス喜楽
10	株式会社ブランドウ スーパーデイようざん
11	社会福祉法人久仁会 いきいきデイサービス
12	株式会社なごみ デイサービスなごみの家
13	認定特定非営利活動法人語らいの家 サロンデイ語らいの家
14	株式会社すずらん デイサービスすずらん梅丘
15	株式会社 Professional Works デイサービスつむぎ
16	社会福祉法人町田市福祉サービス協会 おりづる苑もりの
17	医療法人社団つくし会 やがわデイサービスセンター
18	社会福祉法人至誠学舎立川 至誠キートスケアセンター デイホーム
19	株式会社さくらコミュニティーケアサービス ケアサロンさくら
20	医療法人社団千春会 せんしゅんかいデイサービスセンター風車
21	株式会社クロス・サービス デイサービス来住 <small>(きし)</small>
22	公益財団法人正光会 デイサービスセンター「結い」じょうへん
23	有限会社 RAIMU デイサービスセンター来夢
24	株式会社パーソン・サポート絆 デイサービス絆
25	一般社団法人ゆうあい社会福祉事業団 デイサービスゆうあい古枝

認知症対応型通所介護	単独型	所在地	北海道札幌市
有限会社ライフアート モア・サロン福寿			



<事業所のある自治体情報>

人口	約 194 万人	65 歳以上人口	約 45.6 万人
高齢化率	23.6%	地域包括支援センター数	27 か所
日常生活圏域数	10 圏域	認知症対応型通所介護整備数	70 か所
地域の特性	事業所のある白石区は住宅地で、幹線道路沿いには店舗も多く、生活するには便利な場所であるが、冬場は降雪により、周辺道路の渋滞が多い。		

<事業所情報>

単位数・定員	1 単位・10 名
営業日	月、火、水、木、金
営業時間	8 : 00 ~ 21 : 30
加算の算定	入浴介助、延長
介護保険外サービス	-
職員体制	ほぼ常勤
職員の研修受講状況	認知症対応型サービス事業管理者研修 : 3 名 認知症介護実践者研修 : 3 名、認知症介護指導者研修 : 1 名
昼食の提供	調理専門の非常勤を採用
通所型サービスが担うべき役割	・自宅での介護負担の軽減のために、家族にケア方法やアイデアを伝える。 ・家族や本人が相談や情報を得ることのできる場を作り、認知症について理解を深めると共に、介護者のストレス軽減をはかる。 ・本人・家族の状況をケアマネジャーに情報提供し、本人にとってその時一番良い環境をコーディネートできるよう、支援する。

<利用者：構成比> *平成 25 年 9 月末現在

男女比	男性 : 42.9%	女性 : 57.1%
80 歳以上利用者の割合	21.4%	
要介護度	要支援 1、2 : 0.0%	要介護 1 : 35.7%
	要介護 3 : 14.3%	要介護 4 : 7.1%
		要介護 2 : 21.4%
		要介護 5 : 21.4%
利用者の同居状況	1 人暮らし : 7.1%	配偶者と二人暮らし : 35.7%
	子供等と同居 : 57.1%	その他 : 0.0% (日中独居 : 28.6%)

○ 事業所の理念・目標

生活障害となった方々の戸惑う姿を見つめるのではなく、その人の生きる生命全体を包み込むように支え、その人の人生をどのようにどれだけその人らしく生きられるかを一緒に模索する。

1. 心の機能への働きかけにより、傷ついた心を癒すケアを提供する、2. その人の歴史を重んじ、本人の力を引き出しながら、その人らしい生活を構築することに努める、3. 環境（人的環境含む）が周辺症状を引き起こす危険があることを十分に認識し、不安やストレスのない環境づくりに努める、4. 心身ともに健やかな心地良い生活がおくれるように援助する。

○ 個別ケアを実践するために特に重点的にアセスメントしている部分

・本人の生活歴、趣味、興味、認知症の容態を理解し、今の状態を踏まえて周囲との関係調整をする。

○ 通所介護計画作成時に気を配っていること

・本人のできないことをさりげなくフォローし、楽しく興味をもって過ごしたり、満足感を感じることが出来る計画を立てる。

・個々の意向・目的（身体を動かしたい、人と話をしたい、社会と触れ合いたい、安心してゆつくりと過ごしたい、人の役に立ちたい、等）に合わせた計画を立てることに気を付けている。

○ 日々の支援で特に気を配っていること

・個々の意向にあった活動を行えるよう、ペアリングを活動ごとに考えている。

・1日の個別の活動内容、過ごし方、時間帯、居場所や対応するスタッフ、役割分担を時系列で記入し、スタッフ間で共有している。

○ 送迎時に心がけていること

・家族との情報交換と共に、家族の思い、変化を感じ取ることを心がける。

・行きは自宅での様子の確認し、帰りは自宅に戻って本人が混乱しないよう、個々にあった会話をする。

○ 家族・介護者支援

・月に一回、家族が主体となり、家族会を開催している。参加者は家族、利用者やボランティアで、家族同士が情報交換をすることで、お互いが励まし合うような状況が見られる。

・併設するグループホームの1床でショートステイ（介護保険）を実施している。家族のレスパイトの他、本人の夜間の様子を知ることができ、ケアのアイデアや情報を家族と共有できるようになった。

○ 事業所の特長（研究者の視点）

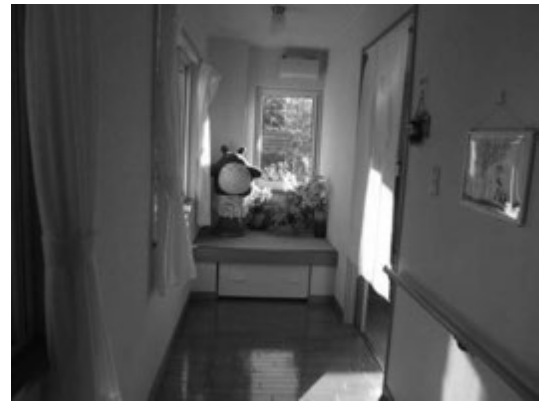
・デイでの写真を家族に渡し、利用日以外にも本人と一緒に見ていただくように促しています。これにより、早く環境になじむことができていると考えられます。

・利用開始時、徐々に環境になれるよう、家族と一緒にデイサービスに来ていただいたり、短時間で切り上げるなどし、無理のない形でデイサービスの利用を促しています。

<事業所連絡先>

住所	003-0834 北海道札幌市白石区北郷4条12丁目17-7
連絡先	011-879-1600
担当者	大西 彰
同業の皆様へ一言！	個別ケアが重要だと考えます。

認知症対応型通所介護	共用型	所在地	北海道札幌市
有限会社シャイニング トトロの森デイサービス			



<事業所のある自治体情報>

人口	約 194 万人	65 歳以上人口	約 45.6 万人
高齢化率	23.6%	地域包括支援センター数	27 か所
日常生活圏域数	10 圏域	認知症対応型通所介護整備数	70 か所
地域の特性	住宅街の中にあるグループホームを活用しています。高齢者は、比較的に少ない地域です。近隣にはスーパーがあり、利用者さんと一緒にお買い物に出かけ住民の方と触れ合う機会を大切にしています。また、目の前が小さな公園で、遊びに来ている小学生のお子さん達が、「お水飲ませて!」「トイレ貸してね」と、立ち寄ってくれる事も、利用者さんには嬉しいことのようにです。		

<事業所情報>

単位数・定員	1 単位・3 名
営業日	月、火、水、木、金、土、祝祭日
営業時間	10：00～17：00
加算の算定	若年性認知症受入、入浴介助、延長
介護保険外サービス	利用時間延長、朝食・夕食の提供
職員体制	常勤の割合が高い
職員の研修受講状況	認知症対応型サービス事業管理者研修：1 名 認知症介護実践者研修：2 名 認知症介護リーダー研修：2 名
昼食の提供	職員と利用者が一緒に調理している
通所型サービスが担うべき役割	・独居の方への配慮として、いつでも本人が困っているときには支えとなれるようにし、本人の力を発揮できる場づくりをする。 ・家族支援として、不安を聞いたり、日々の様子を伝えたり、同じ立場の人との交流の場を設けるなど、家族の状況に応じた支援を行う。

<利用者：構成比> *平成 25 年 9 月末現在

男女比	男性：16.7%	女性：83.3%	
80 歳以上利用者の割合	83.3%		
要介護度	要支援 1、2：0.0%	要介護 1：33.3%	要介護 2：0.0%
	要介護 3：33.3%	要介護 4：16.7%	要介護 5：16.7%
利用者の同居状況	1 人暮らし：16.7%	配偶者と二人暮らし：16.7%	
	子供等と同居：66.7%	その他：0.0%	(日中独居：50.0%)

○ **事業所の理念・目標**

<基本理念> 尊厳を持って自分らしく生きる為の生活を支援する

<目標> 1. 日々その瞬間を安心した気持ちで過ごすことが出来、いつも自己の存在を感じていられる生活環境を提供します。

2. ご家族との連携を密に保ち、共有出来得た深い思いを具現化できるケアを提供します。

3. 地域社会との関わりを深め、いつでも立ち寄ってもらえる開放的なグループホームを目指します。

4. 積極的に職員研修の場を持ち、介護の質の向上に努めます。

○ **個別ケアを実践するために特に重点的にアセスメントしている部分**

・本人の希望や生活する中で困っていること

○ **通所介護計画作成時に気を配っていること**

・家族の意向や支援してほしいこと、困りごとを考慮している。

・「買い物」を計画の中に入れ、本人の必要なものを購入する機会を設ける。

○ **日々の支援で特に気を配っていること**

・朝食や夕食を提供し、帰宅後はそのまま休んでいただいても大丈夫なようにしている。

・グループホームの利用者と共に買い物に行くなど、外出や買い物の機会を設けている。

・役割（コーヒーを淹れる、縫い物をするなど）を提供し、本人の「居場所」「達成感」を提供する。

・地域の人との交流を行うようにしている。

・通所日以外でも、希望がある行事にはご家族と一緒に参加していただく。

○ **送迎時に心がけていること**

・お迎えの前に電話を入れるなどして、本人の気持ちを「デイに行く」という方向にもっていく。

・独居の方には、離れて暮らす家族の心配事をお聞きして、電気のスイッチを入れる（消す）、冬期間はストーブのタイマーを合わせるなどの支援をしている。

○ **家族・介護者支援**

・グループホームの運営推進会議にデイサービスの利用者家族もよんでいる。

・グループホームの交流講座（年3回実施）にデイの人も参加できるようにしている。

・月に1回、包括と一緒に勉強会を開催している。

・連絡帳の他、必要な方へは家族との交換日記を行っている。

○ **事業所の特長（研究者の視点）**

・札幌駅の地下街で行われるイベント時にお店を出店し、そこで売る作品をデイサービスで作っていたり、イベント当日は利用者に売り子になっていただくなど、本人の得意を活かした支援を行っています。

<事業所連絡先>

住所	004-0814 北海道札幌市清田区美しが丘4条7丁目7-12
連絡先	011-886-1044
担当者	代表取締役・社長 住友 幸子
同業の皆様へ一言！	それぞれの利用者さんは、住み慣れた自宅での暮らしが中心であり、通所ケアに携わる私達には、その間の姿が見えません。嬉しい出来事があったかな？ 困った場面はなかったかな？…お迎えに行くと、明るい笑顔を見るとホッとします。ご家族も、きっと同じ思いでしょう。「今、その瞬間を、心地よく」その積み重ねを、みんなで共有することが大事なのですね。

認知症対応型通所介護	単独型	所在地	福島県会津若松市
一般財団法人竹田健康財団 認知症専門デイサービス OASIS			



<事業所のある自治体情報>

人口	約 12.3 万人	65 歳以上人口	約 3.3 万人
高齢化率	26.9%	地域包括支援センター数	7 か所
日常生活圏域数	7 圏域	認知症対応型通所介護整備数	9 か所
地域の特性	会津若松市は合併により人口 12 万の市となったが、生活は以前の町ごとに営まれている。事業所は会津若松市の駅から車で 10 分ほどのところにあり、周囲は民家や商店が並んでいる。バス等は通っているが、車中心の生活である。		

<事業所情報> *平成 25 年 9 月現在

単位数・定員	1 単位・12 名
営業日	月、火、水、木、金、土、日、祝祭日
営業時間	9 : 15 ~ 18 : 00
加算の算定	入浴介助、個別機能訓練
介護保険外サービス	-
職員体制	常勤のみ
職員の研修受講状況	認知症対応型サービス事業管理者研修 : 1 名 認知症介護実践者研修 : 3 名、認知症介護リーダー研修 : 1 名 認知症介護指導者研修 : 1 名
昼食の提供	法人内の別部署で調理したものを提供
通所型サービスが担うべき役割	・在宅での生活の継続性 (デイサービスは生活の一部である) ・家族と「専門職としての視点」(機能の維持・向上を目指す視点) と、「友人・知人のような視点」(遠慮なく意見交換ができる) をもった関係づくり。

<利用者：構成比> *平成 25 年 9 月末現在

男女比	男性 : 17.1%	女性 : 82.9%
80 歳以上利用者の割合	71.4%	
要介護度	要支援 1、2 : 0.0%	要介護 1 : 22.9%
	要介護 3 : 8.6%	要介護 4 : 25.7%
		要介護 5 : 17.1%
利用者の同居状況	1 人暮らし : 11.4%	配偶者と二人暮らし : 11.4%
	子供等と同居 : 68.5%	その他 : 8.6% (日中独居 : 25.7%)

○ **事業所の理念・目標**

理念：長年住み慣れた「家」「地域」で「その人らしく」暮らしていけるよう、本人・家族を支援していきます。本人・家族と向き合い、お互いに笑顔でいられるよう支援していきます。

行動指針：①本人の生き方を知り、心の声に耳を傾けていきます。②家族の思いを知り、受け止め、サポートしていきます。③地域と意見交換しながら認知症の理解を深めていきます。④チーム一丸となり、お互いの情報を共有します。⑤一人一人の支援方法を振り返り、一步一步前に進んでいきます。

○ **個別ケアを実践するために特に重点的にアセスメントしている部分**

- ・利用者に何を提供するとよいか、導入しやすい環境は何か
- ・家族が何を期待しているか、何に困っているか

○ **通所介護計画作成時に気を配っていること**

- ・できることを引き出すために、具体的な表現を使って注意点を挙げている。
- ・家族と支援方法が共有できるよう、専門用語は使わない。

○ **日々の支援で特に気を配っていること**

- ・帰宅後の様子などを家族と確認し、生活リズムをつかんでいる。
- ・気になることは小さなことでもこまめにケアマネジャーに連携している
- ・本人が集中できる作業の情報を、家族やショートステイ先に提供している。

○ **送迎時に心がけていること**

- ・家族とのコミュニケーションの時間であり、家での様子、過ごし方を垣間見ることができる時間を意識している。
- ・利用者への対応の仕方を家族に見ていただく機会である。

○ **家族・介護者支援**

- ・家族会を年に3回開催し、家族や利用者の他、市町村職員やケアマネジャー、包括職員等も参加している。また、自施設の利用者以外の介護家族も受け入れている。
- ・出かける気持ちになるよう、迎えは時間をかけたり時間を変えたり、何回でも実施している。

○ **事業所の特長（研究者の視点）**

- ・管理者が作業療法士で、個別機能訓練に力をいれています。
- ・この事業所の管理者が中心となり、市内の認知症対応型通所介護事業所が集まって勉強会を2か月に1回開催しています。平日夜の時間帯ですが、多くの方が参加されており、また市の認知症地域支援推進員も参加し、困難ケースへの対応についてのグループワークや情報交換を行っています。

<事業所連絡先>

住所	965-0876 福島県会津若松市山鹿町 4-3
連絡先	0242-38-3386
担当者	青木 智子
同業の皆様へ一言！	「介護の世界では当たり前」ではなく「人として当たり前」なことが介護の世界でも当たり前になるといいですね。

認知症対応型通所介護	共用型	所在地	福島県会津若松市
社会福祉法人会津若松市社会福祉協議会 みなづるデイサービスセンター			



<事業所のある自治体情報>

人口	約 12.3 万人	65 歳以上人口	約 3.3 万人
高齢化率	26.9%	地域包括支援センター数	7 か所
日常生活圏域数	7 圏域	認知症対応型通所介護整備数	9 か所
地域の特性	会津若松市は合併により人口 12 万の市となったが、生活は以前の町ごとに営まれている。事業所のある地域の人口は約 8、500 人で、その地域からの利用者が集まっている。徒歩圏内に商店などはなく、日常生活は車が中心である。冬は積雪があり、山間部では 3 月いっぱいまで雪に覆われる。		

<事業所情報> *平成 25 年 9 月現在。

単位数・定員	1 単位・3 名
営業日	月、火、水、木、金
営業時間	9 : 10 ~ 16 : 15
加算の算定	若年性認知症受入、入浴介助
介護保険外サービス	利用時間延長
職員体制	常勤の割合が高い
職員の研修受講状況	認知症対応型サービス事業管理者研修 : 2 名 認知症介護実践者研修 : 6 名
昼食の提供	職員と利用者が一緒に調理
通所型サービスが担うべき役割	・デイサービスを利用することで、利用者が今できていることが、在宅で継続してできるよう、見守り支援を大切にされたケアを行う ・家族の介護負担の軽減

<利用者：構成比> *平成 25 年 9 月末現在

男女比	男性 : 0.0%	女性 : 100.0%	
80 歳以上利用者の割合	100.0%		
要介護度	要支援 1、2 : 0.0%	要介護 1 : 0.0%	要介護 2 : 75.0%
	要介護 3 : 25.0%	要介護 4 : 0.0%	要介護 5 : 0.0%

○ **事業所の理念・目標**

- ・笑顔あふれる家庭（みなづる）づくり
- ・利用者、家族の立場を常に考える介護
- ・地域の中で自分らしく生活できる介護
- ・利用者主体の介護
- ・利用者、家族、職員が一つの家族

利用者が生き生きと暮らせるよう、全職員で個別ケアに取り組み、家族や地域の方々との交流や協力を得て、その人らしい生活が送れるよう支援する。

○ **個別ケアを実践するために特に重点的にアセスメントしている部分**

- ・職業、趣味、実家

○ **通所介護計画作成時に気を配っていること**

・食生活や生活リズムを整え、家庭的な雰囲気の中で日常生活機能の低下を予防できるよう、食事作りや掃除、洗濯等を中心に支援している

○ **日々の支援で特に気を配っていること**

・利用者、家族が共に体調を維持し、健康で不安なく毎日の生活を過ごすための支援を心がけている。
・支援内容は全員が一目でわかるよう、実行表に明記し、適切に実施できたかどうかの確認と評価を行い、本人、家族にとってよりよい支援となるよう、取り組んでいる。

○ **送迎時に心がけていること**

- ・利用者の状態や天候によって、職員 2 人体制で送迎するなど、安全な移動を心がけている。
- ・家族の都合により、送迎時間の調整や鍵の開閉、暖房器具の確認などを行っている。

○ **家族・介護者支援**

- ・年に 4 回、事業所と家族が一体となって家族会を開催している。
- ・事業所で行っているイベントに家族の参加を促し、家族も気分転換できるようにしている。
- ・冬の間は安全に送迎できるよう、利用者宅の生活道路の除雪を行っている。
- ・送迎時に家族の意見や不安等を引き出せるよう、ゆっくり話を聴くようにしている。

○ **事業所の特長（研究者の視点）**

・デイサービスは民家を改修し、その奥にグループホームを建て増した構造です。
・デイサービスで使っている居間は昔ながらの畳の部屋で、壁に沿って椅子やソファは並んでいますが、休息の時には布団を引いて寝るなど、家での生活がそのままデイサービスで行われています。
・訪問した当日、電車が止まるぐらいの雪で、事業所の周りにはふくらはぎまで埋まるほど積もっていましたが、朝夕の送迎のたびに利用者の家の前の雪かきをし、安全に利用者を送迎しています。

<事業所連絡先>

住所	969-3481 福島県会津若松市河東町郡山字中子山 25-1
連絡先	0242-75-5501
担当者	笠井 秀則
同業の皆様へ一言！	常に地域を見据え、地域に根ざした事業所となる様、頑張りましょう。

通所介護	大規模型 I	所在地	新潟県燕市
社会福祉法人桜井の里福祉会 生きがい広場地蔵堂・デイサービス			



<事業所のある自治体情報>

人口	約 8.2 万人	65 歳以上人口	約 2.2 万人
高齢化率	27.3%	地域包括支援センター数	4 か所
日常生活圏域数	4 圏域	認知症対応型通所介護整備数	4 か所
地域の特性	以前は多くの商店が並ぶ市街地であったが、年々店を閉めるところが増えてきている。事業所の近くには郵便局や銀行、薬局、商店街等があり、徒歩で用を足しに行くことができる距離である。事業所前には「4」と「9」のつく日に市が立ち、地域の人が集う場所である。		

<事業所情報>

単位数・定員	1 単位・35 名
営業日	月、火、水、木、金、土、日、祝祭日
営業時間	8 : 00 ~ 18 : 30
加算の算定	個別機能訓練、栄養改善、口腔機能向上、入浴介助
介護保険外サービス	宿泊、利用時間延長、朝食・夕食の提供 *平成 26 年 9 月の実績はなし
職員体制	常勤の割合が高い
職員の研修受講状況	-
昼食の提供	常勤の管理栄養士および調理員が調理
通所型サービスが担うべき役割	・自宅での生活の延長線として、自分でできることは自分でやっていただき、難しい部分を職員がサポートするようにする ・複数のサービスを組み合わせて利用されている人に対し、事業所間の連携を図り、安心して在宅生活を継続できるよう支援する

<利用者：構成比> *平成 25 年 9 月末現在

男女比	男性：33.3% 女性：66.7%
80 歳以上利用者の割合	71.6%
要介護度	要支援 1、2：44.6% 要介護 1：29.1% 要介護 2：19.9% 要介護 3：4.3% 要介護 4：2.1% 要介護 5：0.0%
利用者の同居状況	1 人暮らし：15.6% 配偶者と二人暮らし：7.1% 子供等と同居：75.2% その他：2.1% (日中独居：0.0%)

○ **事業所の理念・目標**

法人理念：「もう一つのわが家づくり」を目指します。

「ご利用者とご家族の尊厳と権利を守り、人として当たり前の生活」を保障します。

「施設は地域の共有財産であり、地域住民、ご利用者、ご家族の利益を第一」とします

事業所ケア理念：「地域と共に」「生涯現役」「心づくり」

○ **個別ケアを実践するために特に重点的にアセスメントしている部分**

・数ある事業所の中から、当事業所を選択された理由をヒアリングし、目的や意向を踏まえた支援を行うようにしている。

○ **通所介護計画作成時に気を配っていること**

- ・利用者の立場を基本に、本人へのヒアリングを重視し、プランに反映できるようにしている。
- ・知り得た情報を基に介護計画が作成できるよう、日々のケース記録には活動以外に、「嬉しいこと、楽しいこと」「やりたいこと」「不安や苦痛」といった項目を設け、活用している。
- ・「目標を達成するための具体的プロセス/課題」を項目化し、それに対する本人のニーズや対応するスタッフの取り組み、家族の意向も考慮して、より具体的な計画作成に留意している。

○ **日々の支援で特に気を配っていること**

- ・利用者のできることを明確にし、実践していただけるような取り組みを行っている。
- ・できないところをサポートし、やがてできるようになればとの思いで働きかけている。

○ **送迎時に心がけていること**

- ・個々の希望に応じて送迎の順番や座席への配慮を行っている。

○ **家族・介護者支援**

- ・家族が留守の場合、自室まで送り、送迎後に家族に確認連絡をするなど、個々に応じて行っている。
- ・利用日以外にも気軽に来ることができるよう、玄関ホールの一角に足湯を用意し、一般開放している。
- ・家族会を年に4回ほど開催し、勉強会や家族からの要望でいろいろな取り組みを行っている。

○ **事業所の特長（研究者の視点）**

- ・予防中心の通所介護ではありますが、利用者の3分の1以上は認知症高齢者の日常生活自立度がⅡ以上の方です（Ⅰを含めると全体の65%以上です）。
- ・認知症の症状が強くみられるようになった時、最初にご本人に今後どうされたいかを確認しています。本人が周囲との違和感を感じたり、不安が強くなっている場合には他の事業所をお勧めし、「このデイサービスを続けたい」という意向があれば、「どうすれば続けることができるか」ということを専門職の立場で考え、実践しています。

<事業所連絡先>

住所	959-0120 新潟県燕市分水栄町1番3号
連絡先	0256-97-7117
担当者	小杉 裕子
同業の皆様へ一言！	大切にしたい事は、ご利用者が自ら選び決定する事！

認知症対応型通所介護	単独型	所在地	長野県上田市
社会福祉法人恵仁福祉協会 萩の家			



<事業所のある自治体情報>

人口	約 16 万人	65 歳以上人口	約 4.4 万人
高齢化率	27.8%	地域包括支援センター数	10 か所
日常生活圏域数	10 圏域	認知症対応型通所介護整備数	9 か所
地域の特性	冬は寒さが厳しく雪が多いため、高齢者の在宅生活は大変厳しい。事業所の位置は主な駅から 15 km 程離れており、バスの数も少なく、買い物できるお店が近隣にない。車がないと日常生活が成り立たず、病院受診もできない。		

<事業所情報>

単位数・定員	1 単位・12 名
営業日	月、火、水、木、金、土、祝祭日
営業時間	8 : 30 ~ 17 : 30
加算の算定	入浴介助、延長
介護保険外サービス	宿泊、延長、朝食・夕食の提供 *平成 26 年 9 月の実績はほぼなし
職員体制	常勤と非常勤の割合が半々程度
職員の研修受講状況	認知症対応型サービス事業管理者研修 : 1 名 認知症介護実践者研修 : 5 名、認知症介護リーダー研修 : 1 名 認知症介護指導者研修 : 1 名
昼食の提供	職員が調理
通所型サービスが担うべき役割	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の状況の細やかなアセスメントを行う。 ・家での暮らしや生活リズムを意識した支援。 ・本人や家族の思いをくみ取る。 ・家族の負担感を軽減する。

<利用者：構成比> *平成 25 年 9 月末現在

男女比	男性 : 33.3%	女性 : 66.7%	
80 歳以上利用者の割合	94.4%		
要介護度	要支援 1、2 : 0.0%	要介護 1 : 11.1%	要介護 2 : 38.9%
	要介護 3 : 27.8%	要介護 4 : 5.6%	要介護 5 : 16.7%
利用者の同居状況	1 人暮らし : 0.0%	配偶者と二人暮らし : 27.8%	
	子供等と同居 : 72.2%	その他 : 0.0%	(日中独居 : 33.3%)

○ **事業所の理念・目標**

法人理念：「人として安心して生きる日々を大切に」

事業所目標：「心地よく笑顔溢れる“心和む萩の家”になるよう、専門職の自覚と責任を持ち、チーム連携・ケアの統一をはかる」

○ **個別ケアを実践するために特に重点的にアセスメントしている部分**

- ・緊急時対応に関すること
- ・本人や家族の希望・要望
- ・個人情報保護、倫理的配慮に努める

○ **通所介護計画作成時に気を配っていること**

- ・本人や家族の思い・希望
- ・家での生活状態

○ **日々の支援で特に気を配っていること**

- ・本人がやりたいこと、できることの提供
- ・本人が希望しても、家族がなかなかしてあげられないことをできるだけ叶える。
- ・昔ながらのこと（行事等）を大事にし、皆が楽しめる工夫。

○ **送迎時に心がけていること**

- ・家族に家での様子や困っていることなどを聞く。
- ・利用中に特に輝いていたことや身体的に様子を見ていただきたいこと等を伝えている。

○ **家族・介護者支援**

- ・個々の利用者の介護技術に関する助言を行っている。
- ・家族交流会を年に2回開催している。
- ・個別の相談を常に受け、信頼関係を築くようにしている。
- ・送迎時や連絡帳、電話等を使って、家族との情報交換を密に行っている。

○ **事業所の特長（研究者の視点）**

- ・昔ながらの食べ物や習慣を大事にしながら、落ち着いた安定感のあるケアを提供されています。
- ・利用者のペースを大事にされています。

<事業所連絡先>

住所	386-2203 長野県上田市真田町傍陽 6185-2
連絡先	0268-72-2781
担当者	田中 広一、松尾 弘子
同業の皆様へ一言！	皆様とのネットワークをこれからも、大切にしていきたいと思っております。 よろしくお願いします。

認知症対応型通所介護	単独型	所在地	長野県上田市
社会福祉法人ジェイエー長野会 宅老所そめや			



<事業所のある自治体情報>

人口	約 16 万人	65 歳以上人口	約 4.4 万人
高齢化率	27.8%	地域包括支援センター数	10 か所
日常生活圏域数	10 圏域	認知症対応型通所介護整備数	9 か所
地域の特性	山に囲まれた地域で、市内には坂が多い。冬期間、一度に降る雪の量は多くはないが、朝晩の冷え込みが強いため路面が凍結しやすい。そのため、冬の間を送迎は夏場に比べてかなり時間がかかる。		

<事業所情報>

単位数・定員	1 単位・12 名
営業日	月、火、水、木、金、土、祝祭日
営業時間	8 : 30 ~ 17 : 30
加算の算定	入浴介助
介護保険外サービス	宿泊、延長、朝食・夕食の提供
職員体制	常勤と非常勤の割合が半々
職員の研修受講状況	認知症対応型サービス事業管理者研修：2 名 認知症介護実践者研修：2 名、認知症ケア専門士研修：2 名
昼食の提供	職員と利用者が一緒に調理している
通所型サービスが担うべき役割	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅で穏やかに生活できるよう、本人らしい 1 日となる取り組みを考える。 ・必要最低限の支援を心がけ、「待つ介護」、「残存機能の活用」、「自立支援」を心がける。 ・家族にとって「大切な人が認知症になった」という思いをまず受け止め、本人だけでなく、家族の身体的、心理的状态を把握する。 ・現状を把握し、本人や家族にあった援助や助言ができるよう、関係者と連携する。 ・地域に対し、専門的な発信と地域の認知症の理解を高める。

<利用者：構成比> *平成 25 年 9 月末現在

男女比	男性：20.0%	女性：80.0%	
80 歳以上利用者の割合	86.7%		
要介護度	要支援 1、2：0.0%	要介護 1：0.0%	要介護 2：46.7%
	要介護 3：40.0%	要介護 4：13.3%	要介護 5：0.0%
利用者の同居状況	1 人暮らし：0.0%	配偶者と二人暮らし：13.3%	
	子供等と同居：86.7%	その他：0.0%	(日中独居：20.0%)

○ **事業所の理念・目標**

<事業所理念> 本人の思いを大切にし、住み慣れた地域で安心して在宅生活が継続できるよう支援します。

○ **個別ケアを実践するために特に重点的にアセスメントしている部分**

- ・ 本人の生活歴や家族関係、自宅での過ごし方
- ・ 社会資源

○ **通所介護計画作成時に気を配っていること**

- ・ これまでできていることが維持・継続できること。
- ・ 家族がわかりやすい内容にする。

○ **日々の支援で特に気を配っていること**

・ 本人ができなくなってきていることに対するさりげない支援。例えば、縫い物が趣味の利用者が、途中まで作ったものばかりが家にある場合に、それを事業所にもってきてもらい、職員と一緒に仕上げることで、本人も家族も満足する。

○ **送迎時に心がけていること**

- ・ 自宅と宅老所での様子を、職員と家族とでそれぞれ確認しあい、変化を共有するようにしている。

○ **家族・介護者支援**

- ・ 送迎時や電話にて、家族にこまめに様子を伝えるようにしている。
- ・ 帰りの時間の変更や、利用日の変更など、安心できる利用方法を伝えている。
- ・ 利用者や家族にアンケートを実施し、満足していることや改善点などを聞いている。

○ **事業所の特長（研究者の視点）**

- ・ 民家を借りてデイサービスを行っており、道からパッと見ただけでは事業所とはわかりません。デイサービスに行くというよりも、自宅にいるような感覚です。
- ・ 四方から明るい光がさしこむ家で、利用者は自分の家にいるようなゆったりとした気分で過ごされていました。
- ・ 女性の利用者が多いこともあり、調理を通じて自立支援を行っています。写真のさくらもちと干し柿は利用者の手作りです。特に干し柿は、秋に700個も作ったそうです。

<事業所連絡先>

住所	386-0005 長野県上田市古里 2260-18
連絡先	0268-22-5277
担当者	栗原 英樹
同業の皆様へ一言！	認知症の方が持っている力を発揮できるよう、日々の支援を大切にしていきたいと思います。

通所介護	小規模型	所在地	茨城県水戸市
特定非営利活動法人認知症ケア研究所 デイサービスお多福			



<事業所のある自治体情報>

人口	約 27 万人	65 歳以上人口	約 6.4 万人
高齢化率	23.7%	地域包括支援センター数	1 か所
日常生活圏域数	8 圏域	認知症対応型通所介護整備数	5 か所
地域の特性	四季の変化にメリハリがあり、暑い時と寒い時がはっきりとしている。海が近く、寒さが厳しい時でも雪はあまり積もらない。事業所は JR 水戸駅から車で 15 分ほどであるが、バス停が近くになく、バスの数も限りがあり、車がないと生活は不便である。近隣は閑静な住宅地で、事業所は民家を使っている。		

<事業所情報> *平成 25 年 9 月現在

単位数・定員	1 単位・15 名		
営業日	月、火、水、木、金、土		
営業時間	9 : 30 ~ 16 : 30		
加算の算定	入浴介助		
介護保険外サービス	宿泊 *平成 26 年 9 月の実績はわずか		
職員体制	非常勤の割合が高い		
職員の研修受講状況	認知症対応型サービス事業管理者研修 : 1 名 認知症介護実践者研修 : 3 名 認知症ケア専門士研修 : 4 名、認知症ケア上級専門士 : 1 名		
昼食の提供	職員が調理している		
通所型サービスが担うべき役割	<ul style="list-style-type: none"> ・デイに通っている時間だけでなく、家での生活を意識したケアを提供する ・家族の認知症の理解を深めたり、心理的負担を軽減する。 ・地域の人々に認知症を正しく理解してもらう。 ・制度だけに頼らず、地域の力を活用し、認知症や高齢者を支援する地域の中心になる。 		

<利用者：構成比> *平成 25 年 9 月末現在

男女比	男性 : 15.6%	女性 : 84.4%
80 歳以上利用者の割合	65.6%	
要介護度	要支援 1、2 : 10.3%	要介護 1 : 55.2%
	要介護 3 : 10.3%	要介護 4 : 0.0%
		要介護 2 : 17.2%
		要介護 5 : 6.9%
利用者の同居状況	1 人暮らし : 7.4%	配偶者と二人暮らし : 25.9%
	子供等と同居 : 66.7%	その他 : 0.0% (日中独居 : 7.4%)

○ **事業所の理念・目標**

理念：お多福で『幸せな』時間をそれぞれが共有できるよう 愛と知恵を生かし 一人一人の個性に合ったケアを提供します。共に笑い共に泣き 心の動くケアを目指します。地域に生まれ 家庭のような温かい空間の提供を目指します

年度目標：気持ちはいつも前向きチャレンジ ずっと走らず息抜きを 地球にやさしく人に優しく なんでも相談お多福へ みんなの心をわしづかみ！「千客万来」

○ **個別ケアを実践するために特に重点的にアセスメントしている部分**

・これまでの生活歴

○ **通所介護計画作成時に気を配っていること**

・その人の「生活歴」を重視し、本人に希望等を聞くようにしている（本人が伝えられない場合には家族から情報収集する）

○ **日々の支援で特に気を配っていること**

・利用当初に拒否がみられる方に対しては、週に1度職員が顔を見せに行き、なじみの関係を築く

○ **送迎時に心がけていること**

・必ず家族と会話をすることを心がけている。
・帰り際に混乱しないよう、気を配っている。

○ **家族・介護者支援**

・月に1度「お達者クラブ」というイベントを行い、本人や家族に参加を促している。
・連絡帳は市販のノートとし、定型文を入れないようにしている（伝える言葉を大事にしている）

○ **事業所の特長（研究者の視点）**

・事業所の建物は大きな民家で、地域の風景になじんでいると共に、通っている人たちも、「知り合いや親戚の家に来ている」という印象を持つのではないかと思います。

・隣接する幼稚園の園児たちが、午前中毎日デイサービスにやってきて、一緒に体操をしています。にぎやかな子供たちを見て、利用者たちは目を細めていますし、園児たちは利用者の顔と名前を覚えており、声をかけたり抱っこをせがんだりしています。見学時も、一人の園児が泣いていましたが、それを認知症の利用者が優しくなだめていました。

<事業所連絡先>

住所	310-0841 茨城県水戸市酒門町 4637-2
連絡先	029-247-9292
担当者	高橋 克佳
同業の皆様へ一言！	世代間交流は、高齢者も子どもも、そしてスタッフにも！元気をくれる。もう一度ご近所付き合いを始めてみると素晴らしい出会いがあると思います。

認知症対応型通所介護	単独型	所在地	群馬県館林市
特定非営利活動法人お互いさまネットワーク デイサービスセンター喜楽			



<事業所のある自治体情報>

人口	約 7.8 万人	65 歳以上人口	約 1.9 万人
高齢化率	25.0%	地域包括支援センター数	3 か所
日常生活圏域数	4 圏域	認知症対応型通所介護整備数	3 か所
地域の特性	市内全体が平地であり、夏は暑い日が多く、気温も日本一高くなる。冬は風が強い日が多いが、雪はほとんど降らない。また、路線バスがないために、日常生活には車が必需品である。事業所は駅から徒歩 15 分程度のところにあり、周囲には畑と住宅が混在している。		

<事業所情報> *平成 25 年 9 月現在

単位数・定員	1 単位・12 名
営業日	月、火、水、木、金、土、日、祝祭日 (第 4 日曜日は休み)
営業時間	8:30~17:30
加算の算定	入浴介助、若年性認知症受入
介護保険外サービス	宿泊、利用時間延長、朝食・夕食の提供 *平成 26 年 9 月の実績はなし
職員体制	常勤の割合が高い
職員の研修受講状況	認知症対応型サービス事業管理者研修：2 名 認知症介護実践者研修：4 名 認知症ケア専門士研修：1 名
昼食の提供	職員と利用者が一緒に作り食べる
通所型サービスが担うべき役割	・家族の悩みや相談事を聞き、一緒に考える。 ・在宅生活継続のために、1 人暮らしや老々世帯などは、服薬管理や戸締り、日常生活品の購入の支援など、必要に応じた支援を行っている。

<利用者：構成比> *平成 25 年 9 月末現在

男女比	男性：39.4%	女性：60.6%	
80 歳以上利用者の割合	60.6%		
要介護度	要支援 1、2：3.0%	要介護 1：21.2%	要介護 2：27.3%
	要介護 3：24.2%	要介護 4：6.1%	要介護 5：18.2%
利用者の同居状況	1 人暮らし：21.2%	配偶者と二人暮らし：18.2%	
	子供等と同居：57.6%	その他：3.0%	(日中独居：72.0%)

○ **事業所の理念・目標**

理念「デイサービスセンター喜楽は、楽しみをもってゆったり過ごす、あなたのもうひとつの家です」
年度目標「在宅生活の支えとなるデイサービスを目指す」

○ **個別ケアを実践するために特に重点的にアセスメントしている部分**

- ・昔は何をされていたか
- ・一日の過ごし方
- ・認知症の疾患や症状、薬、対応の仕方など

○ **通所介護計画作成時に気を配っていること**

- ・デイ利用の中で、できることを取り入れている。
- ・その人の思いを取り入れ、ケアプランを作成し、ケアプラン内容をわかりやすくケアポイントとし、日々実践できるようにしている。

○ **日々の支援で特に気を配っていること**

- ・朝のミーティングで一日の過ごし方を決めており、個別ケアポイントをどのように提供するかを確認している。
- ・利用者の入浴、利用時間等チェック表に毎日チェックをしている。
- ・デイに慣れる、楽しく過ごす、役割を持つ、能力の維持を生活リハビリとして取り組んでいる。

○ **送迎時に心がけていること**

- ・家族に家での様子や困りごとを聞く。
- ・戸締りや服薬の確認など、必要な支援を行う。
- ・デイサービス利用日以外に散歩姿を見かけたら、家族に連絡を入れる。
- ・行方不明の連絡があれば、一緒に検索する。

○ **家族・介護者支援**

- ・年に2回家族会を開催している。
- ・連絡ノートの活用や、送迎時に家族とコミュニケーションを密にとることで、信頼関係を築いている。

○ **事業所の特長（研究者の視点）**

- ・設立に際し、法人理事長は地域の人たちと共に「この地域に何が必要か」を話し合い、その上で事業所を立ち上げています。そのため、地域からの信頼も厚く、地域の人がデイサービスに直接相談に来るなど、「認知症の相談窓口」として機能しています。
- ・男性利用者の割合が高く、また若年の利用者も多いです。
- ・職員研修に大変熱心で、認知症介護実践者研修を修了した職員の割合が高いです。

<事業所連絡先>

住所	374-0057 群馬県館林市北成島町 1829-5
連絡先	0276-70-1326
担当者	小川 加津子、恩田 初男
同業の皆様へ一言！	認知症になっても安心して生活できるよう、その方の思いに添う支援ができればいいですね。

認知症対応型通所介護	単独型	所在地	群馬県高崎市
株式会社ブランドゥ スーパーデイようざん			



<事業所のある自治体情報>

人口	約 37.5 万人	65 歳以上人口	約 9.4 万人
高齢化率	25.2%	地域包括支援センター数	7 か所
日常生活圏域数	15 圏域	認知症対応型通所介護整備数	26 か所
地域の特性	夏は暑く冬は寒い。積雪は少ないが、山から吹き降ろしてくる風が冷たく強い。事業所は高崎駅から車で 10～15 分ほどで、新幹線や在来線の本数も多いが、日常生活では車がないと買い物や通院等に不便である。		

<事業所情報>

単位数・定員	1 単位・12 名
営業日	月、火、水、木、金、土、日、祝祭日（お正月も営業）
営業時間	7：00～21：00
加算の算定	入浴介助、個別機能訓練、若年性認知症受入
介護保険外サービス	宿泊(H27 年 3 月末まで)、利用時間延長、朝食・夕食の提供
職員体制	常勤の割合が若干高い
職員の研修受講状況	認知症対応型サービス事業管理者研修：1 名 認知症介護実践者研修：3 名 認知症ケア専門士研修：2 名
昼食の提供	グループ会社への委託
通所型サービスが担うべき役割	・本人がデイサービスにいるときだけでなく、1 日を通しての生活、関わっている人、家族関係等、広い視野を持って関わる。 ・家族のニーズも常に意識し、信頼関係を築く。 ・介護サービスの始まりがデイサービスということが多いため、本人の生活全般をみて、必要な情報をケアマネジャーにつなぐ。 ・認知症状の変化を随時医療機関へ連絡し、連携を深めている。

<利用者：構成比> *平成 25 年 9 月末現在

男女比	男性：35.7%	女性：64.3%	
80 歳以上利用者の割合	57.1%		
要介護度	要支援 1、2：0.0%	要介護 1：35.7%	要介護 2：21.4%
	要介護 3：25.0%	要介護 4：14.3%	要介護 5：3.6%
利用者の同居状況	1 人暮らし：3.6%	配偶者と二人暮らし：35.7%	
	子供等と同居：53.6%	その他：7.1%	(日中独居：10.7%)

○ **事業所の理念・目標**

<法人理念>「主権在客」

一人一人がその人らしく在宅生活を過ごしていけるように、利用者を主体にしてサービス提供を考えていく。家族との関わりも含め広い視野を持ち、関わっていく。

○ **個別ケアを実践するために特に重点的にアセスメントしている部分**

・昔の仕事やこだわりがあったこと。昔の趣味、好きなものなど。

○ **通所介護計画作成時に気を配っていること**

・利用拒否のある方に対し、個別の支援を行い、利用につなげている。

○ **日々の支援で特に気を配っていること**

・認知症の疾患を意識し、それに対して有効とされるリハビリ等を行っている。

・満点主義で、利用者の得意なことをやっていただく。そのためには、どのレベルのこういったアクティビティに楽しく参加できているかを、常にモニタリングしている。

○ **送迎時に心がけていること**

・家族に直接会える貴重な時間と考えている。家族の要望や介護で大変なこと、負担に思っていることなどを聞いている。

・家族との信頼関係を築くようにしている。

○ **家族・介護者支援**

・年に2回、家族会で旅行をし、家族間の交流や情報交換、介護疲れの軽減を行っている。

・連絡ノートに認知症の疾患別、対応の工夫を貼り、家族にも疾患を理解した上での対応、ケアをお知らせしている。

○ **事業所の特長（研究者の視点）**

・市内で認知症に特化した介護保険サービスを複数展開している法人です。

・認知症の疾患を意識し、職員にも家族にも医療や介護についての情報をきちんと提供し、認知症の本人が過ごしやすい「関わり」を心がけています。

・デイルームには、職員手作りの歴史年表や利用者一人一人の最高の笑顔の写真などが貼られ、回想法に役立てたり、ケアの成功例を職員が振り返ることができます。

・今後、認知症の人と共に地域に出ていくためにも、まずは「いきいきサロン」を月に1回程度自治会で開催し、地域の理解を深めるための土台作りをしています。

<事業所連絡先>

住所	370-0801 群馬県高崎市上並榎町 1180
連絡先	027-362-0300
担当者	高橋 大将、堀江 一彦
同業の皆様へ一言！	認知症対応型通所介護は少ないので、連携して良いケアを提供しましょう。

通所介護	小規模型	所在地	群馬県沼田市
社会福祉法人久仁会		いきいきデイサービス	



<事業所のある自治体情報>

人口	約 5.1 万人	65 歳以上人口	約 1.5 万人
高齢化率	約 29.1%	地域包括支援センター数	1 か所
日常生活圏域数	4 圏域	認知症対応型通所介護整備数	9 か所
地域の特性	群馬県の北部の北部に位置し、赤城山や武尊山など日本百名山に挙げられる山々に四方を囲まれた、東西に長く、起伏に富んだ地形で、自然豊かなまちです。市街地は、市域を南北に貫流する利根川とその支流の片品川・薄根川により形成された日本一の河川段丘上に広がっています。玉原高原や国指定文化財吹割の滝など、スケールの大きい自然環境は、豊富な温泉群やリゾート施設等と相まってわが国でも有数の観光地として資質を有しています。		

<事業所情報>

単位数・定員	1 単位・10 名
営業日	月、火、水、木、金、土、祝祭日
営業時間	9 : 00 ~ 16 : 15
加算の算定	入浴介助
介護保険外サービス	宿泊、利用時間延長、朝食・夕食の提供
職員体制	ほぼ常勤
職員の研修受講状況	認知症介護実践者研修：1 名 認知症介護リーダー研修：1 名 認知症ケア上級専門士研修：1 名
昼食の提供	法人内の栄養課（直営）で調理したものを提供
通所型サービスが担うべき役割	・ 本人が在宅で継続して生活できるように支援していく ・ 日中、家族が安心して過ごせるよう、デイでの生活を大切にする ・ 本人の意向を聞き、アクティビティを大切にする

<利用者：構成比> *平成 26 年 9 月末現在

男女比	男性：35.0%	女性：65.0%
80 歳以上利用者の割合	75.0%	
要介護度	要支援 1、2：10.0%	要介護 1：25.0% 要介護 2：25.0% 要介護 3：30.0% 要介護 4：10.0% 要介護 5：0.0%
利用者の同居状況	1 人暮らし：31.6%	配偶者と二人暮らし：21.1% 子供等と同居：47.4% その他：0.0% (日中独居：5.3%)

○ **事業所の理念・目標**

地域といっしょに。あなたのために。

○ **個別ケアを実践するために特に重点的にアセスメントしている部分**

- ・本人の意向やできること、できないことを見極め、支援していく。
- ・アセスメントを理解したうえで、日々の支援を通じて発見や可能性を探る。

○ **通所介護計画作成時に気を配っていること**

- ・在宅での生活を支援するための計画づくり（自立支援）
- ・ケアマネジャーの計画書を基に、カンファレンスの内容やスタッフの意見を取り入れて作成している。
- ・ご本人・ご家族の理解の得られる内容とする。

○ **日々の支援で特に気を配っていること**

- ・利用者同士がお互いにできることなどを助け合う気持ちを活かせるように心がける。
- ・利用者同士のコミュニケーションがとりやすいように、座席配置等を工夫する。
- ・スタッフが認知症について常に学び、個々にあったケアを行う。

○ **送迎時に心がけていること**

- ・荷物の確認やストーブの消灯・点灯など、必要に応じて支援する。
- ・家族とのコミュニケーションを大切に、常に情報共有をする。

○ **家族・介護者支援**

- ・法人が実施している家族会（年2回）にお誘いしている。
- ・ほほえみノート（沼田市独自の介護サービス情報連携ツール）に記録をし、他のサービスとの連携や、病院受診時に役立ててもらっている。

○ **事業所の特長（研究者の視点）**

- ・特養の1階にあるデイサービスで、受付の横には居酒屋（ミニバー）があります。地酒の瓶は並んでいますが、ノンアルコールの飲み物を提供しているそうです。土曜日は男性のための男性によるメンズデイを開催してます。ご自宅に持ってかえれて、喜ばれるような作品作りをめざし、材料はな一れ通貨（法人内独自の通貨）で購入してます。お手伝いをして頂いた時はな一れ通貨を報酬としています。
- ・同じ建物内に障害を持ったお子さんのデイサービスもあり、夕方近くになると子供たちの元気な声が聞こえてきます。障害者施設との就労支援の協力も行っています。（ぐんまちゃんグッズの作成手伝い）
- ・昔ながらの物品（アルミのお弁当箱、ミシン、炊飯器等）が陳列されており、回想法を取り入れつつ、利用者とのコミュニケーションを図っています。

<事業所連絡先>

住所	378-0005 群馬県沼田市久屋原町 414-1
連絡先	0278-25-9292
担当者	東山 しのぶ、松井 道代
同業の皆様へ一言！	最後まで家族の一員であることを実感できるよう、支えていきましょう

認知症対応型通所介護	単独型	所在地	千葉県四街道市
株式会社なごみ デイサービスなごみの家			



<事業所のある自治体情報>

人口	約 9.1 万人	65 歳以上人口	約 2.4 万人
高齢化率	26.4%	地域包括支援センター数	1 か所
日常生活圏域数	2 圏域	認知症対応型通所介護整備数	1 か所
地域の特性	東京や千葉の主要都市のベッドタウンとして栄え、住宅地と農地（牧場）が広がる市である。気候は温暖で自然災害は少ない。持ち家率が 79%と高く、高齢者のみ世帯が増加の一途をたどっている。また、新興住宅地と古くから住んでいる住民との間に交流が少なく、孤立が深まっている地域もある。		

<事業所情報>

単位数・定員	1 単位・10 名
営業日	月、火、水、木、金、土、祝祭日
営業時間	9 : 15 ~ 16 : 30
加算の算定	入浴介助
介護保険外サービス	宿泊、利用時間延長、朝食・夕食の提供 *平成 26 年 9 月の実績はなし
職員体制	常勤の割合が若干高い
職員の研修受講状況	認知症介護実践者研修 : 4 名 認知症介護実践リーダー研修 : 1 名 認知症介護指導者研修 : 0 名 開設者研修 : 2 名 認知症介護認定看護師 : 2 名
昼食の提供	調理専門の非常勤を採用
通所型サービスが担うべき役割	・ 認知症の人が最初に利用するのがデイサービスであることが多いことから、認知症の人の BPSD や閉じこもり等の改善をし、生活できる自信を本人や家族に示す。 ・ 本人の持っている力を発揮できるよう、環境等の調整を行う。 ・ 家族に対し、認知症についての具体的な啓発と予測の提示をしながら、協働して支えていく。

<利用者：構成比> *平成 25 年 9 月末現在

男女比	男性 : 33.3% 女性 : 66.7%
80 歳以上利用者の割合	72.2%
要介護度	要支援 1、2 : 0.0% 要介護 1 : 33.3% 要介護 2 : 5.6% 要介護 3 : 33.3% 要介護 4 : 5.6% 要介護 5 : 22.2%
利用者の同居状況	1 人暮らし : 11.1% 配偶者と二人暮らし : 33.3% 子供等と同居 : 50.0% その他 : 5.6% (日中独居 : 27.7%)

○ **事業所の理念・目標**

「認知症になっても、自由に伸び伸びと、自分らしく『普通に』生きる（生活する）こと」を支援する。

○ **個別ケアを実践するために特に重点的にアセスメントしている部分**

- ・持っている力の発掘。
- ・最低2回は自宅を訪問し、様子を見たり、一日の過ごし方を確認したりする。
- ・本人の状況を分析するための、細かな情報を収集する。

○ **通所介護計画作成時に気を配っていること**

- ・ポジティブな言葉で記入する。

○ **日々の支援で特に気を配っていること**

- ・ケアマネジャーとの連携を大切にし、担当者会議を通じて、他事業所と連携している。
- ・利用者の「ルール」に合わせる支援をする。
- ・利用者同士の仲間づくりを心がける。

○ **送迎時に心がけていること**

- ・本人や家族を観察する。
- ・相談に丁寧に対応する。

○ **家族・介護者支援**

- ・行事（春の遠足、秋のメモリーウォーク）への参加を促し、その後に懇談会を開いている。
- ・なんでも相談できる関係づくりをしている。
- ・利用前、家族にも事業所の見学に来てもらい、こちらにも必要に応じて何度か自宅を訪問するようにしている。

○ **事業所の特長（研究者の視点）**

- ・認知症看護認定看護師が2名おり、認知症介護実践者研修修了者も4名いるなど、職員の資質向上に力を入れると共に、専門的ケアの提供を実践しています。
- ・民家を使ったデイサービスで、住宅街の一角にあり、周囲の環境に溶け込んでいます。
- ・リビングやダイニングなどをうまく使い、小さな空間から大きな空間まで、自在に作り出せる間取りとなっています。

<事業所連絡先>

住所	284-0001 千葉県四街道市大日 197-5
連絡先	043-309-5131
担当者	西 ケイ子
同業の皆様へ一言！	認知症の人は不安を抱えながらも生涯発達をしていることに確信を持ち、『普通に生きる』ことを追求していきましょう。

認知症対応型通所介護	単独型	所在地	東京都世田谷区
認定特定非営利活動法人語らいの家 デイホーム語らいの家			



<事業所のある自治体情報>

人口	約 87 万人	65 歳以上人口	約 17.3 万人
高齢化率	19.8%	地域包括支援センター数	27 か所
日常生活圏域数	27 圏域	認知症対応型通所介護整備数	27 か所
地域の特性	周囲に公園が多く、四季折々の季節を感じることができる。近くに川があるなど、都会の中でありながら緑に囲まれており、閑静な住宅街であるため、安心して散歩等を行うことができる。一人暮らしや配偶者と二人暮らしの高齢者住まいが多い。		

<事業所情報>

単位数・定員	1 単位・12 名
営業日	月、火、水、木、金、祝祭日
営業時間	9:00~18:00
加算の算定	個別機能訓練、若年性認知症受入
介護保険外サービス	利用時間延長、朝食・夕食の提供、配食（夕食 1 名有り）
職員体制	常勤と非常勤の割合が半々程度
職員の研修受講状況	認知症介護実践者研修：1 名、認知症介護指導者研修：1 名
昼食の提供	調理専門の非常勤が調理。月・水は、利用者が中心に調理を行う。
通所型サービスが担うべき役割	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の持っている能力を活かせる活動を実践する ・家族の持つ困難や問題等を早めに知り、解決の努力を家族と共に行う ・本人の希望を支えるだけの受け皿となる

<利用者：構成比> *平成 25 年 9 月末現在

男女比	男性：7.7%	女性：92.3%	
80 歳以上利用者の割合	76.9%		
要介護度	要支援 1、2：0.0%	要介護 1：15.4%	要介護 2：34.6%
	要介護 3：26.9%	要介護 4：11.5%	要介護 5：11.5%
利用者の同居状況	1 人暮らし：26.9%	配偶者と二人暮らし：26.9%	
	子供等と同居：11.5%	その他：34.6%	(日中独居：23.1%)

○ **事業所の理念・目標**

理念「その人がその人らしく地域でいつまでも安心して暮らし続ける」

目標「安心して楽しく過ごせるデイホーム」

○ **個別ケアを実践するために特に重点的にアセスメントしている部分**

- ・ご本人や家族の希望するデイでの過ごし方
- ・認知症の症状の把握、またそれによって現れる行動状況の確認
- ・食事作りに関しての希望や形態

○ **通所介護計画の実践のために、日々の支援における事業所の特徴的な取り組み**

- ・管理者が認知症について正しく理解し、職員にわかりやすく伝えていく
- ・利用者同士の交流を大切にするためにも、職員がさりげなく関わり、関係の調整を行う

○ **日々の支援で特に気を配っていること**

- ・自分の居場所があり、安心して過ごせる場となっているか
- ・食事摂取、排泄、健康状態がいつもと同じであるか
- ・個別の対応ができるよう、職員配置を多めにしている
- ・本人の満足度が家族に伝わり、結果的に在宅生活を継続できる力となる

○ **送迎時に心がけていること**

- ・本人の生活スケジュールに合わせた送迎時間に行っている（到着は、8：30～11：00 と幅がある）
- ・独居の方に対し、電気類の消灯・点灯や鍵の施錠・開錠、持ち物の確認等、細かに対応している

○ **家族・介護者支援**

- ・月に1回、家族相談会を開催。地域住民は誰でも参加できるようにしている。
- ・専門のアドバイザー（精神科医または臨床心理士）の同席があり、病院ではゆっくり相談できないことでも少人数でゆったり話せるようにしている。
- ・家族は現在の介護や将来への不安等、精神的にかなり疲弊している。その状況を少しでも緩和し、孤立させないために、また問題を共有できる仲間を知ることが目的に開催。

○ **事業所の特長（研究者の視点）**

- ・女性の利用者が多く、のんびりゆったりとした時間を過ごしつつ、仲間と共におしゃべりや活動を楽しんでいらっしゃいました。
- ・民家を改修した事業所で、ふすま等を取り払い、スペースを広く確保していますが、テーブル席やソファを適宜配置し、気の合う仲間同士で小さなグループをいくつか作れるよう、工夫されています。

<事業所連絡先>

住所	157-0066 東京都世田谷区上祖師谷 6-7-28
連絡先	03-3326-5590
担当者	坪井 信子
同業の皆様へ一言！	認知症の人は出来ることがたくさんあります。焦らずに、その方のペースで対応しましょう。

認知症対応型通所介護	単独型	所在地	東京都世田谷区
株式会社すずらん デイサービスすずらん梅丘			



<事業所のある自治体情報>

人口	約 87 万人	65 歳以上人口	約 17.3 万人
高齢化率	19.8%	地域包括支援センター数	27 か所
日常生活圏域数	5 圏域	認知症対応型通所介護整備数	27 か所
地域の特性	近隣に商店街やスーパーがあり、生活に便利な地域である。事業所は商店街を抜けた住宅街の一角にあり、静かな環境である。		

<事業所情報>

単位数・定員	1 単位・12 名
営業日	月、火、水、木、金、土、祝祭日
営業時間	8 : 30 ~ 17 : 30
加算の算定	入浴介助
介護保険外サービス	-
職員体制	常勤と非常勤の割合が半々程度
職員の研修受講状況	認知症対応型サービス事業管理者研修 : 1 名 認知症介護実践者研修 : 3 名 認知症介護指導者研修 : 1 名 認知症ケア専門士研修 : 1 名
昼食の提供	法人外の業者と契約し、取り寄せをしている
通所型サービスが担うべき役割	・デイサービスだけで認知症の人やご家族を支えることができるわけではないので、地域住民を含めた多職種との連携を積極的に行う。 ・在宅介護を行っている家族を支えていく。

<利用者：構成比> *平成 25 年 9 月末現在

男女比	男性 : 24.0%	女性 : 76.0%
80 歳以上利用者の割合	60.0%	
要介護度	要支援 1、2 : 0.0%	要介護 1 : 0.0%
	要介護 3 : 28.0%	要介護 4 : 24.0%
		要介護 2 : 8.0%
		要介護 5 : 40.0%
利用者の同居状況	1 人暮らし : 9.1%	配偶者と二人暮らし : 22.7%
	子供等と同居 : 68.2%	その他 : 0.0% (日中独居 : 31.8%)

○ **事業所の理念・目標**

理念：(現在職員と共に作成中)

目標「その人の有する能力に応じ、自立した日常生活が送れるような支援を目指す」

○ **個別ケアを実践するために特に重点的にアセスメントしている部分**

・家族にライフヒストリーやセンター方式の一部を渡し、アセスメントに活用している。

○ **通所介護計画作成時に気を配っていること**

・ケアマネジャーからの目標だけでなく、家族や本人の意向を取り入れるようにしている。

○ **日々の支援で特に気を配っていること**

・本人がやりたいことを取り入れるようにしている。

・本人から希望を聞くことが難しい場合には、どのような支援が必要かを様々な視点から考えるようにしている。

○ **送迎時に心がけていること**

・帰宅前の段階で感情の昂ぶりや不安感の強い様子が見られるときには、安心して帰宅できる状態になるまで待ち、それから送るようにしている。

・準備ができていない場合には時間を改めて迎えに行ったり、送った時にいるはずの家族がいない場合には、一度利用者連れて事業所に戻り、家族の帰宅を待ってから再度送るようにしている。

○ **家族・介護者支援**

・送迎時に直接相談を受けたり、話を聴くことを大切にしている。

・電話での個別相談を受けている。

・連絡ノートの記載欄を大きくとり、ご家族が伝えたいことや聞きたいことなどを書きやすいようにしている。

○ **事業所の特長（研究者の視点）**

・角地のビルの1階にあり、大きなガラスから太陽の光がさんさんと入る明るいデイサービスです。

・他のサービスとの連携を大切にしており、お泊りサービスやショートステイを初めて利用される方には、デイサービスでの様子や支援方法を文書にして情報提供したり、ケースによっては、家族やケアマネジャーの承諾の上、主治医と直接やり取りをし、デイサービスでの様子をお伝えしたりしています。

・デイサービスでうまくいっているアクティビティ等を家族に伝えています。

<事業所連絡先>

住所	154-0022 東京都世田谷区梅丘 1-59-9 第2ツノダビル1階
連絡先	03-5426-3478
担当者	佐藤 勝宣
同業の皆様へ一言！	この国の素敵な未来を作るために、皆で力を合わせ前進していきましょう！！

認知症対応型通所介護	単独型	所在地	東京都杉並区
株式会社 Professional Works デイサービスつむぎ			



<事業所のある自治体情報>

人口	約 54.7 万人	65 歳以上人口	約 11.4 万人
高齢化率	20.9%	地域包括支援センター数	20 か所
日常生活圏域数	7 圏域	認知症対応型通所介護整備数	22 か所
地域の特性	一部高級住宅地が並ぶ地域であり、駅前には栄えているが、少し歩くと閑静な住宅街が続く。事業所は JR 西荻窪駅が近く、近隣に商店も多いため、買い物等生活に便利な場所である。		

<事業所情報>

単位数・定員	1 単位・12 名
営業日	月、火、水、木、金、土
営業時間	8:30～17:30
加算の算定	入浴介助、若年性認知症受入、延長
介護保険外サービス	－
職員体制	ほぼ常勤
職員の研修受講状況	認知症対応型サービス事業管理者研修：2 名 認知症介護実践者研修：4 名、認知症介護リーダー研修：2 名 認知症介護指導者研修：1 名、認知症ケア専門士研修：1 名
昼食の提供	利用者と職員と一緒に調理（毎回）
通所型サービスが担うべき役割	<ul style="list-style-type: none"> ・できること、やれることを見極めて引き出すこと。発揮する機会と活躍する場面を作る。 ・日常の中での他者とのつながり、社会とのつながりを大切にする ・日常生活（今まで通りに続けられる）と帰宅後の安定につながる支援

<利用者：構成比> *平成 25 年 9 月末現在

男女比	男性：21.6%	女性：73.9%	
80 歳以上利用者の割合	60.9%		
要介護度	要支援 1、2：0.0%	要介護 1：30.4%	要介護 2：21.7%
	要介護 3：17.4%	要介護 4：17.4%	要介護 5：13.0%
利用者の同居状況	1 人暮らし：17.4%	配偶者と二人暮らし：21.7%	
	子供等と同居：61.0%	その他：0.0%	(日中独居：80.0%)

○ **事業所の理念・目標**

・「願いと共に歩く」

○ **個別ケアを実践するために特に重点的にアセスメントしている部分**

- ・最初の3か月をかけて、じっくり本人を観察し、アセスメントしている
- ・転倒等のリスクの確認

○ **通所介護計画作成時に気を配っていること**

・役割や充実感がもてるような過ごし方ができる

○ **日々の支援で特に気を配っていること**

・まずは信頼関係を築き、自然な形で馴染み関係や存在となる。その上で本人が持っている力を把握し、今、目の前の本人の状態をモニタリングし（力を発揮できる状況か、焦っていないか、不安になっていないかなどを確認）、その人の「今」においてベストのパフォーマンスを引き出す。

- ・認知症の人の自立支援（自助、互助、公助）
- ・主体は利用者本人であり、介護職員は黒子的サポートを行う
- ・整容、身だしなみ等、人としての扱いをぞんざいにしない
- ・できないことやわからないことから、間違いや場違を晒すことに発展する前にさりげなくサポート

○ **送迎時に心がけていること**

・利用者と家族それぞれの表情やしぐさの変化等、普段との違いがないかを意識して観察している

○ **家族・介護者支援**

- ・連絡ノートにどのような情報を書いてほしいかをあらかじめ家族に確認し、ほしい情報を伝えている
- ・家族の事情によるリクエスト（送迎時間の変更等）は断らない
- ・家族が認知症に対する理解を深められるよう、利用者の様子を伝えるときに工夫している

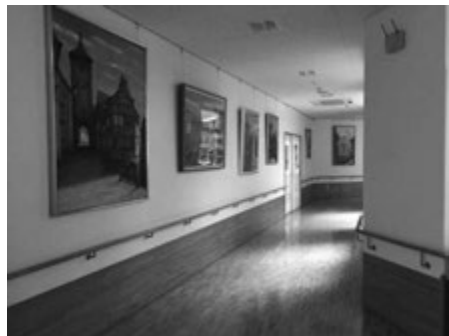
○ **事業所の特長（研究者の視点）**

- ・民家を改修した事業所で、周囲の景色に溶け込んだ、とても落ち着く雰囲気です。
- ・毎日利用者と職員が一緒になってお昼ご飯とおやつ作りをしています。料理が得意な人はもちろん、これまで調理をしたことがない利用者たちも、食材を選んだり、包丁で切ったり、味付けをしたりと、活躍されています。
- ・お昼ご飯づくりを通じ、利用者一人一人が役割を持ち、お互いに助け合っています。

<事業所連絡先>

住所	167-0042 東京都杉並区西荻北 5-4-15
連絡先	03-5303-5770
担当者	島田 孝一
同業の皆様へ一言！	認知症専門だからこそ、尊厳の保持と自立支援を生活目線から取り組みましょう！

認知症対応型通所介護	併設型	所在地	東京都町田市
社会福祉法人町田市福祉サービス協会 おりづる苑もりの			



<事業所のある自治体情報>

人口	約 42.6 万人	65 歳以上人口	約 10.4 万人
高齢化率	24.5%	地域包括支援センター数	12 か所
日常生活圏域数	5 圏域	認知症対応型通所介護整備数	25 か所
地域の特性	東京郊外のベッドタウンとして発展した地域で、都会的なエリアもありながら、昔の地形もそのまま残っている。介護事業所や施設が多く、市内でも地域差があり、圏域ごとに特色が大きく異なる。		

<事業所情報>

単位数・定員	2 単位・24 名
営業日	月、火、水、木、金、土、祝祭日
営業時間	8 : 30 ~ 17 : 00
加算の算定	入浴介助
介護保険外サービス	—
職員体制	非常勤の割合が高い
職員の研修受講状況	認知症対応型サービス事業管理者研修 : 1 名 認知症介護実践者研修 : 2 名
昼食の提供	外部委託
通所型サービスが担うべき役割	<ul style="list-style-type: none"> ・即効性のある支援から長期的なものまで、家族支援を徹底的かつ継続的に行う。 ・家族が崩壊しないように目を配る。 ・家族・介護者への認知症の症状への理解を促すアドバイスを行う。 ・デイサービスが、本人を取り巻く様々な情報発信の場であるようにする。 ・過度・過剰な介護に気を付ける。

<利用者：構成比> *平成 25 年 9 月末現在

男女比	男性 : 20.8%	女性 : 79.2%	
80 歳以上利用者の割合	75.5%		
要介護度	要支援 1、2 : 0.0%	要介護 1 : 18.9%	要介護 2 : 18.9%
	要介護 3 : 28.3%	要介護 4 : 24.5%	要介護 5 : 9.4%
利用者の同居状況	1 人暮らし : 17.0%	配偶者と二人暮らし : 35.8%	子供等と同居 : 47.2%
		その他 : 0.0%	(日中独居 : 15.1%)

○ 事業所の理念・目標

法人の基本理念である「その人らしくよく生きる」を基本とし、利用者、介護者、他事業所、職員間の横のつながりを大切にする。

○ 個別ケアを実践するために特に重点的にアセスメントしている部分

- ・本人の希望や家族の考えを明確にし、すぐできることなど、優先順位をつける。
- ・疾患や症状等の基本情報の他、それまでの生活歴や趣味など、その人の人間像についてもできる限り情報収集する。

○ 通所介護計画作成時に気を配っていること

- ・本人・家族の思いをデイでかなえるための方法や注意点を具体的かつ端的に文章化する。
- ・複数のスタッフがケアに携わるので、誰が読んでも理解できるような表現を心がける。

○ 日々の支援で特に気を配っていること

- ・利用前にスタッフ全員で居宅介護計画書を含むプランの読み合わせを行っている。

○ 送迎時に心がけていること

- ・独居や日中独居の方の場合、電気や戸締り、服薬の確認などを行っている。
- ・送り時に「すぐに〇〇さんが帰ってきますよ」「もう少しするとヘルパーさんが来ますよ」等、本人が安心するような声かけをしている。
- ・家族がいる場合には、その日にあった楽しいエピソードを必ず伝えるようにしている。

○ 家族・介護者支援

- ・デイサービスの利用が安定してきたら、ケアマネジャーを通じ、他のサービスへの橋渡しの手助けを行っている。
- ・連絡ノートや必要時の電話、配布物などを最大限に活用し、日ごろからの人間関係を大切にしている。

○ 事業所の特長（研究者の視点）

- ・特養と一体となった総合施設の1階にあり、廊下に特養の利用者様が描かれた絵が展示されている（本格的な絵です）など、美術館を思わせる空間があります。
- ・2つのユニットは隣りあわせとなっており、行き来ができるようになっています。また、ユニットごとに利用者様の日中の過ごし方が異なり、その方にあったユニットをご紹介します。

<事業所連絡先>

住所	194-0022 東京都町田市森野 4-8-39
連絡先	042-724-0034
担当者	平本 佳暢
同業の皆様へ一言！	2単位ならではの特色があります。是非一度、見学にお越し下さい。

認知症対応型通所介護	単独型	所在地	東京都国立市
医療法人社団つくし会 やがわデイサービスセンター			



<事業所のある自治体情報>

人口	約 7.4 万人	65 歳以上人口	約 1.6 万人
高齢化率	21.5%	地域包括支援センター数	1 か所
日常生活圏域数	1 圏域	認知症対応型通所介護整備数	4 か所
地域の特性	国立駅周辺は住宅地で、南武線より南側の地域は昔ながらの農家が多いなど、地域性の違いがある。事業所は駅から徒歩 3 分程度のところにあり、周囲にお店や公園、資料館などがあり、便利なところである。		

<事業所情報>

単位数・定員	2 単位・24 名
営業日	月、火、水、木、金、土
営業時間	9 : 00 ~ 18 : 00
加算の算定	入浴介助、若年性認知症受入
介護保険外サービス	-
職員体制	常勤と非常勤の割合が半々程度
職員の研修受講状況	認知症対応型サービス事業管理者研修 : 1 名 認知症介護実践者研修 : 2 名
昼食の提供	職員と利用者が一緒に調理している/法人外の業者と契約し取り寄せ
通所型サービスが担うべき役割	・本人のことを知り、不安や孤立感を取り除けるような関係を築く ・生活の中での生きがいとなる場所になる (第 2 の家、居心地の良い場所) ・役割を持っていただくことで、自信や前向きな気持ちになってもらう (有する能力に応じた自立支援) ・認知症の人を支える家族の変化に気づく

<利用者：構成比> *平成 25 年 9 月末現在

男女比	男性 : 27.3%	女性 : 72.7%	
80 歳以上利用者の割合	81.8%		
要介護度	要支援 1、2 : 0.0%	要介護 1 : 31.8%	要介護 2 : 15.9%
	要介護 3 : 25.0%	要介護 4 : 13.6%	要介護 5 : 13.6%
利用者の同居状況	1 人暮らし : 27.3%	配偶者と二人暮らし : 18.2%	
	子供等と同居 : 52.3%	その他 : 2.3%	(日中独居 : 13.6%)

○ **事業所の理念・目標**

＜法人の基本理念＞

- ・ 24 時間住民に寄り添い生活を支える、
- ・ 先取りした組織内統合
- ・ 地域の医療・介護の基盤となる、
- ・ 自立支援、互助支援、共生支援

＜事業所理念＞ 当認知症対応型やがわデイサービスセンターは、個々人のはぐくんでこられた生活史を大切にしながら、現在お持ちの能力を（残存能力）最大限発揮していただき、地域で日常生活をおくっていただけるように支援いたします。センターでは、身体や言葉による拘束あるいは施設などの管理行為は排除し、お一人お一人の状態像にあったきめ細やかな介護サービス計画（ケアプラン）を作成し支援させていただきます。また、認知症になられた高齢者が最後まで人としての尊厳を損なわず、プライバシーに十分配慮し、その人らしい生き方ができるよう家族支援を踏まえてサポートしてまいります。

○ **個別ケアを実践するために特に重点的にアセスメントしている部分**

- ・ 生活歴、現在の生活の様子、医療上の注意点

○ **通所介護計画作成時に気を配っていること**

- ・ 在宅生活につながる計画書づくり

○ **日々の支援で特に気を配っていること**

- ・ 本人のできることに、好きなこと、得意なことを探し、取り入れる。
- ・ 買い物や調理、洗濯など、家事作業を取り入れている。
- ・ 公園やスーパー、資料館など地域に出ることや季節を感じることに、歩く機会を多く持つ。
- ・ ケアマネジャーや多職種への連絡を密にとっている。

○ **送迎時に心がけていること**

- ・ 送迎時間を短くするために、ピストン送迎をしている。
- ・ 家族の表情や言動に注意している。

○ **家族・介護者支援**

- ・ 毎月第一日曜日に開催されている認知症カフェに誘っている。
- ・ 相談があれば、丁寧に対応し、電話などで家族の話を聞くようにしている。

○ **事業所の特長（研究者の視点）**

- ・ 駅近くの大変便のよいところに立地し、通りがかりの人が認知症に関するちょっとした相談にみえることもあるそうです。
- ・ 生活を踏まえた支援を通じ、利用者が意欲的になり、「手伝うわよ」と自ら声をあげてくれたそうです。

＜事業所連絡先＞

住所	186-0003 東京都国立市富士見台 4-8-2
連絡先	042-571-8500
担当者	村松 伸晃、坂本 明子
同業の皆様へ一言！	認知症の方達が笑顔で、生きがいの持てる場所になるように頑張っていきましょう！

認知症対応型通所介護	併設型	所在地	東京都立川市
社会福祉法人至誠学舎立川 至誠キートスケアセンター デイホーム			



<事業所のある自治体情報>

人口	約 17.8 万人	65 歳以上人口	約 4 万人
高齢化率	22.8%	地域包括支援センター数	6 か所
日常生活圏域数	圏域	認知症対応型通所介護整備数	10 か所
地域の特性	東京の基地の町として栄え、現在は集合住宅が多い。事業所は最寄りの JR 駅からバスで 15 分ほどのところにあり、交通の便は悪くはないが、近隣にスーパーや商店街などはなく、買い物に不自由である。古くから住んでいる大きな農家と、団地に住む人が混在している地域でもある。		

<事業所情報>

単位数・定員	1 単位・12 名×2 24 名
営業日	月、火、水、木、金、土、祝祭日
営業時間	8：30～17：30
加算の算定	入浴介助、個別機能訓練、口腔機能向上
介護保険外サービス	－
職員体制	非常勤の割合が高い
職員の研修受講状況	認知症対応型サービス事業管理者研修：1 名 認知症介護実践者研修：1 名
昼食の提供	専門の業者と契約し、建物内で調理してもらったものを提供
通所型サービスが担うべき役割	・「自立と自律の援助」有する能力を最大限に活用できるよう、サービス中に個々のニーズを見出すことが大切。 ・普通の生活を継続するという視点。 ・歩行の維持は在宅生活を継続する上で重要なことと捉え、個々にあったリハビリを実施する。

<利用者：構成比> *平成 25 年 9 月末現在

男女比	男性：37.9%	女性：62.1%	
80 歳以上利用者の割合	67.2%		
要介護度	要支援 1、2：1.7%	要介護 1：27.6%	要介護 2：25.9%
	要介護 3：24.1%	要介護 4：15.5%	要介護 5：5.2%
利用者の同居状況	1 人暮らし：5.2%	配偶者と二人暮らし：37.9%	
	子供等と同居：56.8%	その他：0.0%	(日中独居：17.2%)

○ **事業所の理念・目標**

「明るく健康で豊かな高齢期の生活づくり」

「まことの心」と「人間尊重」

2つの理念を至誠ホームの精神として掲げ、地域の中で「高齢者福祉文化」を創造する。

○ **個別ケアを実践するために特に重点的にアセスメントしている部分**

・本人の満足度と実施しているケアのニーズがあっているか

○ **通所介護計画作成時に気を配っていること**

・本人と家族の要望の確認

・目標は達成できる範囲で立てるようにしている

○ **日々の支援で特に気を配っていること**

・アロママッサージ等、香りと共に精神的にリラックスできる空間づくりをしている。

・状態変化等に、家族とケアマネジャーに随時報告している。

・医療面でのアドバイスについては、看護師が実施している。

○ **送迎時に心がけていること**

・歩行状態や体調等の把握。

・家族からの情報聴取を心がけている。

○ **家族・介護者支援**

・年に3回程度、家族会を開催している。

・日常生活における介護、環境整備、手続き等に関する相談を受け付けている。

・悩みや相談を受けたときや送迎時に様子が見えたときには、速やかに回答できるようにしている。

○ **事業所の特長（研究者の視点）**

・法人として、ボランティアの参加を積極的に推進しており、訪問当日も「麻雀ボランティア（男性）」が参加し、利用者3名（共に男性）と卓を囲んでいました。

・他、お散歩ボランティアや喫茶ボランティアなどがいらっしやり、利用者はその日のアクティビティを通じてボランティアと関わったり、ちょっとお茶のみに行くなどしています。

・通所介護と認知症対応型通所介護のフロアが共有できるようになっており、アクティビティを同時に行うことができますが、利用者一人一人の興味や体調等に合わせご案内しており、混乱等はみられません。

<事業所連絡先>

住所	東京都立川市幸町 4-14-1
連絡先	042-538-2322
担当者	齋藤 久美子
同業の皆様へ一言！	普通の生活を基本に、一貫性を持って利用者の方と共に歩んでいきたいです。

認知症対応型通所介護	単独型	所在地	神奈川県鎌倉市
株式会社さくらコミュニティーケアサービス ケアサロンさくら			



<事業所のある自治体情報>

人口	約 17.7 万人	65 歳以上人口	約 5.3 万人
高齢化率	29.6%	地域包括支援センター数	7 か所
日常生活圏域数	5 圏域	認知症対応型通所介護整備数	5 か所
地域の特性	三浦半島の西側の付け根に位置し、歴史と由緒のある市である。昭和 40 年代に宅地造成された新興住宅地を複数抱えており、それらの地区では高齢者数が増加している。事業所は住宅地の一角にある商店街にあり、目の前には八百屋さんがあり、近くに公園があるなど、地域との交流を持ちやすい立地である。		

<事業所情報> *平成 25 年 9 月現在

単位数・定員	1 単位・8 名
営業日	月、火、水、木、金、祝祭日
営業時間	8 : 30 ~ 17 : 30
加算の算定	入浴介助、若年性認知症受入
介護保険外サービス	認知症カフェ
職員体制	常勤と非常勤の割合がほぼ同じ
職員の研修受講状況	認知症対応型サービス事業管理者研修 : 1 名 認知症介護実践者研修 : 2 名、認知症ケア専門士研修 : 2 名
昼食の提供	常勤職員が調理
通所型サービスが担うべき役割	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて家族を支援し、ケアマネジャーや他の事業者と協働しながら、24 時間在宅で安心して暮らす支援を行う。 ・本人家族が暮らしやすいよう、地域住民に対して必要な助言や提案を行う。 ・利用者と共に積極的に地域社会に参加し、地域住民と交流し、認知症の正しい理解と住民同士の支え合いの一助となるよう努める。

<利用者：構成比> *平成 25 年 9 月末現在

男女比	男性 : 64.3%	女性 : 35.7%	
80 歳以上利用者の割合	50.0%		
要介護度	要支援 1、2 : 0.0%	要介護 1 : 7.1%	要介護 2 : 21.4%
	要介護 3 : 35.7%	要介護 4 : 28.6%	要介護 5 : 7.1%
利用者の同居状況	1 人暮らし : 5.2%	配偶者と二人暮らし : 37.9%	子供等と同居 : 56.9%
		その他 : 0.0%	(日中独居 : 17.2%)

○ 事業所の理念・目標

ケアサロンさくらは、認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けられるように、ご利用者の尊厳を大切にしながら、地域とつながるケアを実践します。地域に開かれた介護事業所として、地域の特性に配慮し、必要に応じて地域の人々と協働しながら総合的なサービスの提供に努めます。

○ 個別ケアを実践するために特に重点的にアセスメントしている部分

- ・本人の様子（サービス利用時や自宅での様子、心身の状態）
- ・利用者の意向や自立への意欲を把握する。
- ・体調などの身体の状態、認知症状については、特に丁寧に把握する。

○ 通所介護計画作成時に気を配っていること

- ・個別の機能訓練のメニューや個別の介助方法、支援内容がある場合、具体的に記載している。
- ・本人の意向は、できるだけ本人の「言葉」を記載するようにしている。

○ 日々の支援で特に気を配っていること

- ・希望する人は、午前中近隣の公園に行き、下肢筋力維持を目的に運動（体操、サッカーのパス交換、キャッチボールなど）を行っている。子供たちと一緒にサッカーをすることもある。
- ・自己表現の手段と機能訓練を目的とした個別アートを実施し、作品は地域の展示会に出品している。
- ・見当識障害がある人でも、「定食スタイル（例：煮魚定食、肉じゃが定食）」といった見覚えのある食事にする事で、「わかる」食事となっている。
- ・低栄養や虚弱体質を改善するため、栄養のバランスと食事量に気を配り、魚肉などのたんぱく質の量を大目に提供している。

○ 送迎時に心がけていること

- ・近隣の利用者は、送迎時に職員と一緒に歩いて送迎し、自宅周辺の地理的状況を理解したり、視空間認知力の維持を図るように配慮している。

○ 家族・介護者支援

- ・毎月第一土曜日にオレンジカフェ（認知症カフェ）を開催し、利用者や家族だけでなく、民生委員や地域住民、行政職員やまだサービスを利用していない認知症の人も参加している。
- ・家族の疑問にはいつでも回答するようにしている。

○ 事業所の特長（研究者の視点）

- ・男性利用者の割合が女性よりも高いデイサービスです。外での運動を取り入れたり、食事量を大目にするなど、体力のある方への支援が充実しています。
- ・地域とのかかわりをとても大切にしており、近隣の商店街の人たちも事業所に大変協力的です。

<事業所連絡先>

住所	247-0053 神奈川県鎌倉市今泉台 4-11-2
連絡先	0467-39-5489
担当者	稲田 秀樹 携帯：090-7810-4033
同業の皆様へ一言！	認知症デイを地域作りの拠点にしよう！！

認知症対応型通所介護	単独型	所在地	京都府長岡京市
医療法人社団千春会 せんしゅんかいデイサービスセンター風車			



<事業所のある自治体情報>

人口	約 8 万人	65 歳以上人口	約 2 万人
高齢化率	24.6%	地域包括支援センター数	2 か所
日常生活圏域数	4 圏域	認知症対応型通所介護整備数	2 か所
地域の特性	交通の便もよく、近くに JR と阪急電車が通っており、日常生活に支障はない。昔から住んでいる人の多い地域と、新しく開発された地区とがある。		

<事業所情報>

単位数・定員	2 単位・24 名
営業日	月、火、水、木、金、土、日、祝祭日 (お正月含め 365 日営業)
営業時間	10 : 00 ~ 17 : 00
加算の算定	個別機能訓練、若年性認知症受入、口腔機能向上、延長、入浴介助
介護保険外サービス	利用時間延長
職員体制	非常勤の割合が高い
職員の研修受講状況	認知症対応型サービス事業管理者研修 : 2 名 認知症介護実践者研修 : 2 名、認知症介護リーダー研修 : 2 名 認知症介護指導者研修 : 1 名
昼食の提供	法人内の別の部署で調理したものを提供
通所型サービスが担うべき役割	デイサービスを利用されている時間帯のみを考えるのではなく、家での過ごし方や夜間、利用されない日などを総合的に考え、よりよい支援を行う。

<利用者：構成比> *平成 25 年 9 月現在

男女比	男性 : 30.5%	女性 : 69.5%	
80 歳以上利用者の割合	76.3%		
要介護度	要支援 1、2 : 0.0%	要介護 1 : 5.1%	要介護 2 : 23.7%
	要介護 3 : 33.9%	要介護 4 : 28.8%	要介護 5 : 8.5%
利用者の同居状況	1 人暮らし 16.9%	配偶者と二人暮らし : 30.5%	
	子供等と同居 : 52.5%	その他 : 0.0%	(日中独居 : 6.8%)

○ **事業所の理念・目標**

法人理念：「患者・利用者の自立を支援し、良質な医療、看護、介護を提供する。仕事に誇りと責任を持ち、社会人としての向上を目指す。事業の充実により、住民の健康増進と地域社会の発展に寄与する。」

事業所目標：「個別ケアに特化し、地域の認知症デイサービスとしての機能を確立する」

○ **個別ケアを実践するために特に重点的にアセスメントしている部分**

・生活歴を重点的にきいている。

○ **通所介護計画作成時に気を配っていること**

・食事、排泄、入浴、移動、整容・更衣の5項目の評価をすると共に、FIMやDASCを実施し、介護計画を作成している。

○ **日々の支援で特に気を配っていること**

・管理者が定期的に家庭訪問を行っている。

・FIMやDASCといった客観的な指標を使っている。

・身体介護はマニュアル化しており、それに則って実施している。

○ **送迎時に心がけていること**

・家族との関わりや様子を把握する。

・こちらから必ず「お変わりありませんか」ということを聞くようにしている。

○ **家族・介護者支援**

・デイサービス中に体調が悪く見受けられたときには、帰宅後に電話を入れ、様子を伺うようにしている。

・家庭訪問を通じ、長い時間家族と話すことで、本音やこれからのことなど、具体的な考えを聞くことができる。

・個々の利用者の介護技術に関する助言を行っている。

・いつでも電話で相談をしてよいということを伝えている。

○ **事業所の特長（研究者の視点）**

・FIMやDASCといった客観的指標を使い、利用者の現在の様子を踏まえながら、日常ケアを実践しています。

・記録がきちんと残されているため、何がどのように変化してきたのかを把握でき、専門職間での検討に役立ちます。

・家庭訪問を定期的に行うことで、家族との信頼関係を築くと同時に、家族の本音を聞き出し、利用者の要望とすり合わせをしながら、日々のケアを提供しています。

<事業所連絡先>

住所	617-0828 京都府長岡京市馬場井料田 4-7
連絡先	075-952-6503
担当者	塩井 大翼、吉原 直樹
同業の皆様へ一言！	一緒に認知症ケアの取り組みを頑張っていきましょう。

通所介護	小規模型	所在地	愛媛県松山市
株式会社クロス・サービス デイサービス来住 (きし)			



<事業所のある自治体情報>

人口	約 51.7 万人	65 歳以上人口	約 12.7 万人
高齢化率	24.5%	地域包括支援センター数	10 か所
日常生活圏域数	40 圏域	認知症対応型通所介護整備数	19 か所
地域の特性	愛媛県のほぼ中央に位置し、四国で最大の人口を擁している。気候は温暖で市内中心部は路面電車が走るなど、便利であるが、市街地を離れると車が必要である。焦点、スーパー、コンビニなども多く、暮らしやすい。		

<事業所情報>

単位数・定員	1 単位・15 名 (月～金。土は 20 名)
営業日	月、火、水、木、金、土、祝祭日
営業時間	8 : 30～17 : 30
加算の算定	入浴介助
介護保険外サービス	－
職員体制	非常勤の割合が高いが 1 日 6～7 名の職員を配置している
職員の研修受講状況	－
昼食の提供	法人内の別の部署で調理したものを提供
通所型サービスが担うべき役割	<ul style="list-style-type: none"> ・その人の望む暮らし方や生き方を知る ・家族との情報交換を細やかに行う ・ケアマネジャーや関係機関との情報交換をタイムリーに行う ・利用者が地域住民のひとりとして活躍できる機会を作る

<利用者：構成比> *平成 25 年 9 月末現在

男女比	男性：35.0%	女性：65.0%	
80 歳以上利用者の割合	75.0%		
要介護度	要支援 1、2：10.0%	要介護 1：25.0%	要介護 2：25.0%
	要介護 3：30.0%	要介護 4：10.0%	要介護 5：0.0%
利用者の同居状況	1 人暮らし：31.6%	配偶者と二人暮らし：21.1%	
	子供等と同居：47.4%	その他：0.0%	(日中独居：5.3%)

○ **事業所の理念・目標**

「心温まる 笑顔あふれる もうひとつの我が家、目指します」

○ **個別ケアを実践するために特に重点的にアセスメントしている部分**

- ・生きがいや生活の楽しみ、性格や社会性等
- ・利用を通じて本人を知り、表情や積極的に話してくれることなどを丁寧にみる

○ **通所介護計画作成時に気を配っていること**

- ・居宅サービス計画書に沿ってプランを作成する。
- ・具体的な援助方法を書く

○ **日々の支援で特に気を配っていること**

- ・一人ひとりの日々の状態を把握し、本人の意向を確認しながら、アクティビティを実施している。
- ・午前の様子を見て、午後のアクティビティにつなげる。
- ・ものづくりでは、利用者が普段使うものを作るようにし、お便りで事前に紹介することで、家族との会話に役立ててもらおう。

○ **送迎時に心がけていること**

- ・利用者がデイサービスに来る価値を感じてもらえるよう、「行ってみよう」と思われる関わりを持つ。

○ **家族・介護者支援**

- ・「やまびこ広場」という地域交流の場を設け、その際にゆっくり話したり、話を聴くようにしている。
- ・家族に家での状態を聞き、必要なアドバイスを行う。
- ・家族からの相談に丁寧に対応するようにしている。
- ・地域の拠点として、いろいろな人が出入りできるようにしている。

○ **事業所の特長（研究者の視点）**

- ・障害のデイサービスと一体的に行っており、それぞれの利用者が、それぞれの利用者を助けたり、思いやったりしている様子が見られます。
- ・「垣根のない人間関係づくり」に力を入れており、隣の建物では児童デイサービスも実施しているなど、若い世代から高齢者まで、いろいろな人が事業所を訪れています。
- ・利用者の笑顔をととても大切にしている、デイサービスで出しているお便りには、とてもいい表情をした利用者の写真がたくさん並んでいます。

<事業所連絡先>

住所	791-1102 愛媛県松山市来住町 1057-1
連絡先	089-990-3111
担当者	長山 英明
同業の皆様へ一言！	地域の人たちの心強い拠り所として通所介護サービスの役割や機能を進化させていきましょう。

認知症対応型通所介護	単独型	所在地	愛媛県愛南町
公益財団法人正光会 デイサービスセンター「結い」じょうへん			



<事業所のある自治体情報>

人口	約 2.3 万人	65 歳以上人口	約 8,700 人
高齢化率	37.8%	地域包括支援センター数	1 か所
日常生活圏域数	5 圏域	認知症対応型通所介護整備数	2 か所
地域の特性	海と山に囲まれ、気候も温暖であるが、半島部や山間部では町の中心まで 1 時間ぐらいかかるところもある。鉄道は通っておらず、バスも限られており、通っていない地域もあるため、車がないと日常生活を送ることができないため、車が運転できない高齢者は病院や買い物に行くことが難しい。		

<事業所情報> *平成 25 年 9 月現在

単位数・定員	1 単位・12 名
営業日	月、火、水、木、金、土、日、祝祭日
営業時間	9 : 30 ~ 17 : 00
加算の算定	入浴介助、若年性認知症受入
介護保険外サービス	-
職員体制	常勤の割合が高い
職員の研修受講状況	認知症対応型サービス事業管理者研修 : 2 名 認知症介護実践者研修 : 2 名、認知症ケア専門士研修 : 1 名
昼食の提供	調理専門の非常勤を採用している
通所型サービスが担うべき役割	・認知症の人はもちろん、その家族とも密にコミュニケーションを図れるように努め、家族をも支援していく意識を持つ。 ・通所型サービスを利用することで、地域の方々とのかかわりを分断することがないように支援を行う。 ・送迎時等、利用者が住んでいる地域の人とも良い関係性を築けるよう努め、その地域のことや地域でどう過ごされているかなど、情報収集を行う。

<利用者：構成比> *平成 25 年 9 月末現在

男女比	男性 : 25.7%	女性 : 74.3%	
80 歳以上利用者の割合	65.7%		
要介護度	要支援 1、2 : 0.0%	要介護 1 : 24.2%	要介護 2 : 21.2%
	要介護 3 : 21.2%	要介護 4 : 24.2%	要介護 5 : 9.1%
利用者の同居状況	1 人暮らし : 11.4%	配偶者と二人暮らし : 20.0%	
	子供等と同居 : 68.6%	その他 : 0.0%	(日中独居 : 37.1%)

○ **事業所の理念・目標**

<法人理念> ご利用者さまのために。

<結いの理念> 年をとっても障がいをもって、住み慣れた場所で安心して暮らせる場づくりとみんなで支え合う地域づくり。

○ **個別ケアを実践するために特に重点的にアセスメントしている部分**

- ・ 本人の生活歴（家族ではわからないことも多いので、利用中の会話の中で聞き取ることが多い）
- ・ 精神的な部分（日内変動、気持ちが落ち込むようなこと等）を家族のわかる範囲で聞いている。

○ **通所介護計画作成時に気を配っていること**

- ・ ケアマネジャーのケアプランと大きくかけ離れないように気を付けつつ、事業所の特色を活かしながら包括的な支援ができるように気を付けている。
- ・ 人生の先輩であり厳しい時代を生き抜いてきたということを念頭におき、文言等に気を付けている。

○ **日々の支援で特に気を配っていること**

- ・ 他者との交流については、他の利用者やスタッフとの交流だけでなく、隣で行っているサロンに遊びに来る小学生とも交流を図り、異世代交流ができるように努めている。

○ **送迎時に心がけていること**

- ・ 気持ちよく来所し、帰宅していただけるよう、車中でも密にコミュニケーションを図っている。
- ・ 利用当日や近況など、家族やヘルパーから情報をもらっている。

○ **家族・介護者支援**

- ・ 家族会は年に1～2回開催しており、家族の他、ケアマネジャーや地域包括の職員が参加している。
- ・ 不安が強い時や困っていることなど、ケアマネジャーに報告し、早期に解決するよう努めている。
- ・ 相談があるときには、時間をかけてゆっくり話を聴くようにしている。

○ **事業所の特長（研究者の視点）**

・ 事業所の建物は元ホテルで、一階（元ロビー）に認知症対応型通所介護と地域交流サロンがあります。事業所と地域交流サロンは、入り口は一応別になっていますが、中はガラス張りの扉で仕切られており、お互いの様子が常に見えます。

・ 地域交流サロンには、近くにある小学生が学校帰りに立ち寄り、宿題をやったり友達とゲームをしながら、楽しく過ごしています。事業所の利用者とも交流を持っています。

<事業所連絡先>

住所	798-4131 愛媛県南宇和郡愛南町城辺甲 2934 番
連絡先	0895-72-2716
担当者	青木 明美
同業の皆様へ一言！	ご利用者様はもちろん、人と人、地域とのつながりを大切にしています。

通所介護	小規模型	所在地	長崎県佐世保市
有限会社 RAIMU デイサービスセンター来夢			



<事業所のある自治体情報>

人口	約 25.5 万人	65 歳以上人口	約 7.2 万人
高齢化率	28.3%	地域包括支援センター数	9 か所
日常生活圏域数	圏域	認知症対応型通所介護整備数	か所
地域の特性	地形的に平地が少なく、細くて狭い道路が多い。交通の便が悪く、車がないと移動が難しい。そのため、買い物に不便を感じている高齢者が多い。		

<事業所情報>

単位数・定員	1 単位・10 名
営業日	月、火、水、金、土、祝祭日
営業時間	8 : 30 ~ 17 : 30
加算の算定	入浴介助
介護保険外サービス	宿泊、利用時間延長、朝食・夕食の提供 *平成 26 年 9 月の実績はなし
職員体制	看護師、調理師以外はすべて常勤
職員の研修受講状況	認知症介護実践者研修：1 名、認知症介護指導者研修：1 名
昼食の提供	調理専門の非常勤が調理
通所型サービスが担うべき役割	<ul style="list-style-type: none"> ・慣れ親しんだ地域で継続的に暮らしていく支援をすること(友人との交流、趣味活動、見慣れた風景等、これまでの生活の延長線上に介護サービスの利用がある) ・家族の介護負担の軽減。利用日以外や時間外であっても気軽に介護相談に応じると共に、相談できる関係性を構築する。

<利用者：構成比> *平成 25 年 9 月末現在

男女比	男性：21.1%	女性：78.9%
80 歳以上利用者の割合	84.2%	
要介護度	要支援 1、2：15.8%	要介護 1：47.4%
	要介護 2：21.2%	要介護 3：10.5%
	要介護 4：5.3%	要介護 5：0.0%
利用者の同居状況	1 人暮らし：52.6%	配偶者と二人暮らし：5.3%
	子供等と同居：42.1%	その他：0.0% (日中独居：15.8%)

○ **事業所の理念・目標**

<理念> その人らしさを大切に、生きがいをもった生活を送れるよう継続して支援する。

<目標> ・情報の共有化：利用者の情報を正確に把握し、個々の問題を共有したチームケアの実践。

- ・知識・技術の向上：自己研鑽により、信頼されるケアを実践。
- ・待遇の向上：常に尊敬と感謝の気持ちを抱き、誇りの持てるケアを実践。

○ **個別ケアを実践するために特に重点的にアセスメントしている部分**

- ・本人のこれまでの生活

○ **通所介護計画作成時に気を配っていること**

- ・自立支援に留意しながら、自己決定ができるよう、支援している。
- ・ケアマネジャーとの連携を大切にしている。

○ **日々の支援で特に気を配っていること**

- ・季節感を室内に取り入れるようにしており、壁画等は常に利用者と共に共同制作している。

○ **送迎時に心がけていること**

- ・利用者の状態把握（身体、服装、および家全体）に努め、変化に気づく観察力を磨く。
- ・家族との会話を大切にし、不安や不満など、些細なことでも聞き取る。
- ・家族との信頼関係の構築をめざし、1人5分はかけて話をする。
- ・自宅内の様子を観察し、暮らし方が安定しているかアセスメントする。

○ **家族・介護者支援**

- ・家族にはいつでも介護相談に応じる旨を伝え、信頼関係の構築に努めている。
- ・家族からの相談を待つだけでなく、こちらからも介護に悩んでいることはないか、将来への不安などを聞きとるようにしている。

○ **事業所の特長（研究者の視点）**

- ・独居の方の割合が大変高く、事業所内での支援にとどまらず、在宅生活継続に必要なあらゆる支援を心がけています。
- ・事業所社長が地域の友人・知人と強固なネットワークを形成しており、その関係を使ってお互いがお互いの事業を助け合っています。例えば、事業所の利用者で、家にちょっとした工事が必要な場合、社長の友人の大工がさっさと行って直すなどしています。逆に、認知症に関すること、介護に関する相談などがネットワーク内であれば、事業所社長がいつでも対応しています。こういったネットワークを通じ、利用者も事業所も共に助け合いの仲間に入っています。
- ・地域に認知症に対する理解がないという意見を聞きますが、「だからこそ自分たち専門職がいる」と捉え、地域に積極的に出て行かれています。

<事業所連絡先>

住所	858-0923 長崎県佐世保市日野町 732 番地
連絡先	0956-28-4649
担当者	森 俊輔
同業の皆様へ一言！	いずれ来る自分の未来をつくるため、まさに今、介護の在り方を見つめよう。 待ちの福祉から町の福祉へ。

通所介護	通常規模型	所在地	福岡県筑後市
株式会社パーソン・サポート絆 デイサービス絆			



<事業所のある自治体情報>

人口	約 4.9 万人	65 歳以上人口	約 1.2 万人
高齢化率	24.6%	地域包括支援センター数	1 か所
日常生活圏域数	3 圏域	認知症対応型通所介護整備数	4 か所
地域の特性	古くから交通の要所で、気候は温暖、肥沃な土地、恵まれた水を利用した農業が盛んである。筑後市社会福祉協議会を中心に、地域住民の助け合いが盛んで、福祉バスを運用したり、見守り、助け合い事業やボランティア支援活動が行われている。		

<事業所情報>

単位数・定員	1 単位・24 名
営業日	月、火、水、木、金、土、日、祝祭日
営業時間	8 : 30～17 : 30
加算の算定	個別機能訓練、若年性認知症受入、入浴介助
介護保険外サービス	宿泊、利用時間延長、朝食・夕食の提供
職員体制	すべて常勤
職員の研修受講状況	認知症対応型サービス事業管理者研修：2 名 認知症介護実践者研修：2 名、認知症介護リーダー研修：1 名 認知症介護指導者研修：1 名
昼食の提供	法人外の業者と契約し、取り寄せ
通所型サービスが担うべき役割	・利用者のリズムや在宅での暮らし方に合わせる。 ・BPSD の発生するメカニズムへの関心とその予防策の提示、発生中の関わり方を提示する（家族へのアドバイス）。 ・本人と一緒に地域に出たり、今までの縁を継続できるよう、利用者の友人にもかかわりを持つ。

<利用者：構成比> *平成 25 年 9 月末現在

男女比	男性：32.4%	女性：67.6%
80 歳以上利用者の割合	64.9%	
要介護度	要支援 1、2：5.4%	要介護 1：18.9% 要介護 2：24.3%
	要介護 3：29.7%	要介護 4：16.2% 要介護 5：5.4%
利用者の同居状況	1 人暮らし：5.4%	配偶者と二人暮らし：24.3%
	子供等と同居：56.8%	その他：13.5% (日中独居：29.7%)

○ **事業所の理念・目標**

縁を知り、縁を創り、縁を支えるという「支縁」をめざし、法人を設立し、かけがえのないあなたと時を刻み、支え合い、生きていくという理念をかがげ、「その人らしく」この場にいること、心を表現できる場を目指したデイサービス。認知症ケアの最後のとりでとして、認知症の人の在宅支援を目指す。

○ **個別ケアを実践するために特に重点的にアセスメントしている部分**

- ・在宅での暮らし方、リズムと、認知症の告知がされているか否か
- ・家族のストレス状況（心理ステップのどのあたりにいるか）

○ **通所介護計画作成時に気を配っていること**

- ・サービス提供中のリスク予想について
- ・家族と共有できる内容にする

○ **日々の支援で特に気を配っていること**

- ・予定はあまり立てず、職員一人一人が工夫し、利用者と共に一日を過ごす。
- ・利用者ごとのアクティビティ計画書を作成し、意識して実践する。

○ **送迎時に心がけていること**

- ・急がせない。拒否のある時や準備ができていない時は、別の便で再度迎えに行く。
- ・家族との信頼関係の構築をめざし、家族と5分程、時間をかけて話をする。
- ・自宅内の様子を観察し、暮らし方が安定しているかをアセスメントする。

○ **家族・介護者支援**

- ・家族会は、事業所全体の家族会と若年性認知症介護家族の会がある。月1回ずつ開催をしており、家族、利用者の他、ケアマネジャーや地域包括の職員、市町村や社協職員も参加している。
- ・認知症カフェを常時開催し、いつでも気軽に寄れるようにしたり、アロママッサージを実施している。
- ・利用日以外に訪問し、自宅内の環境について確認する。
- ・家族はチームの一員として仲間に誘っていく。

○ **事業所の特長（研究者の視点）**

- ・事業所の横の建物に、認知症カフェと相談室、アロママッサージの部屋があり、利用者家族や地域の人がいつでも気軽に立ち寄れる場所になっています。
- ・今回の訪問中も、家族がお茶を飲みに来たり、顔を見せに来ていました。「通りかかったから・・・」という理由で、気軽に立ち寄れる場所になっています。

<事業所連絡先>

住所	833-0023 福岡県筑後市馬間田 151 番地 1
連絡先	0942-65-7804
担当者	川島 豊輝
同業の皆様へ一言！	地域の中で、認知症の人とそのご家族が、安心して暮らせるために、通所系サービスの役割と、今後の可能性を信じています。

認知症対応型通所介護	単独型	所在地	佐賀県鹿島市
一般社団法人ゆうあい社会福祉事業団 デイサービスゆうあい古枝			



<事業所のある自治体情報>

人口	約 3.1 万人	65 歳以上人口	約 8,600 人
高齢化率	27.7%	地域包括支援センター数	1 か所
日常生活圏域数	1 圏域	認知症対応型通所介護整備数	7 か所
地域の特性	東は海が広がり、西は山に囲まれた地域で、平地が少ないため、住宅は密集している。また、山間部に集落も多い。公共交通機関は少なく、車がないと生活が成り立たない。気候は穏やかで、自然災害が少ない地域である。		

<事業所情報>

単位数・定員	1 単位・12 名
営業日	月、火、水、木、金、土、日、祝祭日
営業時間	8 : 00 ~ 21 : 00
加算の算定	入浴介助
介護保険外サービス	利用時間延長、朝食・夕食の提供
職員体制	調理員以外はすべて常勤
職員の研修受講状況	認知症介護実践者研修 : 1 名、認知症介護リーダー研修 : 1 名
昼食の提供	職員と利用者が一緒に調理している
通所型サービスが担うべき役割	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の介護の相談窓口であり、認知症の理解を促すための情報発信の場 ・家族介護の負担軽減。 ・認知症の人が生活を送る 24 時間を意識しての支援を提供。 ・他事業所の多職種との連携。

<利用者：構成比> *平成 25 年 9 月末現在

男女比	男性 : 21.4%	女性 : 78.6%	
80 歳以上利用者の割合	78.6%		
要介護度	要支援 1、2 : 0.0%	要介護 1 : 21.4%	要介護 2 : 21.4%
	要介護 3 : 35.7%	要介護 4 : 14.3%	要介護 5 : 7.1%
利用者の同居状況	1 人暮らし : 7.1%	配偶者と二人暮らし : 7.1%	
	子供等と同居 : 85.7%	その他 : 0.0%	(日中独居 : 28.6%)

○ **事業所の理念・目標**

- ・認知症の人が安心して在宅生活を続けていただけるよう、お手伝いします。
- ・その人らしさを大切に、笑顔で過ごせる環境づくりに努めます。
- ・家族や地域との交流を深めます。

○ **個別ケアを実践するために特に重点的にアセスメントしている部分**

- ・本人の生活歴、既往歴
- ・本人を取り巻く環境（自然・家庭・地域など）
- ・認知症の原因疾患と BPSD

○ **通所介護計画作成時に気を配っていること**

- ・本人、家族の意向や思いを大切にしている。
- ・本人の日常の暮らしぶりを知り、取り入れている。
- ・専門用語を使わず、具体的に書く。
- ・ケアマネジャーと共に計画を考え、ケアマネジャーの意見を取り入れる。

○ **日々の支援で特に気を配っていること**

- ・毎日、その日の利用者に合わせた環境のレイアウトを行っている。
- ・24 時間の生活を前提に、利用時のかかわりを考えている。
- ・一人ひとりの利用者に合わせた利用スタイル。

○ **送迎時に心がけていること**

- ・本人や家族、環境に変化がないかを確認（観察）する。
- ・家族との情報共有。

○ **家族・介護者支援**

- ・家族会は年に1～2回開催しており、家族の他、ケアマネジャーや地域包括の職員が参加している。
- ・送迎時のコミュニケーションを大切に、意識して会話をしている。
- ・利用者宅内の支援（配薬や戸締り・火元の確認、排せつ介助等）

○ **事業所の特長（研究者の視点）**

- ・母体法人に医療機関があることから、医療との連携がととてもよく、多職種の見地でケアが提供されています。
- ・認知症に関する勉強会を法人をあげて行っており、初級、中級、上級編にわけて実施しています。

<事業所連絡先>

住所	849-1311 佐賀県鹿島市古枝甲 999 番地 11
連絡先	0954-69-5588 *お問い合わせは 0954-63-5533 まで yuai@po.saganet.ne.jp
担当者	通所サービス責任者 石井大輔
同業の皆様へ一言！	地域における認知症対応型通所介護の役割は大きいと思います。 皆さん一緒に頑張って地域を支えていきましょう！！

平成 26 年度 厚生労働省老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業）
地域で生活する認知症の人の生活を支える在宅サービスのあり方に関する調査研究事業
報告書

平成 27 年 3 月

発 行 社会福祉法人浴風会 認知症介護研究・研修東京センター
住 所 東京都杉並区高井戸西 1-12-1
電 話 03-3334-2173（代表） FAX 03-3334-2156